



始





訂正增補再版

農學士明石弘著

蠶桑害虫篇

東京 明文堂藏版

大正  
3. 6. 19  
內交





恩師々木忠次郎先生肖像



謹

奉

理學博士 佐々木忠次郎先生

著者



序

友人明石弘君嘗テ本所ニ在ルノ日主ラ蠶桑ニ關スル害蟲ノ  
調査研究ニ從フ頃日其成績ヲ集輯シ蠶桑害蟲篇ト題シテ世  
ニ公ニセントス事與時其宜シキヲ得タルモノト謂ツベシ  
凡ソ蠶桑ノ業ヲ營ミテ圓滿ナル結果ヲ期セントセバ必ズヤ  
先ツ其病蟲害ヲ避クルノ工夫ヲ要シ其病蟲害ヲ避ケントセ  
ハ必ズヤ先ツ病蟲害其物ヲ解セザルベカラズ本書ハ則チ此  
目的ヲ有シテ著ハサレタルモノ是豈事ノ宜シキヲ得タルモ  
ノニアラスヤ

近時栽桑養蠶ノ増殖ニ伴ヒ各種ノ病蟲害亦漸ク繁多ヲ加フ  
ルノ狀アリテ之カ豫防驅除ノ講究愈々急要ヲ感ズルモノア



リ本書ハ又此目的ヲ有シテ著ハサレタルモノ是豈時ノ宜シキヲ得タルモノニアラスヤ  
然リ而シテ本書ノ價值ハ獨彼ニ止ラスシテ尙茲ニ在リ他ナシ其記載概ネ自家ノ調査實驗ニ出テタルコト是ナリ世間蠶桑ニ關スル著書乏シカラスト雖モ主トシテ自家ノ新研究ニ據リテ成ルコト本書ノ如キニ至リテハ則鮮シ是余カ特ニ本書ヲ推稱スル所以ナリトス聊所感ヲ一言シテ著者ノ需ニ應スト云フ

本多岩次郎

## 自序

輓近應用昆蟲學の發達著く、各種作物の害蟲に關する著述も亦頗る多し、然るに獨り蠶桑の害蟲に對しては殆んど一卷の成書なく、蠶場桑圃空しく害蟲の跳梁に委するの觀あり、實に是れ聖世の恨事ならずとせんや、予自ら揣らず、曩に本書を公にし畧ほ蠶桑の害蟲を網羅するに努めたり、幸に江湖の好誼を得て今や初刊絶本を告げ更に重版の機に接せり、然るに爾來幾星霜研究の新なるものに乏しからず、茲に増補訂正の要を生じ、從來研究の足らざるものは加へ、記事圖版の完からざるものは補ひ、別に數個の新種と挿圖とを増し、以て再び江



湖に見ゆるに至れり、書中猶盡さざるの點は更に研鑽を加へ  
完璧を期せんと欲す。

大正三年五月

著者識

凡例

- 一、本書ハ蠶兒繭及ビ桑樹ニ關スル害蟲類ヲ網羅シ尙昆蟲以外ノ動物ニ就キテモ  
大要ヲ記述セリ
- 一、本書ノ記事ハ主トシテ著者ノ調査研究ニ據リタレトモ蠶業講習所農事試驗場  
其他ノ發刊ニ係ル報告書ヨリ引用セルモノ亦尠シトセズ
- 一、本書ノ挿圖ハ二三ヲ除ク他ハ悉ク著者ノ原圖ニシテ他ヨリ轉載セルモノニ  
ハ其旨ヲ附記セリ
- 一、本書ヲ編スルニ當リ學友理學士三宅恒方丹羽四郎ノ兩氏ヨリハ多大ノ援助ヲ  
得タリ茲ニ謹デ謝意ヲ表ス

明治四十二年五月

著者識



# 蠶桑害蟲篇目次

## 總論

害蟲ノ意義

昆蟲ノ形態

昆蟲ノ變態

昆蟲ノ分類

害蟲ノ増減

害蟲ノ驅除豫防

害蟲ノ飼育法

## 各論

蠶兒ノ害蟲

蠶蛆蠅

多化性蠶蛆蠅

一

一

三

七

七

九

一〇

一五

一七

一七

一七

二八



クハノカヒガラムシ	六七
クハカキカヒガラムシ	七五
ヒモワタカヒガラムシ	七七
ワタカヒガラモドキ	八一
ツノロウムシ	八四
コナカヒガラムシ	八八
ワタカヒガラムシ	九一
クハカタカヒガラムシ	九三
クハジラミ	九四
オホヨコバイ	九七
オホツマガグロヨコバイ	一〇〇
キオホヨコバイ	一〇二
ヒシモンヨコバイ	一〇四
チマダラヨコバイ	一〇六

ブランコケムシ寄生蠅	三六
オホハサミムシ	三八
マダラカマドコホロキ	四〇
繭ノ害蟲	四一
コメノシマメイガ	四一
トビカツラブシムシ	四四
ケアカカツラブシムシ	四四
ハナマルカツラブシムシ	四九
コクヌストウモドキ	五一
アカクビホシカムシ	五四
桑樹ノ害蟲	五五
クダマキモドキ	五七
アライトトンボ	五九
桑ノスリツブス	六三



イラムシガ……………一四八

キハラゴマダラヒトリ……………一五一

フタスチヒトリ……………一五四

ウススデモンヒトリ……………一五八

アカハラヒトリ……………一六一

クハゴマダラヒトリ……………一六五

クロバネヒトリ……………一七一

フトスデモンヒトリ……………一七五

ヒトリガ……………一七七

クハノエダシヤクトリガ……………一八〇

クハノツノシヤクトリガ……………一九〇

クハノトゲシヤクトリガ……………一九三

クハノアオシヤクトリガ……………一九七

ススヘリエダシヤクトリガ……………二〇一

アオバハゴロモ……………一〇八

ベッコウハゴロモ……………一一〇

スケバハゴロモ……………一一二

テングスケバ……………一一三

シロオビアハフキムシ……………一一七

クハノクサガメ……………一二〇

クハヒメハマキムシガ……………一二二

クハハマキムシガ……………一二五

クハイトヒキハマキムシガ……………一二八

クハアトキバネハマキ……………一三四

クハノトビイロハマキムシガ……………一三六

クハノメイガ……………一三九

スカシノメイガ……………一四三

クハノミノガ……………一四五



ヨトウガ……………二〇五

オホケンモン……………二〇九

ナシケンモン……………二一三

クハコノガ……………二一六

キンケムシガ……………二一九

ヒメツノケムシガ……………二二五

クハノシントメタマバへ……………二三〇

クハハマダラタマバへ……………二三五

キリウジカバンボ……………二三九

ヒメコガネ……………二四三

クロコガネ……………二四五

ピロウドコガネ……………二四七

チャイロピロウドコガネ……………二四九

セマダラコガネ……………二五一

餘論

ヒメゾウムシ……………二五二

クハゾウムシ……………二五五

クハノヒメシンクヒ……………二五七

クハノヒメコシンクヒ……………二五八

クハノカミキリムシ……………二六〇

トラフカミキリムシ……………二六八

ホシカミキリ……………二七一

キボシカミキリ……………二七三

クハハムシ……………二七五

ヒメハムシ……………二七八

カサハラハムシ……………二八〇

昆蟲以外ノ有害動物……………二八三

赤壁蝨……………二八三



附錄

桑ノ黄壁蝨	二八四
蛭蟪	二八六
蝸牛	二八九
野鼠	二九〇
桑樹害蟲驅除年中行事	二九五
蠶桑害蟲加害時期一覽	三〇七

蠶桑害蟲篇目次終

農學士 明石 弘 著



總論

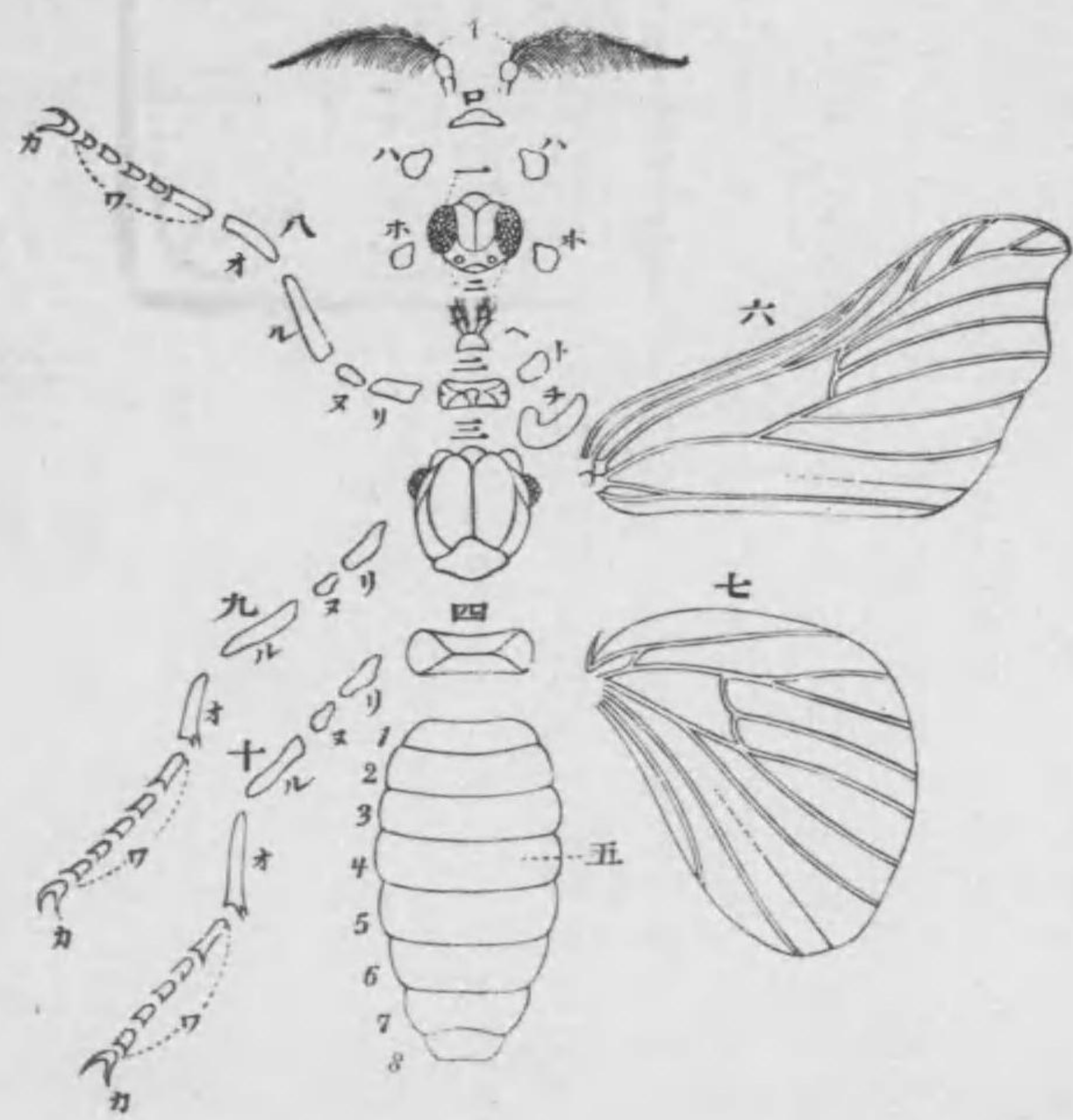
害蟲ノ意義

害蟲トハ吾々人類ニ直接害ヲナスモノ或ハ間接ニ損害ヲ與フル昆蟲ヲ云ヒ昆蟲トハ動物學上節足門昆蟲綱ニ屬スル六脚蟲ヲ云フ而シテ昆蟲ハ一生中或時期ニ於テハ有害ニシテ或時期ニ於テハ有益ナルモノアリ又其生活ノ狀況ニヨリ有益トナリ又有害トナルコトアリ例ヘバ蜻蛉ハ多數ノ害蟲類ヲ食シ吾人ニ益ヲ與フレトモ其幼蟲即チ水蠶ノ時代ニ於テハ養魚池ニ現ハレ魚卵稚魚ヲ食シテ害ヲナスコトアリ又多化性蠶蛆ハ害蟲ニ寄生シテ之レヲ斃ス場合ニハ益蟲ナレトモ蠶兒ニ寄生スル場合ニハ害蟲トナル故ヲ以テ一種ノ昆蟲ニ對シ其益蟲ナルカ將タ害蟲ナルカヲ判斷スル場合ニハ其人類ニ及ボス利害ノ輕重ニヨリテ區別スル

總論 害蟲ノ意義



總論 害蟲ノ意義



第一圖 蠶蛾ノ外景(擴大)

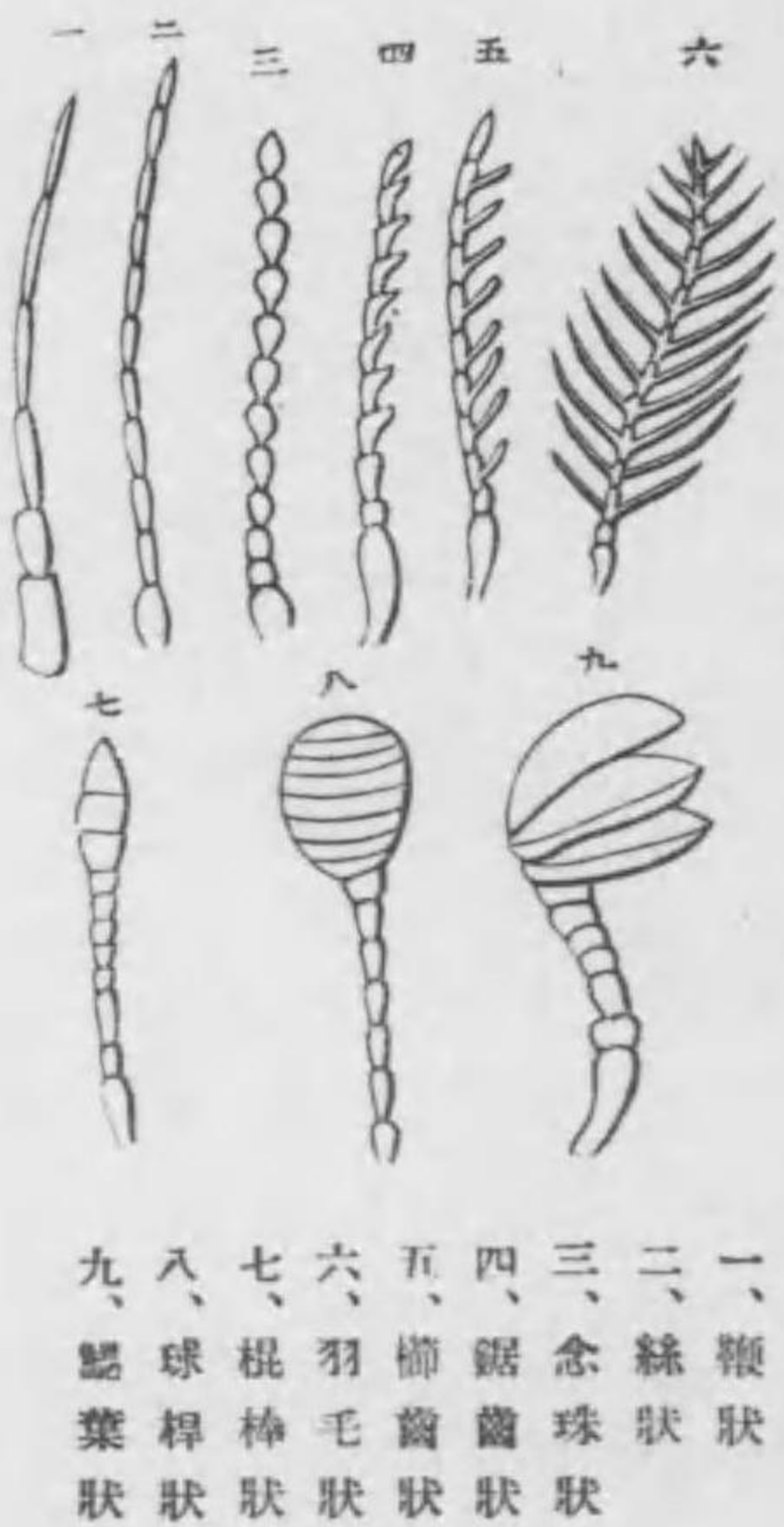
(高橋氏ニ據ル)

- 一、頭部
- 二、前胸
- 三、中胸
- 四、後胸
- 五、腹部
- 六、前翅
- 七、後翅
- 八、前脚
- 九、中脚
- 十、後脚
- イ、觸鬚
- ロ、上唇
- ハ、複眼
- ヘ、下唇及下唇鬚
- ト、顎片
- チ、肩片
- ホ、下顎
- ニ、回轉節
- リ、腰節
- ス、回轉節
- ル、大腿節
- オ、脛節
- カ、爪
- 至八環節

ヲ適當トス然レトモ以下述ベントスル蠶桑害蟲トハ便宜上蠶及桑樹ニ對シ苟モ害ヲナス昆蟲ハ總テ之レヲ網羅セリ

昆蟲ノ形態

第二圖 觸鬚ノ種類(擴大) 著者原圖



昆蟲ノ形態ハ千差萬別一ナラズト雖モ其體軀ヲ頭部胸部腹部ノ三トナスコトヲ得

頭部ハ最モ前方ニアル部分ニシテ眼、觸鬚及口具ヲ有ス

眼ハ視感ヲ掌ル器官ニシテ單眼、複眼ノ二種アリ單眼ハ其構造簡單ナレトモ複眼ハ甚ダ複雑ニシ

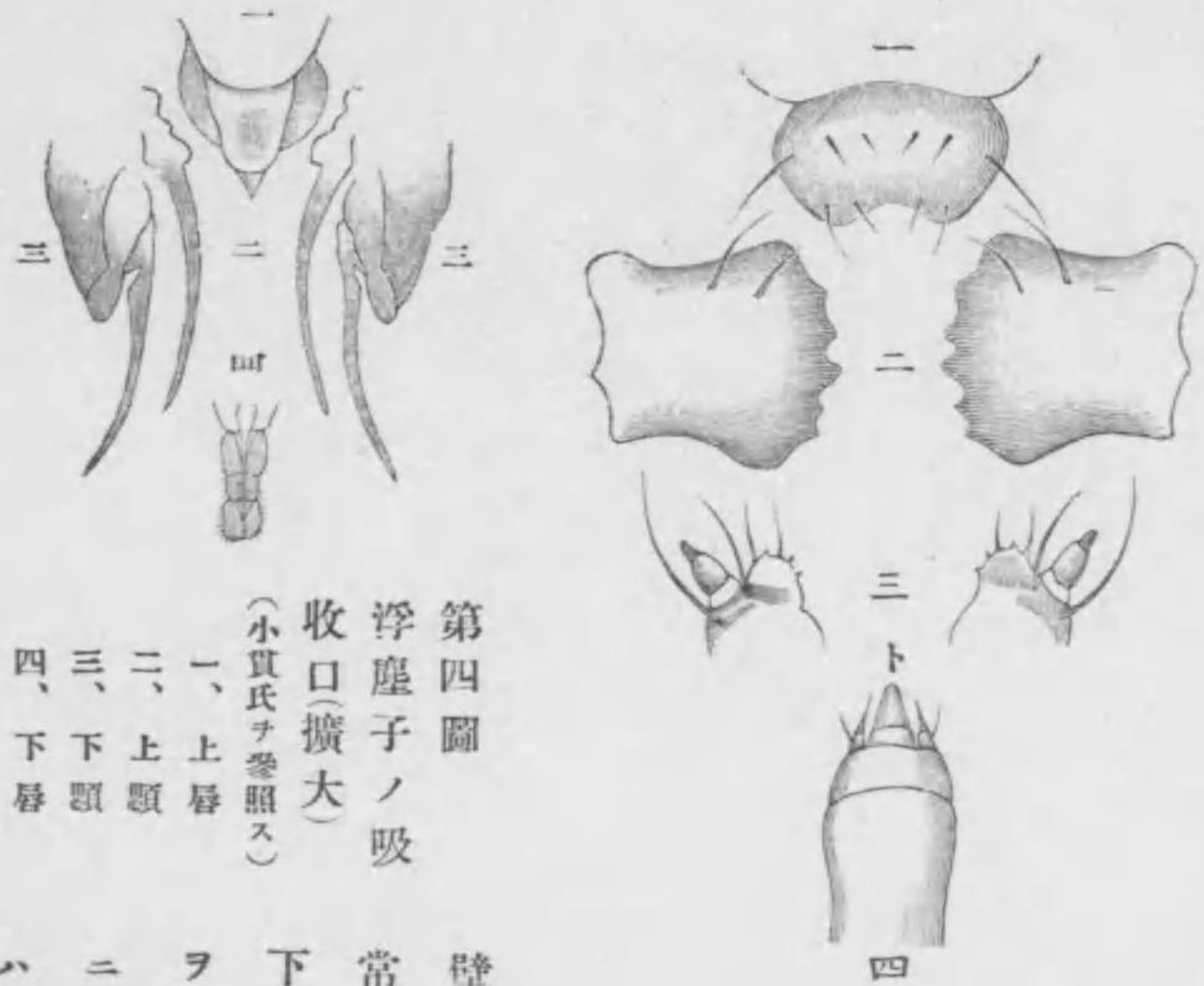
テ恰モ多數ノ單眼ノ集合ヨリ成レルガ如シ

觸鬚ハ主トシテ觸感及臭感ヲ掌ル器官ナレトモ亦聽官ヲ掌ルコトアリ而シテ其簡單ナルモノハ小形ノ棍棒狀、鞭毛狀等ヲナセトモ複雑ナルモノニ至リテハ羽毛

總論 昆蟲ノ形態



總論 昆蟲ノ形態



第四圖 浮塵子ノ吸 收口(擴大) (小貫氏ヲ參照ス)

壁ヲ蔽ヒ其下ニ一對ノ上顎アリ上顎ハ通 常ヨク發達シ其質硬ク食物ヲ嚙ムニ適ス 下顎ハ一對上顎ノ下方ニアリテ咀嚼ノ用 ヲナスコトアレトモ退化シテ食物ノ口外 ニ溢出スルヲ防クニ止マルモノアリ下唇 ハ口腔ノ下壁ヲナシ膜質ニシテ繭ヲ營ム

第三圖 狀鱗葉狀、鋸齒狀等ヲナ スモノアリ而シテ一般 ニ雄ニ於テハ雌ヨリモ 發達セリ口具ハ採食ノ 具ニシテ咀嚼口ト吸收 口トアリ咀嚼口ハ上唇 口トアリ下唇ノ四部ヨ リ成リ上唇ハ口腔ノ上 壁ヲ蔽ヒ其下ニ一對ノ上顎アリ上顎ハ通 常ヨク發達シ其質硬ク食物ヲ嚙ムニ適ス 下顎ハ一對上顎ノ下方ニアリテ咀嚼ノ用 ヲナスコトアレトモ退化シテ食物ノ口外 ニ溢出スルヲ防クニ止マルモノアリ下唇 ハ口腔ノ下壁ヲナシ膜質ニシテ繭ヲ營ム

昆蟲ニ於テハ之レニ吐絲口ヲ開ク尙下顎及下唇ニハ小鬚ヲ有シ感觸ノ作用ヲナ ス吸收口トハ液體ヲ食トスル昆蟲ニ於テ存スルモノニシテ口具ハ管狀トナリ吸 收ニ適ス斯クノ如キ口具ヲ口吻ト云フ



第五圖 介殼ノ吸收口(擴大) (ス照參ヲ氏ケツロケ)

胸部 胸部ハ頭部ニ次テ位スル部分ニシテ前胸、中 胸、後胸ノ三環節ヨリ成リ各節一對ノ脚ヲ有シ中後 ノ兩胸節ニハ通常一對ノ翅ヲ有ス 脚ハ數個ノ環節ヨリ成リ體軀ニ接セル部分ヲ腰節 ト云ヒ之レニ次ク小片ヲ回轉節ト云ヒ次デ長大ナ ル大腿節脛節アリ數個ノ小環節ヨリ成ル蹠節ニ連 ル脚ノ先端ニハ一個乃至二個ノ爪ヲ有ス

第六圖 蠶蛾ノ脚(擴大) (著者原圖)

翅ハ通常前後二對ヲ有シ前翅ハ 一般ニ大形膜質ニシテ飛翔ノ用 ヲナセトモ甲蟲類ニ於テハ幅狹 ク其質硬化シテ後翅ヲ保護スル

總論 昆蟲ノ形態



第六圖 蠶蛾ノ脚(擴大) (著者原圖)

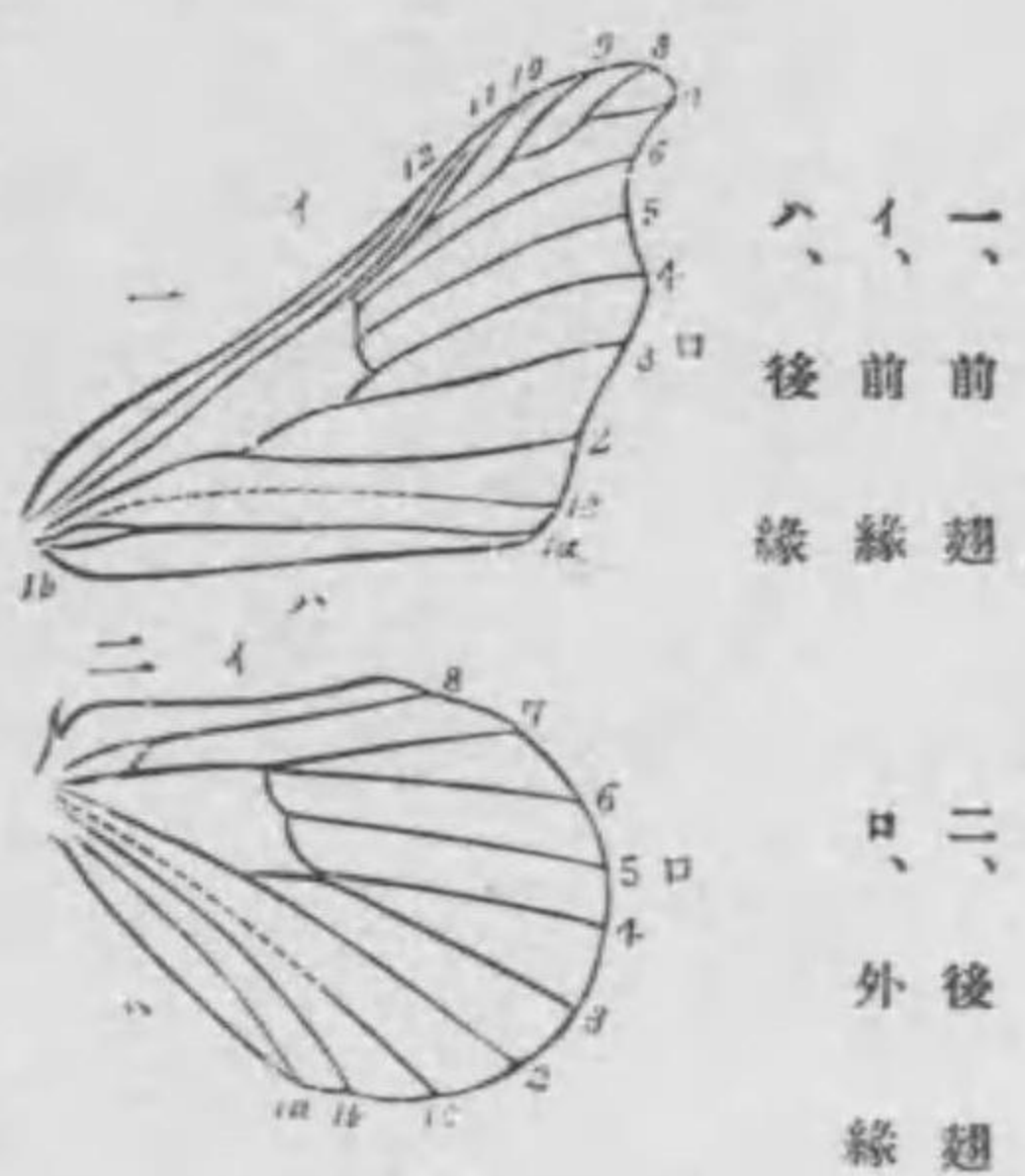


總論 昆蟲ノ形態

作用ヲナス斯クノ如ク變質セル前翅ヲ翅鞘ト云フ後翅ハ普通前翅ヨリ小形ナレドモ蜻蛉ノ如ク前翅ト同大ナルモノ甲蟲ノ如ク反テ前翅ヨリ大ナルモノアリ又蠅蚊ノ類ニ於テ後翅ハ圓頭棒狀ニ變形ス之レヲ平均棍ト云フ

第七圖 蠶蛾ノ翅擴大

(著者原圖)



フ此翅脈分布ノ狀態ハ分類上重要ナル事項トス  
腹部ハ胸部ニ次テ位シ數多ノ環節ヨリ成リ末端ニ交尾器若クハ產卵器ヲ

翅ハ略三角形ヲナシ體ニ附着セル部ヲ翅底尖端ヲ翅尖後端ヲ臀角ト云ヒ前方ヲ前緣後方ヲ後緣外方ヲ外緣ト云フ又翅ニハ翅脈ヲ有シ其前緣ニ沿フテ存セルモノヲ前緣翅脈之レニ次クヲ亞前緣翅脈中央ニ存スルモノヲ中央翅脈後緣ニ近キモノヲ臀翅脈其前方ニ存スルヲ肘翅脈ト稱ス又翅脈ノ後緣ニ近キモノヲ第一翅脈トシ順次前方ニ數フルコトアリ尙縱翅脈ト横翅脈トニヨリテ圓マレタル部分ヲ存スルトキハ之レヲ中室ト云

有ス

昆蟲ノ變態

昆蟲ハ一生中共其形態ヲ變ズルコトアリ之レヲ昆蟲ノ變態ト云ヒ卵ヨリ孵化シテ幼蟲、蛹、成蟲ノ三期ヲ明カニ區別シ得ルモノヲ完全變態ト云ヒ其區別明カナラザルモノヲ不完全變態ト云フ又稀ニハ卵ヨリ孵化シテ以來成長シ產卵スルニ至ルマデ全ク形態ヲ變ゼザルモノアリ之レヲ無變態ト稱ス例ヘバ蠶、蠅、蜂等ハ完全變態ノ昆蟲飛蝗、浮塵子、蜻蛉等ハ不完全變態ノ昆蟲ニシテ衣魚ハ無變態ノ昆蟲ナリトス而シテ此ノ變態ヲ一週スル期間ヲ昆蟲ノ一世代ト云ヒ一年一世代ヲ營ム昆蟲ヲ一化性ノ昆蟲ニ世代ヲ營ムモノヲ二化性ノ昆蟲ト云フ

昆蟲ノ分類

昆蟲類ヲ其形態習性等ニヨリ數個ノ部類ニ分ツ昆蟲ノ分類法ハ學者ニヨリ區々

總論 昆蟲ノ變態 昆蟲ノ分類



總論 昆蟲ノ分類

ニシテ現今尙一ニ歸セズト雖最モ普通ニ行ハル、カムストック氏ノ分類法ニ據  
レバ左ノ十九目トナシ

一、	彈尾目	Thysanura	衣魚跳蟲ノ類
二、	蜉蝣目	Ephemera	蜉蝣ノ類
三、	蜻蛉目	Odonata	蜻蛉ノ類
四、	積翅目	Plecoptera	カワゲラノ類
五、	白蟻目	Isoptera	白蟻ノ類
六、	嚙蟲目	Corrodentia	茶柱蟲ノ類
七、	食毛目	Mallophaga	鳥蝨ノ類
八、	疊翅目	Euplexoptera	蠨蛸ノ類
九、	直翅目	Orthoptera	蝗、蟀、蟋ノ類
十、	胞脚目	Plyspoda	スリツブスノ類
十一、	半翅目	Hemiptera	介殼蟲浮塵子ノ類
十二、	脈翅目	Neuroptera	草蜻蛉ノ類

十三、	蠅目	Mecoptera	蠅蟲ノ類
十四、	毛翅目	Trichoptera	石蠶ノ類
十五、	鱗翅目	Lepidoptera	蝶、蛾ノ類
十六、	雙翅目	Diptera	蠅、蚊ノ類
十七、	微翅目	Siphonaptera	蚤ノ類
十八、	甲翅目	Coleoptera	金龜子、天牛ノ類
十九、	膜翅目	Hymenoptera	蜂、蟻ノ類

目ヲ更ニ分チテ科トナシ科ヲ屬ニ分チ屬ノ内ニ種ヲ設ク時ニ目ノ次ニ亞目科ノ次ニ亞科種ノ次ニ變種ヲ設クルコトアリ而シテ凡テ昆蟲ハ所屬ノ屬名種名及命名者ノ名ヲ併記シテ其學名トナス例ハ、蠶ノ Bombyx mori L.、 Bombyx ハ屬名 mori ハ種名ニシテ「」ハ命名者 Linneノ略字ナリ

害虫ノ増減

害虫ノ發生ハ年ニヨリ甚ダシキ差アリ被害激甚ノ翌年必ズシモ加害猖獗ナラズ



## 總論 害虫ノ驅除豫防

氣候ノ順否天然敵ノ多少驅除ノ如何等之レガ原因ヲナス  
 昆虫類ハ天然ニ於テ寒氣、降雨、暴風、乾燥等ノ爲メニ斃死スルモノ多ク又鳥類、肉食  
 昆虫、寄生蟲、寄生菌ノ爲メ其生ヲ奪ハル、モノ少ナカラズ此等ヲ天然驅除ト云ヒ  
 人力ヲ以テ行フ驅除ヲ人爲驅除ト云フ  
 斯ノ如ク害虫ノ發生ハ年ニヨリ多少アレトモ之レヲ概論スルトキハ一年一年ト其  
 種類ト數トヲ増加シツ、アリ其原因一ニシテ足ラズト雖モ山林原野ノ開拓ニ伴  
 ヒ昆虫類ノ巢窟ヲ失ヒタルガ如キ耕地ノ擴大ニヨリ被害スベキ面積ヲ増シ損害  
 額ヲ増加セルガ如キ鳥類ノ捕獲ニヨリ天然敵ヲ減少シタルガ如キ交通機關ノ發  
 達ニ伴ヒ害虫ノ傳播ヲシテ容易ナラシメタルガ如キ其主ナルモノトス殊ニ桑樹  
 ニ就テハ栽培ノ結果葉質豐軟トナリ害虫類ノ嗜好ニ適シ新害虫ヲ加ヘタルハ  
 顯著ナル事實ナリトス

## 害虫ノ驅除豫防

害虫ヲ驅除スルニハ機械的ニ摘殺若クハ潰殺スルト化學的藥劑ニヨリ殺滅スル

トノ二法アリ又藥劑ヲ用ユルニモ粉末ノ儘撒布スルモノ溶液トナシテ灌注スル  
 モノ及瓦斯體トナシテ燻蒸スル法トアリ此等驅除劑ノ種類ハ實ニ夥多アレトモ  
 左記數種ハ製法容易ナルト價格廉ニシテ殺蟲ノ効果著シキトヲ以テ普ク使用セ  
 ラル、モノナリ

## 一、生石灰

粉末ノ儘撒布ス

## 二、石油乳劑

石油一升石鹼十二匁乃至十五匁ト水五合トヲ加熱シテ混和セルモノニシテ之レ  
 ヲ製スルニハ先ヅ鍋ニ水ヲ入レ之レニ細末トセル石鹼ヲ投入シ火爐ノ上ニテ熱  
 シ其沸煮セル頃又別ニ石油ヲ入レタル罐ヲ熱シ石油ノ沸騰スルヲ待チテ兩液ヲ  
 混シ攪拌、ポンプヲ以テ十分攪拌スルトキハ白色乳狀ノ半流動體トナル之レヲ石  
 油乳劑ノ原液ト稱シ使用ノ際五倍乃至三十倍ニ溫湯ヲ以テ稀釋ス但シ攪拌不充  
 分ナルトキハ數日ノ後石油ノ上層ニ分離スルコトアリ斯カルモノハ植物ノ嫩葉  
 ヲ侵害スル憂アルノミナラズ殺蟲ノ効果少ナキモノトス



## 總論 害蟲ノ驅除豫防

## 三、除蟲菊酒精浸出液

酒精一合水一合ノ混液ニ除蟲菊粉末十八匁ヲ浸漬シ一二晝夜ヲ經テ濾過シタルモノニシテ五倍乃至三十倍ニ適宜稀釋シテ用ユ

## 四、石灰硫黃合劑

水一斗ニ生石灰百二十匁乃至百六十匁硫黃華百二十匁ヲ混和シタルモノニシテ若シ生石灰ニシテ純粹ナレバ硫黃華ト同量ニテ足レリト雖通常販賣セラル、生石灰ニハ苦土或ハ鐵分ヲ含有スルヲ以テ不純物ノ量ニ應ジ適宜增量スルヲ要ス而シテ本劑ヲ調製スルニハ豫メ二個ノ煮釜ヲ用意シ生石灰ニ少許ヅ、ノ水ヲ加ヘ全ク消化セシメタル後之ヲ煮釜ニ移ス此際粗布ヲ以テ濾過スレバ一層可ナリ而シテ他ノ煮釜ニ於テ沸煮セシメタル熱湯三升ヲ取り之ヲ石灰水ニ注ギ能ク攪拌混和シ次デ豫メ飛散ヲ防グ爲メ少量ノ湯ヲ以テ泥狀トナシ置キタル硫黃華ヲ投入シ更ニ攪拌シツ、煮沸スルトキハ硫黃ノ化合スルニ從テ液ハ淡黃色ヲ呈シ漸次褐色ヲ増シ赤褐色トナリ終ニ赭色ニ變ズ斯クノ如クシテ凡ソ四五十分間煮沸シ漸次熱湯ヲ加ヘ液ノ全量ヲ一斗トナシ更ニ十分乃至二十分間煮沸シタル後

粗布ヲ以テ濾過シ其温熱ノ冷却セザル内噴霧器ヲ以テ撒布スベシ若シ時ヲ經テ使用スル場合ニハ其前再ビ加熱シテ沈澱ヲ溶解シタル後撒布スルヲ良トス

本劑ハ凡テ植物ノ休眠期ニ施用スベキモノニシテ發育盛ナル時期ニ之ヲ使用スレバ芽葉ヲ損傷スルノ虞アリ尙本劑ハ主トシテ介殼蟲ノ驅除ニ使用セラレ特効アルモノナレドモ亦病菌ニ對シテモ滅殺力強大ナルモノナリ

## 五、二硫化炭素

二硫化炭素ヲ皿ニ入レ之ヨリ自然ニ揮發スル有毒瓦斯ヲ以テ殺蟲スルモノニシテ密閉シ得ル室内ニ用ユ其用量ハ室内容積千立方尺ニ對シ三乃至五封度ニシテ燻蒸時間ハ二十四時間乃至三十六時間ヲ要ス二硫化炭素ハ火ヲ導キ易ク爆發スルノ性アレバ使用ノ際特ニ注意ヲ要ス

## 六、青酸瓦斯

本劑ハ主トシテ各種介殼蟲ノ驅除ニ用ユルモノニシテ苗木ニアリテハ瓦斯ノ漏洩セザル燻蒸室若クハ燻蒸箱ニ入レ又圃場ニ栽植セラレ、モノニアリテハ燻蒸用天幕ヲ蔽ヒ此内ニテ青酸瓦斯ヲ發生セシム而シテ此瓦斯ヲ發生セシムルニハ



總論 害蟲ノ驅除豫防

一千立方尺ノ空間ニ對シ左記ノ藥品ヲ要ス

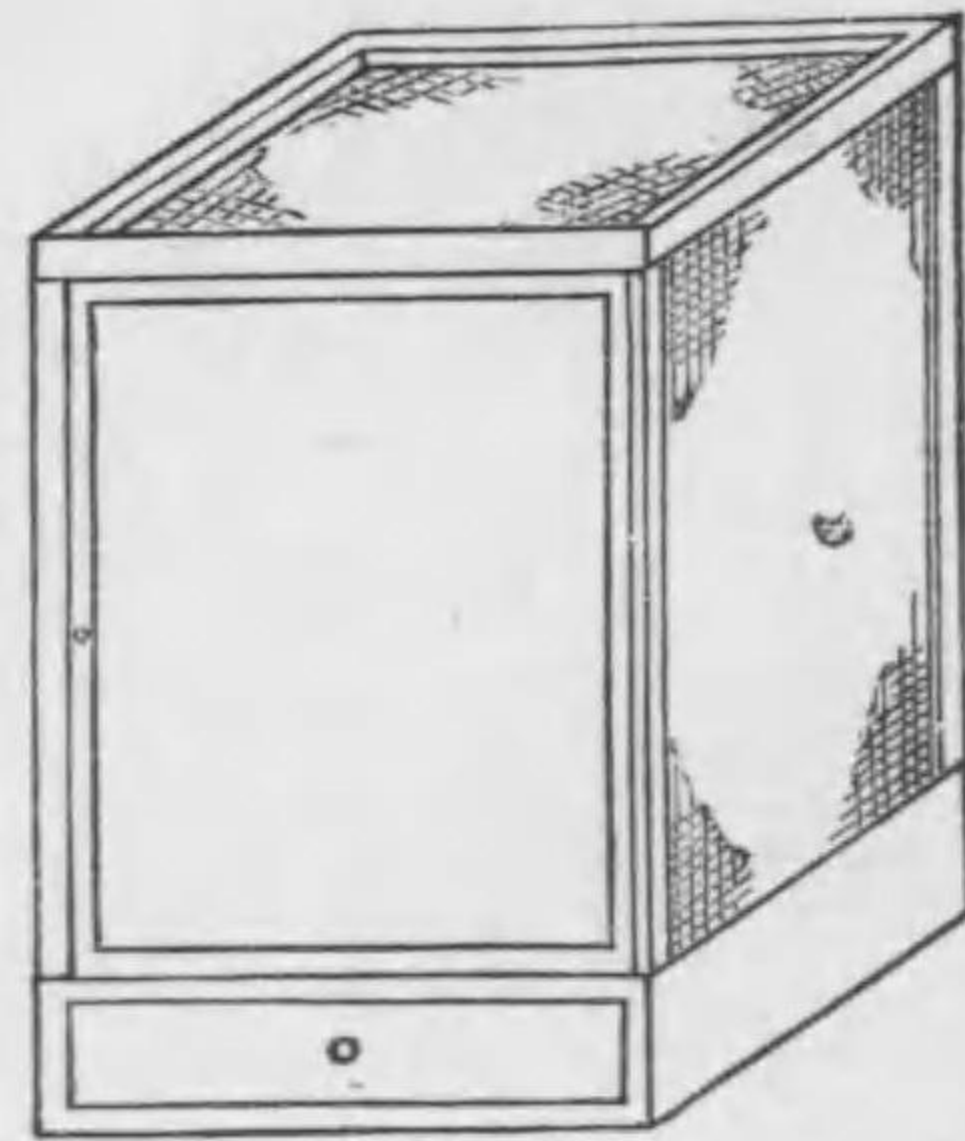
青酸加里九十八%以上ノモノ 二〇〇——二五〇瓦

硫 酸(比重一八三ノモノ) 三〇〇——三七五

水 (清淨ナルモノ) 四五〇——五六三

上記ノ藥品ヲ用ヒテ瓦斯ヲ發散セシムルニハ先ヅ陶製ノ容器ニ水ヲ盛リ之レヲ攪拌シツ、徐々ニ硫酸ヲ注入ス此際若シ反對ニ硫酸ニ水ヲ加ヘテ稀釋セントスルガ如キコトアラバ忽チ非常ナル熱ヲ發シ危險ナルモノナレバ深ク注意スベキコトナリトス斯クシテ稀釋セル硫酸ヲ先ヅ燻蒸室若クハ天幕内ニ移シ此器内ニ豫メ秤量シ置キタル青酸加里紙包ノ儘靜カニ投入ス然ルトキハ兩藥品ハ忽チ化合シテ青酸瓦斯ヲ遊離シ茲ニ殺蟲ノ作用ヲ起スモノナリ而シテ此瓦斯ニ接觸セシムベキ時間ハ凡ソ四十五分乃至一時間ニシテ其目的ヲ達シ得ベシ青酸瓦斯ハ昆蟲類ニ對シ強烈ナル滅殺力ヲ有スルト同時ニ人體ニモ頗ル有毒ナルモノニシテ其一滴ハ犬ヲ殺シ其數滴ハ能ク人ヲ斃スト稱セラル、モノナレバ此取扱ニハ周到ノ注意ヲ拂フベキハ勿論燻蒸室ノ如キハ能ク密閉シ得ラルベキ

害蟲ノ飼育法



第八圖 養蟲箱(縮小) (圖原者著)

裝置トナシ且苗木ヲ取出ス際ニハ豫メ開戸ニ綱ヲ付ケ置キ遠ク風上ヨリ之レヲ引キ一時ニ開口シ瓦斯ノ充分飛散シタル後ニアラザレバ決シテ之レニ近クベカラズ又此瓦斯モ芽葉ヲ損傷スル虞アルヲ以テ苗木ノ燻蒸ハ必ず冬季植物ノ休眠期ニ於テ行フベキモノトス

寸位ノ箱ヲ作り前面ニハ硝子張ノ開キ戸ヲ設ケ他ノ側面及天井ハ寒冷紗張トナ

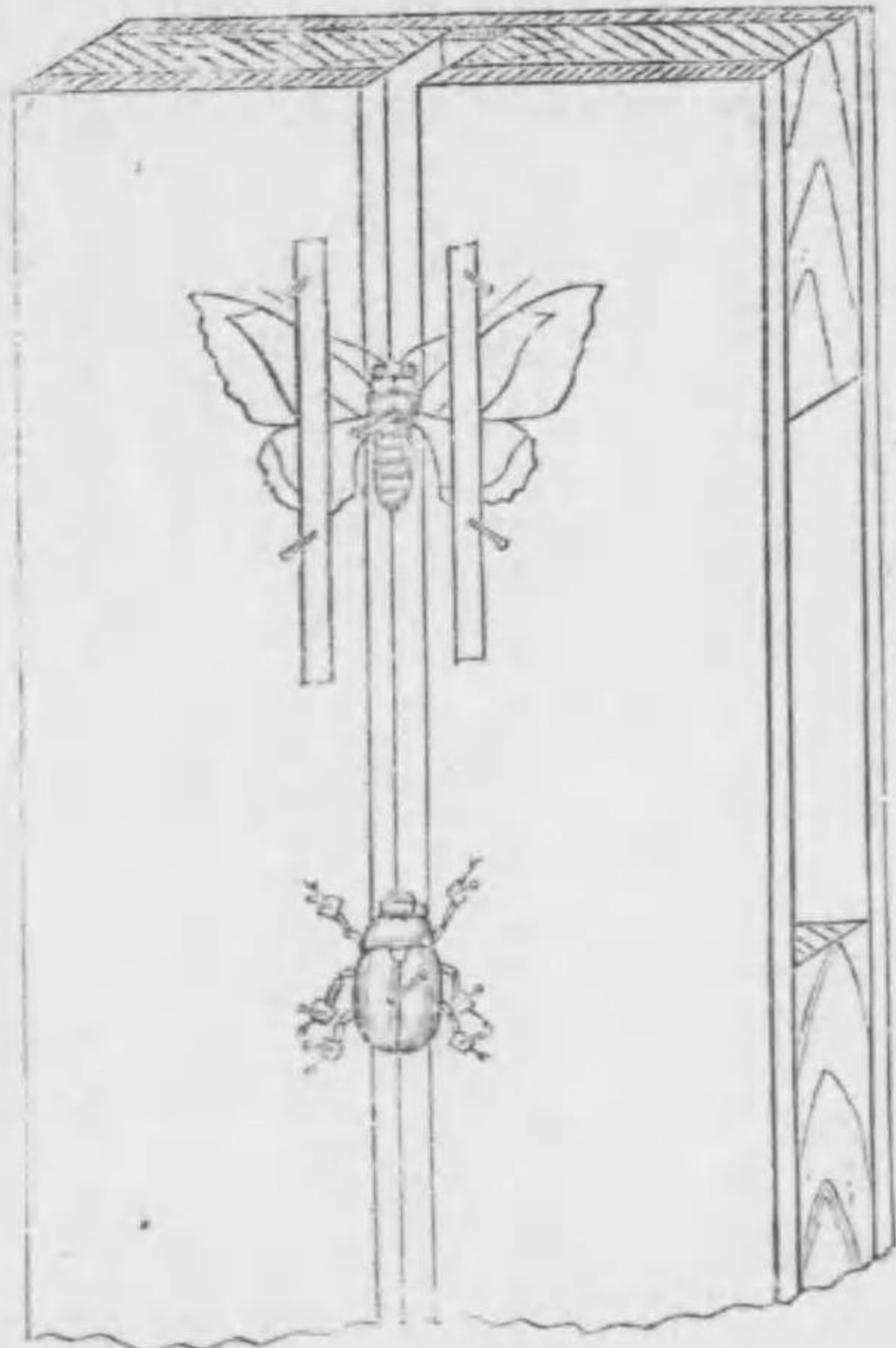
總論 害蟲ノ飼育法

害蟲ヲ驅除セント欲セバ先ヅ其經過習性ヲ明カニシ如何ナル時期ニ如何ナル方法ヲ以テ驅除スベキヤヲ研究セザルベカラズ而シテ害蟲ノ經過習性ヲ知ラント欲セバ自ラ之レヲ飼育シテ之レガ詳細ノ觀察ヲ遂グルヲ捷徑トス簡易ナル害蟲飼育法ハ約一尺四方高サ一尺五



總論 害蟲ノ飼育法

シ底面ニハ淺キ引出ヲ設ケ之レニ土ヲ盛リ害蟲ノ食料タル植物ノ小枝ヲ水瓶ニ挿シ之レニ害蟲ヲ放チテ此箱内ニ置クベシ小枝ノ芽葉盡クレバ他ノ新鮮ナル小枝ヲ其傍ニ挿シ置クベシ然ルトキハ害蟲ハ自ラ之レニ移ルベキヲ以テ此際舊枝條ヲ取り除キ決シテ害蟲ニ觸ルベカラズ害蟲ニハ刺毛ヲ有シ疼痛ヲ感ズル恐アルノミナラズ之ヲ傷ケ飼育ヲ過ツコトアリ斯ノ如キ方法ヲ以テ繼續飼育スルトキハ容易ニ其經過習性ヲ觀察シ得ベシ以上述べタルハ主トシテ芽葉ヲ侵食スル害蟲ニ就キテノ方法ナレモ莖幹ヲ蝕害スルモノニアリテハ養蟲箱ヲ一層大ニシテ餌料ヲ鉢植トナシ此内ニ置クベシ又根ヲ侵害スルモノ



第九圖 展翅板縮小

(著者原圖)

シテ餌料ヲ鉢植トナシ此内ニ置クベシ又根ヲ侵害スルモノ

各論

蠶兒ノ害蟲

響蛆蠅

ニアリテハ其植物ヲ硝子製ノ箱内ニ植ヘ其根ヲ侵害スル狀ヲ觀察スベシ尙ホ害蟲類ヲ標本トシテ保存センニハ成蟲ハ翅ヲ展張シテ乾燥シ幼蟲ハ酒精漬トナスベシ成蟲ノ展翅ヲナサンニハ圖ノ如キ中央ニ溝ヲ有スル展翅板ヲ用ヒ昆虫ノ中胸部ヲ「ピン」ニテ刺シ其ノ溝ノ内ニ立テ體軀ノ大部ヲ溝ノ間ニ收メ翅ハ左右前翅ノ後縁ヲ一直線ニ保チ其上ヲ細キ紙片ニテ押ヘ紙片ノ兩端ヲ更ニ「ピン」ニテ展翅板ニ留メ其儘風乾スベシ充分ニ乾燥スレバ之レヲ可成密閉シ得ベキ標本箱内ニ納メ樟腦「ナフタリン」若クバ「フォルマリン」タブレットノ少量ヲ入レ置キ蟲害ヲ避クベシ尙ホ標本箱ノ底ニハ「コルク」板ヲ張ルカ若クハ桐板ヲ用ヒ「ピン」ヲ刺スニ容易ナラシムベシ又介殼蟲ノ如キ樹枝ニ附着セルモノハ其儘乾燥シテ標本トナスベシ

各論 蠶兒ノ害蟲 響蛆蠅



各論 蠶蛆蠅

學名 *Grossocornia sericariae* Fons.

分科 雙翅目家蠅科 Muscidae.

異名 蠶蛆蠅、蠶ノ寄生蠅、カヒコノウジバヘ

形態

成蟲 頭部ハ略三角形ヲナシ複眼ハ紫褐色ヲ呈シ雄ニアリテハ雌ヨリモ大ナル

ヲ以テ頭頂ニ於ケル複眼ノ距離ハ雄ハ雌ニ

比シ狭キヲ常トス頭頂ハ少シク突起シテ三

角形ヲナシ此處ニ單眼三個ヲ鼎足狀ニ存ス

然大) 顔面ニハ黑色ノ短毛ヲ多生シ其地色ハ雌ハ

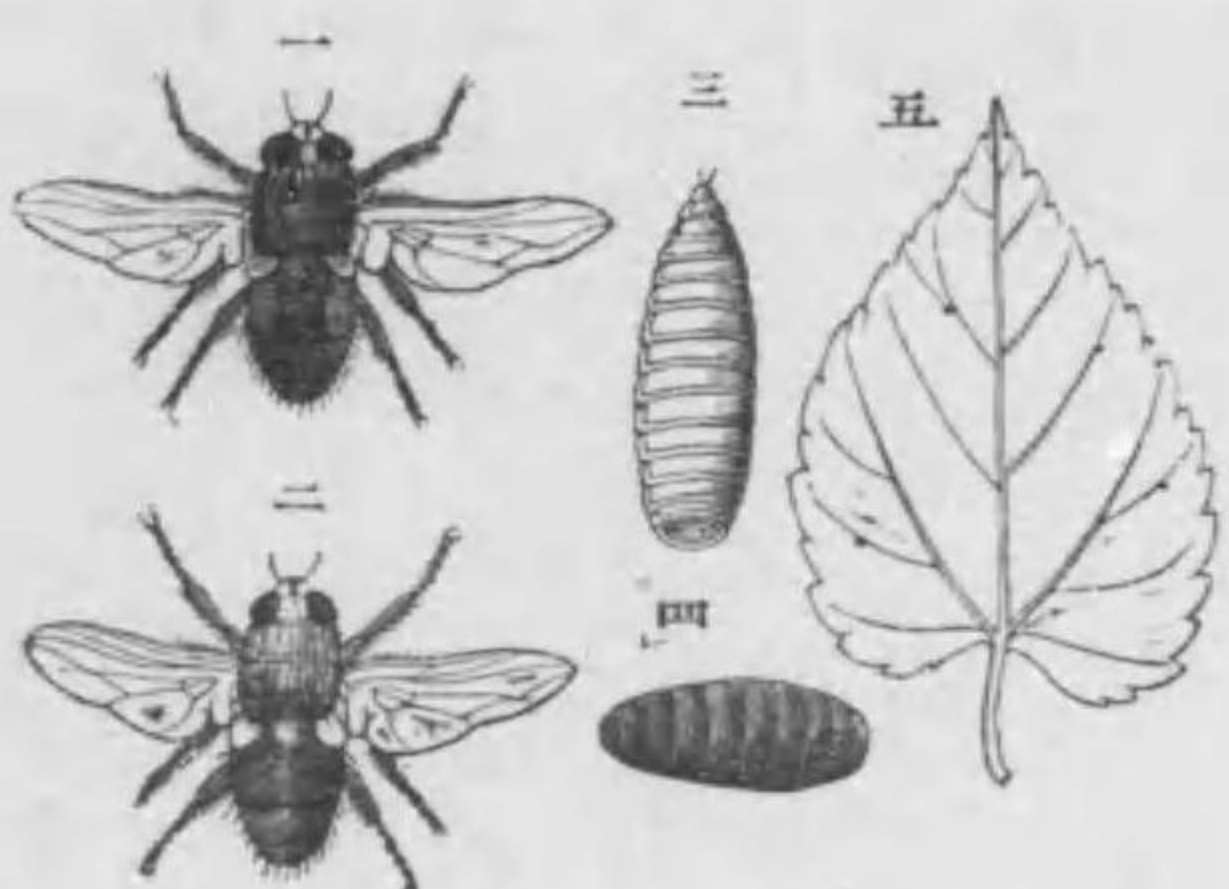
灰白色ニシテ雄ハ少シク黃色ヲ帶ブ縫線ハ

黑色ナリ觸鬚ハ黑褐色ニシテ三節ヨリ成リ

第三節ハ筵狀ヲナシ第一及第二節ノ和ヨリ

モ遙カニ長ク基部ヨリ一本ノ長キ剛毛ヲ出

セリ下唇鬚ハ暗褐色ヲ呈シ胸背ハ黑色ナレ



第十圖 蠶蛆蠅(自然大) (著者原圖) 一、雄、二、雌、三、幼蟲、四、蛹、五、葉脈ニ卵ヲ有スル桑葉

各論 蠶蛆蠅

トモ雌ニアリテハ淡灰綠色ヲ混ヘタリ胸背ニハ五個ノ黑條ヲ縱走シ中央ニ存スル三條ハ後方ニ於テ消滅セリ此等各條ノ間ニハ數本ノ黑色剛毛ヲ縱列セリ殊ニ胸部ノ側面ニハ數多ノ黑色剛毛ヲ生ジ楯板ハ暗褐色ナリ翅ハ透明ニシテ少シク暗色ヲ帶ビ翅脈ハ黑色ニシテ前縁ノ基部ニハ短カキ剛毛ヲ生ジ鱗片ハ淡灰色ヲ帶ブ脚ハ黑色ニシテ短毛ヲ密生シ蹠節ハ五節ヨリ成リ先端ノ膜辨ハ褐色ナリ腹部ハ卵形ニシテ四環節ヨリ成リ全面ニ細毛ヲ生ジ末端ニハ剛毛ヲ多生セリ地色ハ淡灰白色若クハ淡灰黃色ナレトモ光線ノ反射ニヨリ大部分黑色ニ見ユ又雄ハ第一乃至第二環節ノ側面ニ半月形ノ大ナル赤褐色紋ヲ有セリ體長四分五厘翅ノ開張九分内外アリ

卵 卵圓形ニシテ先端少シク尖リ背面ハ隆穹シ漆黑色ニシテ網狀紋ヲ有シ底面ハ扁平ニシテ淡色ナリ長サ一厘アリ

幼蟲 體軀ハ十二環節ヨリ成リ圓錐形ヲナシ前段ハ細ク後端ハ切截セルガ如キ狀ヲナシ淡黃色ナリ第一環節ニハ二個ノ黑色銳堅ナル上鬚ヲ有シ其上方ニハ左右二對ノ褐色ノ圓圈ヲ存セリ之レ觸鬚及下鬚ノ退化セルモノニシテ其上方ニ



各論 蠶蛆

アルモノハ觸鬚ニシテ下方ニアルモノハ下顎鬚ナリ又第二環節ノ後方ニハ側線上ニ於テ左右各五個ノ小氣門ヲ開キ又第五環節ニ一對ノ圓孔アリ之レ化蛹後支棍ヲ生ズル所ナリ第十一環節ノ腹面正中線ニ於テ肛門ヲ開キ體ノ末端ニハ一對ノ氣門ヲ存ス

氣門ハ其周圍ハ黑色圓形ノ「キチン」板ニ依リ圍マレ表面ニ三個ノ蠕形器官アリ此

第十一圖

氣門ノ形態(擴大)

一、第一齡二、第二齡三、第三齡



氣門ノ形狀ハ蠶蛆ノ齡ノ進ムニ從ヒ變化發達スルモノニシテ第一齡ニ在リテハ單ニ橢圓形ヲナシ其中央ニ一本ノ橫隔ヲ存スルノミナレドモ第二齡ニ在リテハ褐色條狀ヲナセル蠕形器官ヲ生ジ且其表面ニハ「キチン」質ヨリ成リ左右ノ側面ヨリ出デ、中央ニ於テ相會スル多數ノ突起ヲ生ズ然レドモ本齡ニ於テハ其發育未ダ幼稚ニシテ左右ノモノ全ク相合シテ一線トナルモノ少ナシ而シテ此蠕形器官ノ形狀ハ同一中心ニ向ツテ集マレル三個ノ條ヨリ成ルモノナルガ其若キモノニ在リテハ其内ノ

各論 蠶蛆

二條ハ相癒着シテ一個トナリ略矩形ヲ呈セリ第三齡ニ至レバ氣門ノ形態著シク複雑トナリ脱皮ノ當時ハ長短參差タル蠕形器官ハ多少腎臟形ヲナシタル三個ノ集團ニ分レ此各集團ハ孰レモ内面ニ向ツテ相對シ褐色ノ「キチン」質ニヨリ圍繞セラル、ヲ以テ氣門面ニハ三個ノ腎臟形ノ室ヲ形成スルニ至ル而シテ此三個ノ室ニヨリ圍マレタル内面中央ニハ圓形ノ空所ヲ存ス此空所ハ即チ二齡ニ於テ氣門ノ存在セル位置ニ相當ス又腎臟形室内ニ於ケル蠕形器官ハ其數一定セザルモ概ネ七本乃至十本ヲ算ス本齡ニ於テハ其左右側面ヨリ生ゼル突起ハ中央ニ於テ相合シ一線トナルヲ以テ一見明瞭ナル環節ヲ有スル蠕形動物ノ蜿蜒タルニ髣髴セリ本齡ニ於テモ亦蠕形器官ハ日々伸長シテ各分立セルモノハ相連續シテ一室一本乃至三四本トナルニ至ル又日ヲ經ルニ從ヒ其室ノ周圍ニ黑色ノ「キチン」質ノ堆積ヲ生ジ之レニヨリ各室ヲ連結シテ一個ノ橢圓板ヲ形成ス而シテ此橢圓板ハ長徑六「ミメ」短徑五「ミメ」内外アリ又中央ノ圓形空處ニモ次第二「キチン」質ノ堆積ヲ生シ空間ハ縮小シ中央ノ陥入ハ孔狀ヲ呈スルニ至ル之レ即チ最終ノ形ニシテ繭ヨリ脱出セル蛆ニ於テ見ル所ノモノナリ蛆ノ充分發育ヲ遂ゲタルモノハ體長六分



## 各論 蠶蛆

餘ニ達ス

蠶 黒褐色圓筒形ニシテ第五環節ニハ一對ノ小突起支棍ヲ存ス體長四分内外アリ

經過習性

蠶蛆ハ年一化ニシテ蛹態ヲ以テ土中ニ於テ越冬シ東京附近ノ氣候ニ於テハ四月中下旬ノ頃羽化シ成蟲ハ羽化後二週間前後ヲ經テ産卵ヲ初メ桑、柘、櫟、楮等ノ葉ノ裏面主トシテ葉脈ニ沿フテ一二粒宛産卵ス而シテ一雌蠶ノ卵巢内ニハ七千乃至八千粒ノ卵ヲ存スレドモ其産卵スルハ四五千粒ナルベシ卵ハ産下後三十日前後生活力ヲ保持シ此間ニ於テ蠶兒ニ桑葉ト共ニ嚙下セラルレバ三十分前後ニシテ胃中ニ於テ孵化ス幼蟲ハ胃壁ヲ食破リテ蠶兒ノ神經球内ニ侵入ス孵化後神經球ニ達スル迄ニハ約三十分ヲ要ス而シテ其最モ多ク寄生スルハ第四乃至第六神經球ニシテ之レヨリ前後ニ向ツテ漸々其數ヲ減ズ一神經球ニ對シ蛆一頭寄生スル場合ニハ其内ノ營養分ヲ攝取シ完全ナル發育ヲ遂ゲ得ラルト雖二頭若シクハ三頭ノ寄生スル場合ニハ其中ノ強健ナルモノ一頭發育ヲ遂ゲ他ハ萎縮斃死

## 各論 蠶蛆

スルモノナリ蛆ノ神經球内ニ寄生スル期間ハ其發生ノ期間ニヨリ一定セザレドモ四齡起蠶ニ寄生シタル場合ニ於テハ約十二三晝夜五齡起蠶ニ寄生シタル場合ニ於テハ九晝夜前後トス蛆ハ神經球内ニ於テ一定ノ度迄發育ヲ遂グレバ之レヲ脱出シテ蠶兒氣門ノ内側ニ移リ尾端ヲ氣門下ニ置キ其尾端ニ存スル氣門ニ依リ吸呼シ内方ニ向ツテ組織ヲ侵食ス斯クノ如クシテ發育成熟スレバ蠶體ヲ破リテ外界ニ出ズ此脱出時期ハ蠶兒上簇後十一日乃至十六日目トス蠶體ヲ辭シ繭ヨリ脱出セル蛆ハ床板ノ間隙等ヨリ逸散シテ土中ニ入り化蛹スルモノナリ

蠶蛆ハ幼蟲ノ期間ニ於テ二回ノ脱皮ヲナシ三齡ヲ重ヌルモノニシテ第一齡ハ孵化ヨリ神經球ヲ脱出シ氣門内側ニ移動後凡ソ一晝夜ニ至ル間第二齡ハ之レニ次グ五六日ノ間第三齡ハ第二齡ヲ終リタル後充分成熟シ繭ヲ脱出シ化蛹スルニ至ル期間ナリトス而シテ此等各齡ヲ知ルニハ前掲氣門ノ形狀ニ徴スベキナリ

蠶蛆ハ温暖ニシテ風ナキ晴天ニ多ク産卵スルモノニシテ風雨ノ日ニハ雜草等ノ中ニ潛ミ出デ、産卵スルコトナシ此蠶ハ翅力強ク飛翔迅速ニシテ蔭鬱セル桑園ニ多ク飛來シ主トシテ桑葉ノ裏面葉脈ニ沿フテ一粒宛卵ヲ産下シ之ヲ終レバ



各論 蠶蛆

直ニ他ニ移リテ静止スルコト少ナシ且桑園ニ飛來スル所ノモノハ皆雌蠶ニシテ雄蠶ハ桑園ニ於テ認ムルコトナシ

加害ノ狀況

蠶兒が蠶蛆ノ寄生ヲ受クルハ三齡以後ニシテ二齡迄ハ桑葉ニ蛆卵ノ産附セラレ、コト少ナク且蠶兒ノ口腔狭小ニシテ完全ニ嚙下スルコトヲ得ザレドモ三齡以後ハ桑葉ニ蛆卵多ク且口腔ハ擴大シテ蛆卵ヲ嚙下シ得ルニ至ル然レトモ尙蛆卵ハ往々嚙破セラレ完全ニ嚙下セラル、コト少ナキモ齡ノ進ムニ從ヒテ嚙下セラ、ノ機會ヲ増ス故ニ蛆ノ寄生ヲ受クルハ主トシテ四齡及五齡期ナリトス本蛆ノ寄生ヲ受ケタル蠶兒ノ神經球ハ其刺撃ニヨリ腫張シ遂ニ容積ニ於テ約三十倍スルニ至ル蛆ノ神經球ヲ去リテ氣門下ニ至レバ其排泄物ノ爲メ蠶兒氣門ノ周圍ニ黑色環狀ノ斑紋ヲ生ズ又蛹ニ於テモ同ジク此徵候ヲ認メ得ラル而シテ蠶兒ハ寄生蛆數ノ多カラザル限リハ通常結繭スルモノナリト雖モ化蛹スルコト少ナク多クハ死籠トナル但シ五齡四日以後ニ於テ蛆一頭ノ寄生ヲ受ケタル蠶兒ハ完全ニ化蛹ス蛆害ヲ被リタル蠶兒ノ成繭ハ品質不良ニシテ絲量少ナキヲ普通トス

且殺蛹ノ時期ヲ過ツトキハ出蛆シテ蛆鑽繭トナリ線絲ニ適セズ又本蛆ノ寄生ヲ受ケタル蠶兒ハ假令化蛹スト雖完全ニ羽化スルコトナキヲ以テ其繭ハ蠶種製造用ノ種繭トナスコトヲ得ズ本蛆ノ寄生ヲ受ケタルモノニシテ稀ニ蛾化スルコトアレトモ完全ニ交尾産卵スルコトナシ

尙本寄生蠶ハ蠶兒ノ他、クハゴノガ、クハゴマダラヒトリ、クハエダシヤクトリガ、ブランコケムシガ、キハラゴマダラヒトリ等ノ幼蟲ニ寄生シ完全ノ發育ヲ遂グルモノナリ

分布

本種ハ本邦固有ノ害蟲ニシテ二三ノ小島嶼ヲ除クノ他ハ各地殆ンド其存在ヲ認メザルナシ

驅除豫防

一、裸蛹或ハ薄皮繭ヲ營ミタル蠶兒ハ本蛆ノ寄生ヲ受ケ居ルコト多キヲ以テ收繭後此等ノ附着セル簇ハ必ズ焼却スベシ

二、種繭ハ深サ二寸以上ノ箱ニ入レ置キ蛆ノ逸散ヲ防ギ若シ蠶籠ヲ用ユル場合ニ



各論 蠶蛆

- ハ其下ニ中央ニ小囊ヲ有スル白布ヲ張り蠶籠ヨリ落下スル蛆ハ凡テ此囊中ニ集マル様ニナシ置キ熱湯ニ投ジテ殺滅スベシ
- 三、隨時床下ノ掃除ヲ行ヒ土中ニ潜伏セル蛹ヲ取集メ燒棄スベシ
- 四、蛆卵多キ桑葉ハ二眠前ニ給與スルカ若クハ製絲用繭ヲ目的トスル五齡四日目以後ノ蠶兒ニ給與スベシ
- 五、蠶蛆ハ陰鬱ナル桑園ニ多ク來リテ産卵スルモノナレバ桑樹ノ密植ヲ避ケ射光通風ヲ計ルベシ
- 六、前法ニヨリ蛆害ヲ免カル、コト能ハザル地方ニ於テハ桑樹ヲ密植シ内方ヨリ採葉シ外圍ノ桑葉ハ製絲用繭ヲ目的トスル五齡四日目以後ノ蠶兒ニ給與スベシ
- 七、蠶蛆卵ハ〇、五%ノ苛性加里溶液ニ一時間内外若クハ水ニ二三晝夜浸漬スル時ハ孵化スルモノナレトモ實際施行スルハ困難ナルベシ
- 八、蛆卵ハ華氏百二十五度乃至百三十度ノ熱ニ二十分以上接觸セシムレバ死滅スルモノナレトモ實際ニ行ハレ難カルベシ

- 九、蠶蛆ハ蠶以外ノ昆蟲ニモ寄生スルヲ以テ桑園ノ害蟲驅除ヲ勵行スベシ
- 十、天然敵ノ保護繁殖ヲ計ルベシ但シ黃蘆菌及赤蘆菌ハ蠶兒ニモ寄生スルヲ以テ特別ノ注意ヲ要ス

天然敵

寄生蜂 キヤウソツサナギヤドリバチ新稱) 小蜂科ニ屬スル寄生蜂ニシテ體軀ハ黑色

第十二圖 蠶蛆寄生蜂

(著者原圖)



一、寄生蜂(擴大)  
二、被害蛹(自然大)

ニシテ紫藍色ノ鱗物光澤ヲ有シ雌ハ體長六厘翅ノ開張一分一厘雄ハ體長五厘翅ノ開張一分アリ頭部ハ横位ヲナシ胸部ヨリ其幅稍廣ク全體黑色ナリ顛頂及額ハ共ニ網目狀ノ斑紋ヲ密布シ且疎ニ毛ヲ生ゼリ複眼ハ楕圓形ヲナシ單眼ハ黒褐色ニシテ三個顛頂ニ存ス觸鬚ハ唇基板ノ上方ヨリ發シ雌雄同形ニシテ膝狀ヲナシ十三節ヨリ成リ基部ハ褐色ニシテ他ハ暗褐色ナリ上顛ハ末端四齒ヲ並列シ其下方ノモノハ上方ノモノニ比シテ先端尖レリ下顛鬚及下唇鬚ハ共ニヨク發達シ下顛鬚ハ四節ヨリ成リ下唇鬚ハ二節ヨリ成ル中胸

各論 蠶蛆



各論 多化性蠶蛆蠅

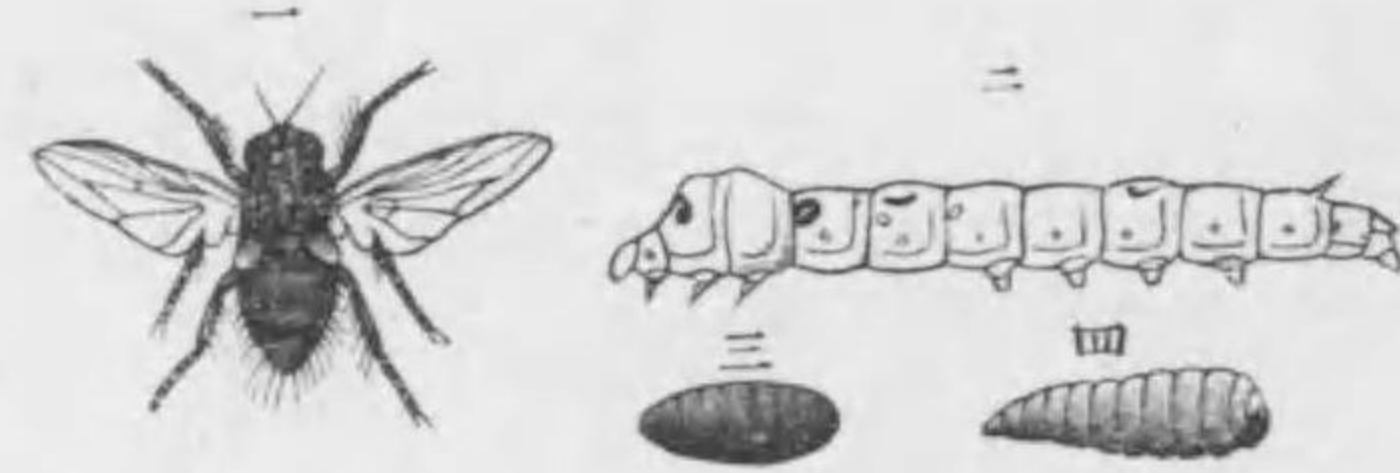
前板及後板ハ網狀ノ斑紋ヲ密布シ後板ハ其形略梯形ヲナシ後胸ニハ刻點ヲ密布セリ翅ハ透明ニシテ全面ニ短毛ヲ生ジ前翅ノ亞前脈ハ弓狀ヲナシテ長ク前脈ト枝脈トハ略同長ニシテ外脈ハ翅頂ニ向ツテ消失セリ後翅ハ前翅ヨリ幅狭ク翅脈ハ翅長ノ半ヲ過ギ其末端ニハ三個ノ鈎毛ヲ有シ後縁ニハ細毛ヲ密布セリ脚ハ褐色ニシテ脛節ニ一個ノ棘アリ蹠節ハ淡褐色ニシテ脛節ト略同長ナリ腹部ハ七環節ヨリ成リ肥大ニシテ第一環節最モ大ニ其前縁左右ハ少シク突出シ腹部下面ノ縱溝ヨリ産卵器ヲ出セリ

本種ハ一年數回發生スルモノ、如ク蠶蛆蛹ノ體內ニ産卵シ夏期ニ於テハ二十日乃至二十五日ニシテ再ビ成蟲トナリ蛹殼上ニ直徑三厘内外ノ圓孔ヲ穿テテ脱出飛散ス此寄生、蜂ハ陰暗ナル場所ヲ好ンデ棲息スルモノ、如シ

赤黴菌及黃黴菌、本種ハ蠶兒ノ病原ヲナスモノナレドモ床下等ニ於テ蠶蛆蠅ノ此寄生ヲ受ケテ斃死セルモノ多シ

多化性蠶蛆蠅

形態



學名 *Tricholyga bombycis* Beech.  
分科 雙翅目家蠅科 Muscidae.  
異名 クハコヤドリバイ

第十三圖 多化性蠶蛆蠅(自然大)(著者原圖)  
一、成蟲(雌)  
二、環節部ニ卵ヲ産卵セラレタル蠶兒、  
三、蛹、四、幼蟲

各論 多化性蠶蛆蠅

成蟲 頭部ハ略三角形ヲナシ額ハ淡黄色ヲ呈シ中央ニ縱走スル黒線アリ此線ノ左右額上ニ於テ頭頂ヨリ頰ニ向ツテ走ル剛毛列アリ其色黒クシテ左右各十二本ヨリ成ル頭頂ハ少シク隆起シ三個ノ濃褐色ノ單眼ヲ有ス此單眼ノ前方ニ位スルモノ、左右ヨリハ各一本ノ黒色剛毛ヲ生ズ複眼ハ後頭ニ近ク存シ赤褐色或ハ紫褐色ヲナシ淡黄褐色ノ纖毛ヲ密生セリ複眼ハ常ニ雄ニ於テハ雌ヨリモ大ナルヲ以テ額ノ幅ハ雄ニ於テ狭ク雌ニ於テ廣シ頰ハ銀白色ナレトモ淡黄色ヲナスコト



各論 多化性蠶蛆

アリ觸鬚ハ三節ヨリ成リ基節ハ黑色ニシテ最モ短ク第二節ハ暗灰青色ニシテ剛毛ヲ多生シ第三節ハ最モ長ク扁平ニシテ筥狀ヲナシ暗灰色ヲ呈シ一面ニ短毛ヲ密生シ二節ヨリ成ル黑色長毛ヲ出ス顔面ハ銀白色ニシテ口吻ハヨク發達シ灰褐色ヲナセリ

胸部ハ背面灰黄色ニシテ四本ノ黒條ヲ縱走シ別ニ六個ノ剛毛列ヲ有ス雄ハ雌ニ比シテ濃色ナリ翅ハ透明ニシテ暗灰色ヲ帶ビ短毛ヲ散生シ翅底ハ少シク褐色ヲ呈ス前縁翅脈ハ翅尖ニ近キ所ニ終リ基部ニ於テハ長キ剛毛ヲ多生シ第三翅脈ニ於テモ其基部ニ近キ所ニ於テ數本ノ剛毛ヲ一列ニ存セリ第四翅脈ハ上方ニ彎曲シ翅尖ノ上方ニ終リ第三翅脈ト僅カノ距離ヲ存セリ第五翅脈ハ外縁ニ至リテ盡キ第六翅脈ハ外縁ニ近ク終レリ翅片ハ長クシテ僅カニ臀角ニ及バズ前鱗片ハ少シク黄色ヲ呈シ鱗片ハ灰色ニシテ不透明ナリ平均棍ハ鱗片ノ下ニ存シ暗褐色ナリ脚ニハ剛毛ヲ多生シ大腿節ハ灰藍色ヲ呈シ脛節、蹠節ハ黑色ニシテ末端ニ二個ノ黑色鈎爪ヲ有シ其間ニ褐色膜狀ノ褥辨ヲ有ス

腹部ハ圓錐形ヲナシ四節ヨリ成リ背面ハ第一環節黑色ニシテ他ノ三環節ハ前半

ハ灰黄色後半ハ黑色ナリ而シテ第二環節ニ於テ二本第三環節ニ於テ八本第四環節ニ於テ多數ノ剛毛ヲ生ゼリ又雄ニアリテハ第二環節ノ左右ニ於テ褐色ヲ混ジタリ此雜色ハ時トシテ第三環節ニ亘ルコトアリ腹面ハ概ネ黑色ナレモ第二環節及第三環節ノ前方ハ色淡ク雄ニアリテハ此淡色部ハ稍赤褐色ヲ帶ブ又雄ハ第四環節ノ中央ニ於テ橙黄色ノ陰具ヲ現ハセリ雌ハ體長三分八厘翅ノ開張六分八厘雄ハ體長四分翅ノ開張七分アリ但シ個體ニヨリ大小甚ダシキ差アリ

卵、長橢圓形ヲナシ背面ハ穹窿スレトモ腹面ハ扁平ニシテ卵殼ハ薄ク裏面ヨリハ其内部ノ蛆ヲ透視スルコトヲ得色ハ乳白色ニシテ僅カニ淡黄色ヲ帶ブ長サ〇、六四五乃至〇、六七五ミ、メ、幅〇、二八五ミ、メ、アリ

幼蟲、體軀ハ十二環節ヨリ成リ略圓錐形ヲナシ前端ハ細ク後端ハ切截セルガ如キ形ヲナシ各節ノ後半ニハ多數ノ粗毛ヲ存セリ頭部ハ退化シ銳利ナル黑色ノ上顯ト其上方ニ於テ觸鬚及下顯ノ痕跡タル褐色ノ圓圈ヲ存セリ第二環節ノ側面後方ニ於テ褐色ノ小形氣門群アリ此氣門群ハ個體ニヨリ其數ヲ異ニシ或ルモノハ左右各四個或ルモノハ左右各三個或ルモノハ一方ニ四個一方ニ五個更ニ或ルモノ

各論 多化性蠶蛆



## 各論 多化性蠶蛆

ノハ一方ニ三個他方ニ二個ヲ存スルガ如キコトアリ第五環節ノ後方側面ニ於テ一對ノ圓孔アリ化蛹後支棍ヲ生ズル所ナリ第十二環節ノ後端ニハ一對ノ黑色キチン板アリ形略圓形ニシテ横徑約〇.三五〇、ミ、メ、縦徑約〇.三〇〇、ミ、メ、アリテ其相對セル側面ニ於テ内方ニ彎入セル膜質部アリ此處ニ各一個ノ氣門ヲ開ケリ又キチン板上ニハ氣門ヨリ放射狀ニ位置セル三個ノ淡黄色斑紋ヲ存ス尙第十一環節ノ腹面ニハ肛門ヲ開ケリ成熟セルモノハ體長四分ニ達ス

蛹 體ノ外圍ハ幼蟲ノ皮膚ヨリ成ル蛹殻ヲ以テ被ハレ俵狀ヲナシ前端稍細シ色ハ化蛹當時ハ黄色ヲ呈スレトモ次第ニ赤褐色トナリ遂ニ暗褐色トナル環節ハ不明瞭ナレトモ幼蟲ト同シク十二環節ヲ有シ且ツ幼蟲ノ皮膚ニ存シタル各器官ハ皆之レヲ現ハセリ而シテ第五環節ニ於ケル圓孔ハ突出シテ一對ノ小突起即チ支棍ヲ形成シ前方ノ三環節ノ側面ニハ一ノ隆起線ヲ生ジ羽化ノ際蛹殻ハ此線ニ沿フテ裂ク體長三分内外アリ

## 經過習性

多化蠶蛆ハ一年ニ多化スルモノニシテ常ニ五齡蠶兒ノミヲ撰ミテ産卵寄生セシ

メタルニ六化シ蛹ヲ以テ越冬セリ然レモ尙幼稚ナル蠶兒ニ寄生シタルモノハ一世代ニ長時日ヲ要スルモノナレバ通常四化若クハ五化ニシテ終ルモノナルベシ越冬セル蛹ハ五月上中旬ノ頃羽化シ成蟲ハ羽化後二三日ヲ經テ蠶兒ノ皮膚ニ産卵ス一雌蠶ノ腹中藏卵數ハ八百五十粒内外ニシテ産卵スルハ七百五十乃至八百粒ナリトス産卵後一晝夜乃至三晝夜ヲ經レバ幼蛆ハ卵殻裏面ノ前方ヨリ約三分ノ一ノ所ニ於テ小縦裂ヲ作り此部ヨリ脱出シ蠶兒ノ皮膚ニ直徑約〇.一三五、ミ、メ、ノ圓孔ヲ穿チ其皮膚下ニ進入ス而シテ幼蛆ハ孵化前卵ノ背面前方ニ於テ必ズ一個ノ小孔ヲ穿チ此孔ヨリ空氣ノ供給ヲ仰グモノ、如シ幼蛆ノ蠶體ニ進入スル時ハ其部分ニ暗透明ノ斑紋ヲ生ジ外部ヨリ透見シ得蛆ハ少時間ヲ經テ體ノ後方ノ鐘狀ノ鞘套ヲ作り其後半ヲ包蓋ス此鞘套ハ體皮組織ノ變生セルモノニシテ蠶體ニ侵入後一時間ニアリテハ極メテ薄キ膜狀ヲナセトモ次第ニ肥厚シテ下部ハ黑色ヲ呈ス蛆ハ成熟シテ蠶體ヲ脱出スル迄此鞘套ヲ去ルコトナク其發育ハ甚ダ迅速ニシテ夏期五齡蠶兒ニ寄生シタル場合ニ於テハ孵化後五晝夜前後ニシテ成熟シ蠶體ヲ脱出ス但シ蠶兒ノ幼稚ナルモノニ寄生スル場合及溫度低キ時ハ成熟ニ

## 各論 多化性蠶蛆



## 各論 多化性蠶蛆

尙長時日ヲ要スルハ勿論ナリ蠶體ヲ脱出セル蛆ハ繭ヲ破リテ逸逃シテ土中ニ入リ化蛹スルモノナレトモ往々繭内ニ於テ化蛹スルモノアリ斯カルモノニ於テハ羽化スルモ脱出スルコトヲ得ズ遂ニ繭内ニ斃ル、モノナリ蛹期ハ氣温ノ高低ニヨリ著シキ差アリ盛夏ノ候ニ於テハ十一日内外ナレトモ春期ニ於テハ二十日前後ヲ要シ晩秋ニ於テハ三十日以上ヲ要スルコトアリ成蟲ノ蠶兒ニ産卵スルハ環節ノ接合部ニ多ク野外ニ放置セル五齡蠶兒ニシテ二十二粒産卵セラレタルモノアリ又該蠶ヲ飼育セル養蠶箱ニ入レ置キタル五齡蠶兒ニハ七十餘粒ヲ産卵セリ斯クノ如ク多數産卵セラレタル場合ニ於テハ蛆ハ完全ニ發育ヲ遂グルコト能ハザルモ一頭ノ蠶兒ヨリ十一頭ノ蛆脱出シテ完全ニ化蛹羽化セルモノアリ

## 加害ノ狀況

本蠶ノ寄生ヲ受ケタル蠶兒ハ皮膚ニ小黑點ヲ現ハシ黒斑ハ漸々大トナリ蠶兒ハ舉動不活潑トナリ四齡以前ニ於テ寄生ヲ受ケタルモノハ多ク結繭ニ至ラズシテ斃死ス五齡ニ於テ少數ノ蛆ノ寄生ヲ受ケタルモノハ結繭スト雖化蛹スルモノ殆ド稀ニシテ繭質劣悪ナルヲ常トス且蠶蛆ニ比シ蛆ノ脱出スルコト速カナルヲ以

テ此寄生ヲ受ケタル蠶兒ノ成繭ハ殆ド全部蛆鑽繭トナルコト多シ蠶兒ノ他野外ノクハゴノガ「クハエダシヤクトリガ」クハアヲシヤクトリガ「ヒメツノケムシガ」オホケンモン「シリアゲケムシガ」等ノ幼蟲ニモ寄生ス

## 分布

本蠶ハ支那暹羅等ニ於テ蠶兒ニ寄生シテ其害著シキモノナリ本邦ニ於テモ野生ノクハコニハ常ニ之レヲ認ムルトコロニシテ蠶兒ニモ亦寄生シ得ルコトハ明治三十三年岩淵平介氏實驗シ次テ三十五年長野縣立小縣蠶業學校事蹟報告ニ於テ發表セラレタレトモ實際養蠶家ニ損害ヲ及ボシタルハ明治三十九年新潟縣北魚沼郡湯ノ谷村字銀山平ニ於ケルヲ以テ嚙矢トス

## 驅除豫防

一、本蛆ハ往々斃蠶ヨリ脱出スルコトアレバ斃蠶ヲ發見セバ取り集メテ蛆ノ逸逃ヲ防クベシ

二、薄皮繭ニハ本蛆ノ寄生スルコト多キヲ以テ收繭後簇ハ燒却スベシ

三、蠶室ニ目ノ細キ金網ヲ張リ母蠶ノ侵入ヲ防カバ最モ安全ナリ



各論 プランコケムシ寄生蠅

四、脱繭セル蛆ノ逸散ヲ防ギ取集メテ殺滅スベシ  
五、野外ノ桑樹其他ノ害蟲ニ寄生スルモノナレバ桑園ハ勿論其附近ニ於ケル毛蟲類ハ注意シテ驅除スベシ

天然敵

寄生蜂(キョウソクサナギヤドリバチ) 前項参照

### プランコケムシ寄生蠅

學名 *Tachina* sp.

分科 雙翅目家蠅科 Muscidae

形態

成蟲 體軀ニハ剛毛ヲ多生シ顔面ハ金黃色ヲ呈シ複眼ハ赤褐色ニシテ單眼ハ三個頭頂ニ鼎足狀ニ存在シ縫線ハ黑色ナリ觸鬚ハ三節ヨリ成リ黑色ニシテ第三節ノ基部ヨリ長キ剛毛ヲ生ズ下唇鬚ハヨク發達シ褐色ナリ胸背ハ暗黃色ニシテ四本ノ黒條ヲ縱走シ楯板ハ暗褐色ヲ呈ス翅ハ透明ニシテ翅脈ハ黑色ヲ呈シ脚モ亦

黒色ナリ腹部ハ四環節ヨリ成リ卵形ヲナシ第一環節ハ黒色ナレトモ他ノ環節ニ於テハ前半灰色ニシテ後半ハ黒色ヲ呈ス  
幼蟲蛹卵ハ前種ニ酷似ス  
經過習性



第十四圖

プランコケムシ寄生蠅

(自然大)  
(著者原圖)

明治四十年、プランコケムシヨリ脱出セル蛆蠅ヲ試ニ蠶兒ト共ニ置キタルニ其腹面及ビ脚部ニ産卵セリ蓋シプランコケムシハ背面ニ長毛ヲ存スルヲ以テ常ニ腹面及ビ脚ニ産卵スル習慣ニ因スルガ如シ數日ニシテ其卵ヨリ幼蛆孵化シ蠶體内ニ侵入寄生セルノ狀アリシモ蠶兒結繭後猶蛆ノ脱出ヲ見ザリシヲ以テ其繭ヲ切開セシニ其内ニ寄生蠅ノ死セルヲ發見シタリ蓋シ「プランコケムシ」ハ營繭スルコトナク裸蛹トナルヲ以テ其寄生蛆ハ繭層ヲ嚙破スルノ本能ヲ缺クモノ、如シ加害ノ狀況

以上ノ如ク本種ハ蠶兒ニ寄生シ得ルモ自然ニ於テ蠶兒ニ寄生スルガ如キコト稀  
各論 プランコケムシ寄生蠅



各論 オホハサミムシ  
 ナルベク又寄生シテ之レヲ斃スモ繭層ヲ害セザルヲ以テ損害割合ニ少ナシ  
 分布  
 調査ヲ缺ク  
 驅除豫防  
 前種ニ同ジ

オホハサミムシ

學名 *Labidura riparia* Pall.

分科 蠃蠃目蠃蠃科 Forficulidae.

形態

成蟲 頭部ハ小ニシテ後頭部及額片ハ赤褐色ヲ呈シ複眼ハ圓形ニシテ黒褐色ヲ呈ス觸鬚ハ黄色ニシテ絲狀ヲナシ二十九節ヨリ成ル口具ハ淡黄白色ニシテ上顎ヨク發達シ咀嚼ニ適ス前胸背ハ黄褐色ニシテ方形ヲナシ後方ニ延ビ前翅ノ前端ヲ蔽ヒ左右兩側ハ少シク上方ニ反轉ス前翅ハ柔皮質小形ニシテ翅脈ヲ缺キ黒褐

第十五圖 オホハサミムシ(稍擴大)



(著者原圖)

色ヲ呈スレトモ後縁ハ赤褐色ヲ帶ブ後翅ハ膜質大形ニシテ放射狀ニ翅脈ヲ均列シ静止ノ際ハ縱横ニ疊積シテ前翅ノ下ニ隠ル脚ハ淡黄色ニシテヨク發達シ歩行ニ適ス腹部ハ雄ニアリテハ九環節雌ニアリテハ七環節ヨリ成リ背後兩面ハ帶赤褐色ヲ呈シ側面及末節ハ黄褐色ヲ帶ブ腹部ノ末端ニハ缺狀ノ角質附屬器アリ雄ニアリテハ長大ニシテ内側ノ中央ニ小突起ヲ存シ雌ニアリテハ小形ニシテ内側鋸齒狀ヲナス體長一寸内外アリ

幼蟲 不完全變態ヲ營ムモノナルヲ以テ形態着色成蟲ニ類似シ翅ヲ缺除スルヲ異レリトス

經過習性

詳カナラズ

加害ノ狀況

蠃蠃ハ通常食肉性ナルヲ以テ元來益蟲ト稱スベキモノナレトモ往々蠶室内ニ現

各論 オホハサミムシ



各論 マダラカマドコホロギ  
レ蠶兒ヲ食害ス

分布

各地此存在ヲ認ム

驅除豫防

一、蠶室内ヲ搜索シテ捕殺スベシ

### マダラカマドコホロギ

學名 *Diestrammena marmoratus* D. H.

分科 直翅目 莎雞科 *Locustidae*

形態

成蟲 體軀ハ黄褐色ニシテ黒褐色ノ斑紋ヲ散在シ頭頂ハ黒褐色ヲ呈シ觸鬚ハ暗褐色絲狀ニシテ體長ノ二倍ヲ超ユ體ノ背面ハ隆穹シ翅ヲ缺キ脚ハ細長クシテ後脚特ニ長シ腹部末端ニハ二個ノ突起アリ雌ニ於テハ別ニ赤褐色劔狀ノ産卵器ヲ具フ體長六七分アリ

コメノシマメイガ



第 十 六 圖 マダカラドマホコギ  
(圖原者著)(大然自)

經過習性

調査ヲ缺ク

加害ノ狀況

本種ハ常ニ床下等ノ陰濕ナル場所ニ棲息スルモノナレトモ往々蠶室ニ現ハレ蠶種及蠶兒ヲ食害スルコトアリ

分布

各地此存在ヲ認ム

驅除豫防

一、蠶室内ヲ搜索シテ捕殺スベシ

### 繭ノ害蟲

### コメノシマメイガ

學名 *Aglossa dimidiata* Haw.



コメノシママイガ

分科 鱗翅目螟蛾科(Pyralidae)

異名 コメノクロムシガ、タネツヅリムシガ

形態

成蟲 體ノ地色ハ淡黄褐色ニシテ雄ハ腹部末端ニ橙黄色ノ毛束ヲ存セリ前翅ニ

ハ前縁ヨリ後縁ニ亘ル數條ノ廣キ波狀ノ紫褐色

アリ後翅ハ灰黄色ヲ呈シ前後兩翅ノ縁毛ハ灰黄

色ナリ體長四分内外翅ノ開張八分乃至一寸アリ

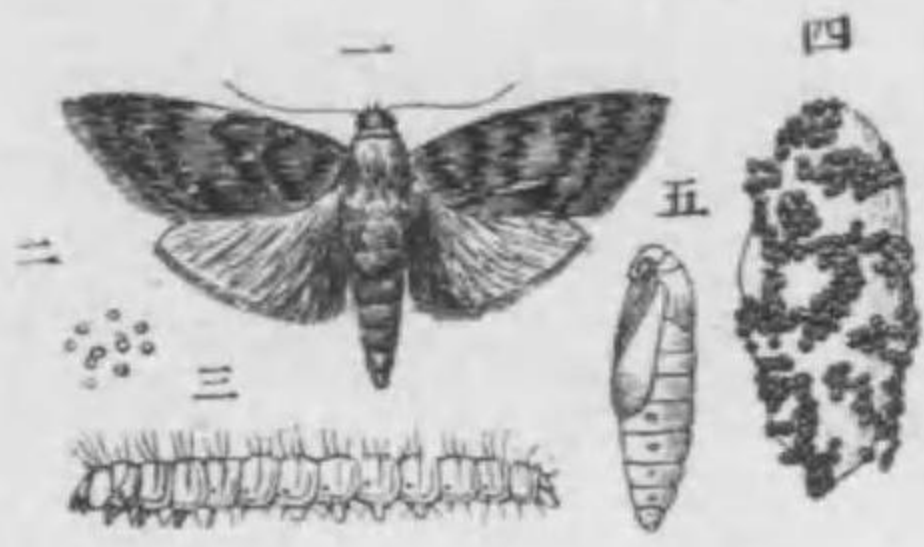
卵 ハ圓形ニシテ一厘餘アリ淡黄色ヲ呈ス

幼蟲 充分成長セルモノハ體長六七分ニ達シ頭

部及第一環節ノ硬皮板ハ暗褐色ニシテ疎

ニ細毛ヲ生ジ胸脚ハ淡褐色ナリ

蛹 光澤アル黄褐色ニシテ圓筒形ヲナシ尾端ニ



第十七圖

コメノシママイガ(自然大)

(著者原圖)

一、成蟲

二、卵

三、幼蟲

四、繭

五、蛹

細マル體長四分内外アリ  
經過習性

一年一回乃至二回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲態ヲ以テ越年シ老熟スレバ絹絲ト糞トヲ以テ繭ヲ營ミ此ノ内ニ蟄シテ化蛹ス五六月頃羽化シ繭ノ表面ニ産卵ス本種ハ多ク貯藏穀物及博物標本等ヲ害スルモ繭ヲ害スルコトハ比較的多カラズ加害ノ狀況

幼蟲ハ常ニ絹絲ト糞トヲ以テ作ル囊中ニ匿レ食ヲ求ムルトキノミ出デ繭層及蛹ヲ食害ス

分布

各地ノ穀藏及貯繭庫ニ發生ス

驅除豫防

一、繭ハ乾燥後直チニ鐵葉罐内ニ密閉スベシ

二、成蟲出現セバ之ヲ捕殺スベシ

三、トピカツオブシムシノ條ニ述ブルニ硫化炭素ノ燻蒸及乾燥法ヲ行フベシ

コメノシママイガ



トビカツヲブシムシ

トビカツヲブシムシ

學名 *Dermestes coarctatus* Harold.

分科 鞘翅目 蠹節蟲科 Dermestidae.

異名 コカツヲムシ カツヲムシ

形態

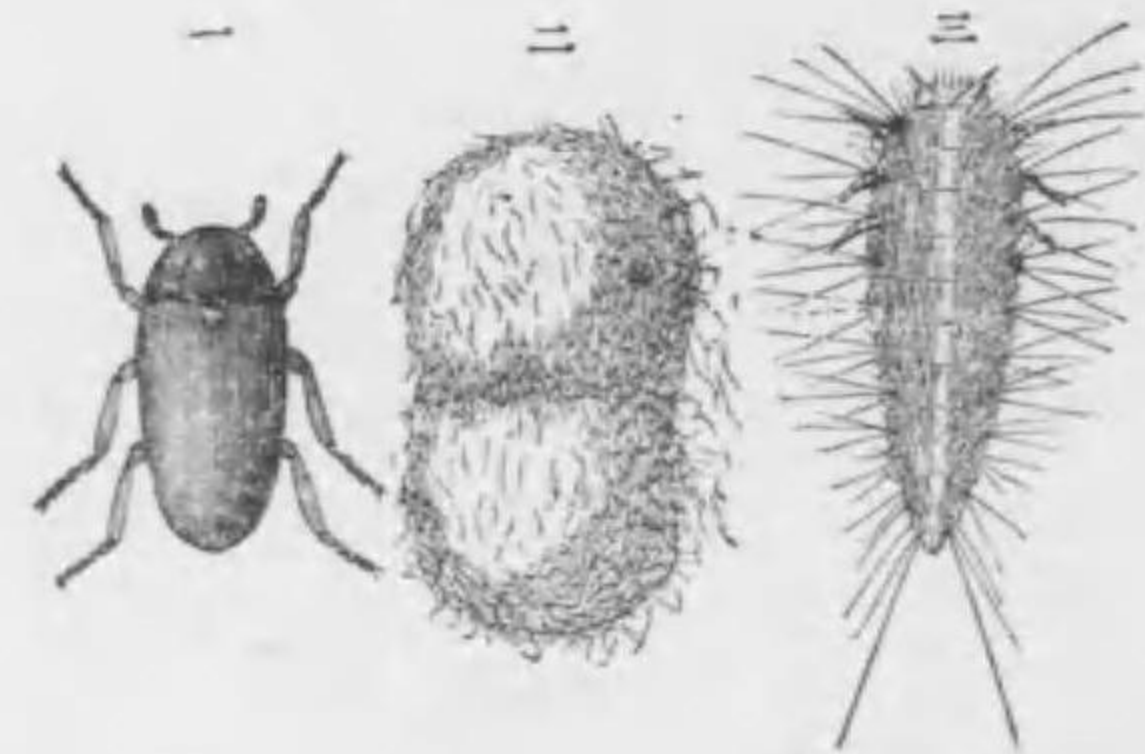
成蟲 體軀ハ暗褐色ニシテ刻點ヲ密布シ頭部ハ殆ド前胸下ニ隱レ黄色ノ短毛ヲ密生セリ複眼ハ黒褐色ニシテ光澤ヲ有シ觸鬚ハ十一節ヨリ成リ暗褐色ヲ呈スレドモ末端ノ三節ハ球桿狀ヲナシ赤褐色ヲ呈ス前胸背ハ長サ翅鞘ノ三分ノ一ニ相當シ黄色ノ短毛ヲ生シ楯板ノ周圍ニハ特ニ多生セリ翅鞘ハ暗褐色ニシテ腹部ノ末端ヲ蔽ヒ全面ニ短キ黄色毛ヲ散生セリ腹面ノ着色ハ背面ト同シキモ短キ黄色毛ヲ以テ密ニ蔽ハル脚ハ暗褐色ニシテ黄色ノ短毛密生セリ腹部各環節ノ腹面ニ於テハ左右各一個ノ曲玉狀ノ斑紋及其中間ニ於テ一對ノ小斑點ヲ存セリ又雄ニ於テハ第三及第四環節ノ正中ニ於テ黄褐色ノ剛毛束ヲ存セリ體長三分餘幅一分

アリ

卵 長橢圓形ニシテ卵殼ハ極メテ軟カク帶黄白色ヲ呈ス長一、五ミ、メ乃至一、七ミ、メアリ

アリ

幼蟲 體軀ハ扁平ナル紡錘狀ヲナシ前方ハ後方ヨリモ太ク頭部及十三個ノ環節ヨリ成ル第十二環節ノ背面ニハ一雙ノ棘ヲ存シ第十三環節ノ後端ニハ肛門ヲ開ケリ頭部ハ暗褐色ニシテ略三角形ヲナシ口具



第十八圖 トビカツヲブシムシ(著者)

原圖) 一、成蟲(擴大) 二、繭層ニ存スル卵(自然大) 三、幼蟲(擴大)

トビカツヲブシムシ

ノ左右ニハ短キ觸鬚アリ觸鬚ハ四節ヨリ成リ第三節ハ最モ長ク第四節ハ細小ナリ觸鬚ノ左右ニハ各六個ノ單眼ヲ存ス下顎鬚ハ四節ヨリ成リ下唇鬚ハ三節ヨリ成ル體軀ノ背面ハ暗褐色ヲ呈シ具正中ニ於テ淡色ノ一線ヲ縱走セリ腹面ハ白色ナレトモ第九環節以下ノ環節ニアリテハ背面ノ暗褐色部延長シテ腹面ノ兩側ヲ蔽ヒ第十二環節及第十三環節ニ至リテハ全ク白色部ヲ存セズ頭部及ビ體軀ノ全面



トビカッタアシムシ

ニハ長短相混ゼル褐色毛ヲ生シ背面ニ於テハ長キモノ常ニ前方ニアリテ直立シ短キモノハ後部ニアリテ後方ニ向ヘリ胸脚ハ褐色ニシテ先端ニ一個ノ銳爪ヲ存ス氣門ハ褐色ニシテ第二環節及第四乃至第十一ノ各環節ニ存シ第二環節ニ存スルモノハ特ニ大ニシテ第一環節トノ接線ニ近ク存セリ以下後方ニ至ルニ從ヒ漸次小形トナル充分成長セルモノハ體長六分幅一分三厘ニ達ス

蛹 體軀ハ紡錘狀ヲナシ淡黃色ニシテ皮膚ニハ短毛ヲ密生ス脚及翅ハ體ニ緊着セズ腹部ノ背面ニハ第二乃至第六環節ノ後端及第三乃至第七環節ノ前端ニ於テ褐色ノ孤線ヲ存シ前端ノ孤線ト前環節後端ノ孤線トハ相對シテ舟狀ヲ形成セリ又腹部末環節ノ背面ニハ一雙ノ棘ヲ生ズ體長二分七厘乃至三分アリ

經過習性

本種ハ一年一回ノ生代ヲ營ムモノニシテ成蟲若クハ蛹ヲ以テ越年シ五月ノ頃交尾産卵ス卵ハ凡ソ一週間ヲ經テ孵化スルモノナレトモ成蟲ハ約二ケ月ノ長キニ亘リテ産卵スルモノナレバ從ツテ孵化時期モ區々ニシテ七月下旬尙ホ孵化當時ノ幼蟲ヲ見ル事アリ又本種ハ多ク倉庫内ニ棲ミ貯藏物質ヲ食害シ暗所ニ慣ル、

トビカッタアシムシ

ヲ以テ其産卵ノ場所ノ如キモ暗所ヲ撰ミ室内ノ柱床板ノ罅隙又ハ繭層内ニ産下シ決シテ露出スルコトナシ而シテ卵ハ通例數個乃至十數個群産セラル一雌蟲ノ産卵數ハ三十粒内外トス幼蟲ハ孵化後六十餘日ヲ經テ六回ノ脱皮ヲ終リタル後化蛹スルモノナリ

加害ノ狀況

本種ハ成蟲幼蟲共繭ヲ害スルモノニシテ春期成蟲ハ死籠繭等ノ臭氣ニヨリ誘致セラレ蛹ヲ食トシ繭層内ニ産卵ス孵化セル幼蟲ハ繭内ニ侵入シ蛹體ヲ食盡スレバ再ビ他ノ繭ニ小孔ヲ穿チテ侵入ス之レガ爲メ繭ハ綠絲シ能ハザルニ至ルモノナリ本種ニヨリテ繭層ニ穿タレタル小孔ハ蠶蛆ノ脱出セルモノヨリ小形ニシテ且ツ其位置ノ定マラザルニヨリ區別シ得ラル

本種ハ亦生絲ヲモ食害ス

分布

各地ノ乾魚搾粕等ノ貯藏庫及貯繭庫ニ於テ常ニ認ムル所ニシテ分布廣キ種類トス



トビカツチアシムシ

驅除豫防

- 一、貯繭庫内ニ於テ二硫化炭素ヲ揮發セシムレバ之レヲ滅盡シ得レトモ同瓦斯ハ引火爆發ノ性アレバ充分ノ注意ヲ要ス
- 二、貯繭庫ノ内面ヲ鐵葉若クハ亞鉛板張リトナシ窓ニハ細目ノ金網ヲ張リ害蟲ノ侵入及ビ潜伏ヲ防キ時ニ清潔法ヲ行フベシ
- 三、上繭ハ必ズ鐵葉罐ニ貯藏スベシ澁紙袋ハ害蟲ノ侵入ヲ防グニ足ラザルモノトス
- 四、上繭ト下繭トハ別所ニ貯ヘ若シ下繭ノ害蟲ヲ誘致スルコトアルモ上繭ヲ損ゼザル様ナスベシ
- 五、以上注意ヲナスモ尙本害蟲ノ侵害ヲ被リタルトキハ華氏百三十度乃至百五十度ノ溫度ヲ以テ三十分前後繭ノ乾燥ヲ行フベシ蓋シ本種ノ成蟲及幼蟲ハ華氏百三十度ニ二十五分百五十度ニ十分接觸スルトキハ死滅スルモノナリ

ケアカカツチアシムシ

學名 *Dermestes tesselator* Motsch  
 分科 鱗節蟲科 Dermestidae  
 異名 カタアカハムシ

形態

成蟲 體軀ハ黑色ニシテ刻點ヲ密布シ頭部ハ僅カニ前胸下ニ顯ハレ長キ黃褐色ノ毛ヲ密生ス觸鬚ハ暗紫褐色ニシテ球桿部ハ灰褐色ヲ呈シ前胸背ハ長キ翅鞘ノ二分ノ一ニ相當シ前縁ハ丸ク其全面ニハ長キ黃褐色ノ毛ヲ密生シ楯板ノ周圍ニハ黃色ノ毛ヲ密生セリ翅鞘ハ全面ニ白色ノ短毛ヲ散生シ翅底ニ於テハ白毛ノ間

第十九圖



ケアカカツチアシムシ

(著者原圖)

ニ同長ノ黃褐色毛ヲ混ジタリ脚ハ暗褐色ニシテ大腿節ノ中央ニハ白色ノ帶條ヲ有ス腹部各環節腹面ノ左右ニハ各一個ノ黑色斑點ヲ有シ其中第一環節ニアルモノ及第五環節ニアルモノハ特ニ大ニシテ第



クアカカツナアシムシ

五環節ニ存スルモノハ左右相接近シ往々融合シテ一個ノ斑紋トナルモノアリ雄ノ剛毛束ハ黄色ヲ呈シ體長二分五厘幅一分アリ

卵 形態着色凡テ前種ニ同ジク長サ一、六ミ、メ幅〇、五ミ、メアリ

幼蟲 體軀ノ形狀及着色ハ略前種ト異ナラザレドモ體軀稍細ク頭部額上ニ於テ

一對ノ小突起ヲ有シ背線ハ前者ニ比シテ其幅稍廣シ充分成長セルモノハ體長四分八厘幅八厘アリ

蛹 一般ニ小形ナル他ハ形態着色共ニ前種ト異ナルコトナク體長五分五厘幅八厘アリ

經過習性

一年一化ニシテ成蟲若クハ蛹ヲ以テ越冬シ前種ト同シク五月頃ヨリ産卵ヲ初ム

一雌蟲ノ産卵數ハ四十粒内外ナリ卵ハ一週間前後ニシテ孵化シ七回ノ脱皮ヲ經テ七月中下旬ノ頃ヨリ柱床板或ハ蠶蛹内ニ於テ化蛹シ一週間前後ニシテ羽化ス

レトモ孵化ノ時期遅レシモノハ蛹態ノ儘越年スルモノナリ

加害ノ狀況

加害ノ狀況

前種ニ同ジ

分布

前種ト同ジク各地此發生ヲ聞ク

驅除豫防

前種ニ同ジ

### ハナマルカツヲブシムシ

學名 *Anthrenus scrophulariae* L.

分科 鞘翅目 鱗節蟲科 Dermestidae

異名 コカツヲムシ

形態

成蟲 體軀ハ扁平ニシテ幅廣ク黒褐色ヲ呈シ前胸背及ビ翅鞘ニハ横ニ三條ノ白色毛ヲ生ゼル部ヲ存ス此白毛中ニハ往々淡紅色ノ毛ヲ混ジ翅鞘ノ後縁亦僅カニ

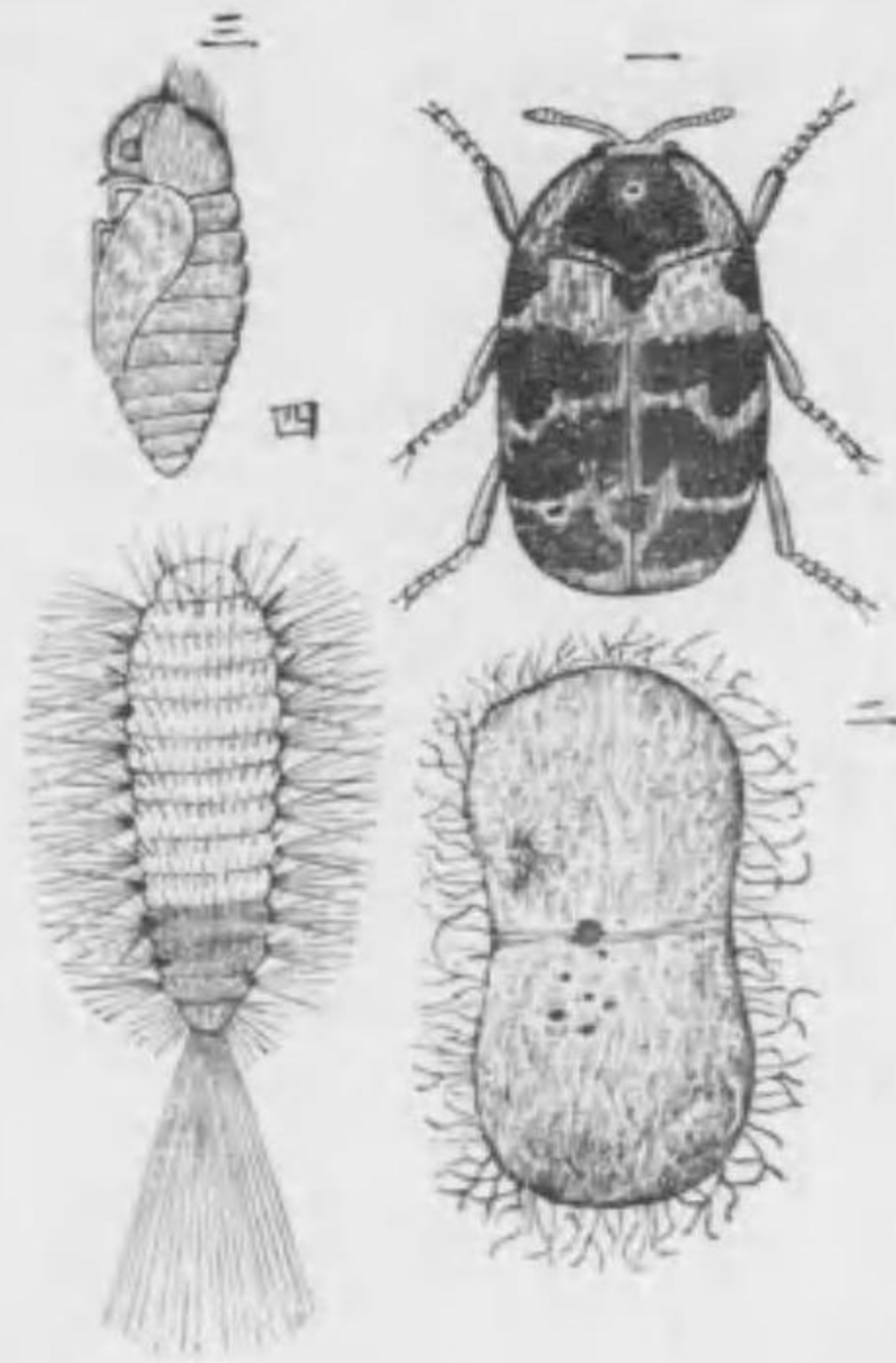
紅色ヲ帯ビタリ複眼ハ黒色ニシテ額ニ一個ノ單眼ヲ存ス觸鬚ハ黄褐色ニシテ十

ハナマルカツヲブシムシ



ハナマルカッタブシムシ

一節ヨリ成リ末端ノ三節ハ膨大シテ球桿状ヲナス下顎鬚ハ四節ヨリ成リ第四節ハ他ノ三節ノ和ヨリ長ク下唇鬚ハ三節ヨリ成リ第三節ハ他ノ二節ノ和ト同長ナリ脚ハ黄褐色ヲ呈ス體



第二十圖 ハナマルカッタブシ

マルカッタブシ

シムシ(著者原圖)

一、成蟲(擴大)

二、繭ニ存スル卵(自然大)

三、蛹(擴大)

四、幼蟲(擴大)

長一分内外ナリ

卵 長楕圓形ニシテ僅

カニ黄色ヲ帯ビ長サ〇、

四三乃至〇、六、ミ、メアリ

幼蟲 體軀ハ紡錘形ヲ

ナシ淡褐色ヲ呈シ頭ニ

ハ一對ノ觸鬚ト六對ノ單眼トヲ有ス口具ハ強靱ナル上顎ヲ具ヘ胸部ハ十二環節ヨリ成リ淡褐色ニシテ褐色ノ長毛ヲ密生シ三對ノ胸脚ヲ有ス充分成長セルモノハ體長一分五厘内外ニ達ス

蛹 體軀ハ淡褐色ヲ呈シ常ニ幼蟲ノ皮殼ニヨリ包マレ僅カニ背面ヲ露出ス體長一分内外アリ

經過習性

一年二回若クハ三回ノ世代ヲ營ムモノニシテ成長セル幼蟲ヲ以テ越年シ六月頃羽化シ繭層ノ間ニ産卵ス卵ハ一週間前後ニシテ孵化シ繭層ヲ穿貫シテ内部ノ蛹體ニ達シ之レヲ食トシテ成長シ數回ノ脱皮ヲ經テ化蛹シ再ビ羽化産卵スルモノナリ本種ハ繭内ニ穿入セバ食餌ノ存在スル間ハ概ネ其内部ニアリテ他ニ移ルコトナキモ其盡クルトキハ出デ、再ビ他ノ繭内ニ侵入スルモノナリ

加害ノ狀況  
前二種ト異ナラザレトモ本種ハ、ビシヨ繭層繭等ヨリ反ツテ充分乾燥セル上繭ニ好ンデ侵入スルヲ以テ其害甚ダシ

分布  
本種ハ明治四十年京都蠶業講習所技手荒木武雄氏ガ同所標本繭ニ於テ發見セリト稱シ予モ亦之レヲ東京蠶業講習所伊國及佛國産標本繭中ニ於テ發見セリ由是觀之本種ハ從來本邦ニ産セルモノニアラズシテ近來蠶繭ノ輸入ト共ニ歐洲ヨリ傳搬セラレタルモノ、如ク未ダ本邦ニ於ケル分布ハ廣カラザルベシ

ハナマルカッタブシムシ



コクヌストウモドキ

驅除豫防  
前二種ニ同ジ

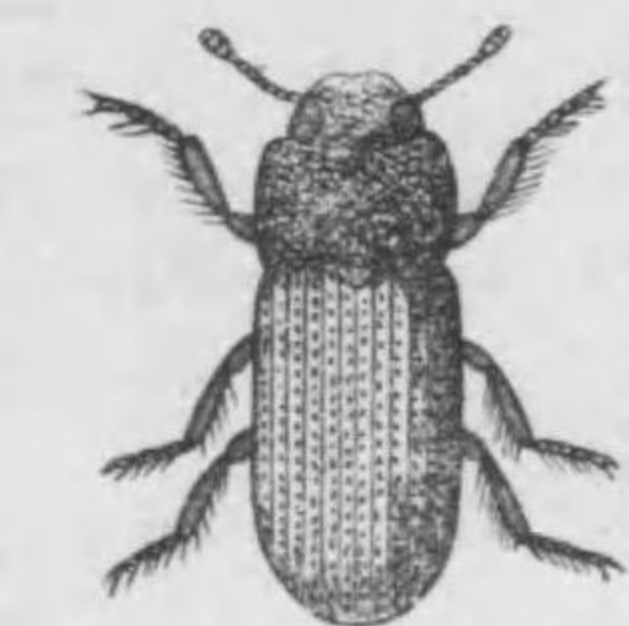
### コクヌストウモドキ

學名 *Tribolium ferrugineum* Fabr.  
分科 鞘翅目 朽木蟲科 Tenebrionidae.

形態

成蟲 體軀扁平ニシテ赤褐色ヲ呈シ頭部ニハ刻點ヲ密布ス複眼ハ黑色ニシテ觸

#### 第二十一圖



鬚ハ十一節ヨリ成リ末端ノ三節ハ膨大シテ球

コクヌス

トウモド

キ(擴大)

(著者原圖)

ハ各一本ノ刻點列ヲ存ス體長一分五厘幅五厘

幼蟲 體軀ハ黃褐色ニシテ頭及十二環節ヨリ成リ三對ノ胸脚ヲ有ス體ノ末環節

アリ

ニハ三個ノ突起ヲ存シ體ノ全面ニハ短毛ヲ散生セリ充分成長セルモノハ體長二分内外アリ

蛹 體軀ハ白色ニシテ腹部ノ兩側ニハ先端五個ニ分岐セル各一個ノ突起ヲ生ジ

尾端ニハ二個ノ突起ヲ存セリ

經過習性

一年四回ノ世代ヲ營ムモノニシテ幼蟲ヲ以テ越年シ五月初旬羽化産卵シ凡ソ三

十五日ニシテ一世代ヲ完了ス

驅除豫防

前種ニ同シ

### アカクビホシカムシ

學名 *Corynetes ruficollis* Fabr.  
分科 鞘翅目 郭公蟲科 Cleridae.

形態

アカクビホシカムシ



アカクビホシカムシ  
成蟲 頭部ハ小ニシテ觸鬚ハ十一節ヨリ成リ末端ノ三節膨大シ胸部翅鞘ノ基部及脚ハ赤褐色ナレトモ他ハ暗綠色ヲ呈シ翅鞘ニハ數個ノ縱條ヲ存シ蹠節ハ四節ヨリ成ル  
經過習性  
一年數回ノ發生ヲナスモノ、如ク成蟲ハ四五月頃ヨリ現出シテ繭ヲ害ス



第二十二圖  
アカクビホシカムシ  
本種ハ主トシテ乾鰹、鯨節、豚ノ薰腿等ヲ食害スルモノナレトモ往々貯繭庫ニ現ハレテ害ヲナスコトアリ然レトモ發生多カラザレバ被害大ナラズ  
(著者原圖)

分布  
詳カナラザレトモ各地ニ存在スルモノ、如シ  
驅除豫防  
前種ニ同ジ

桑樹ノ害蟲

クダマキモドキ

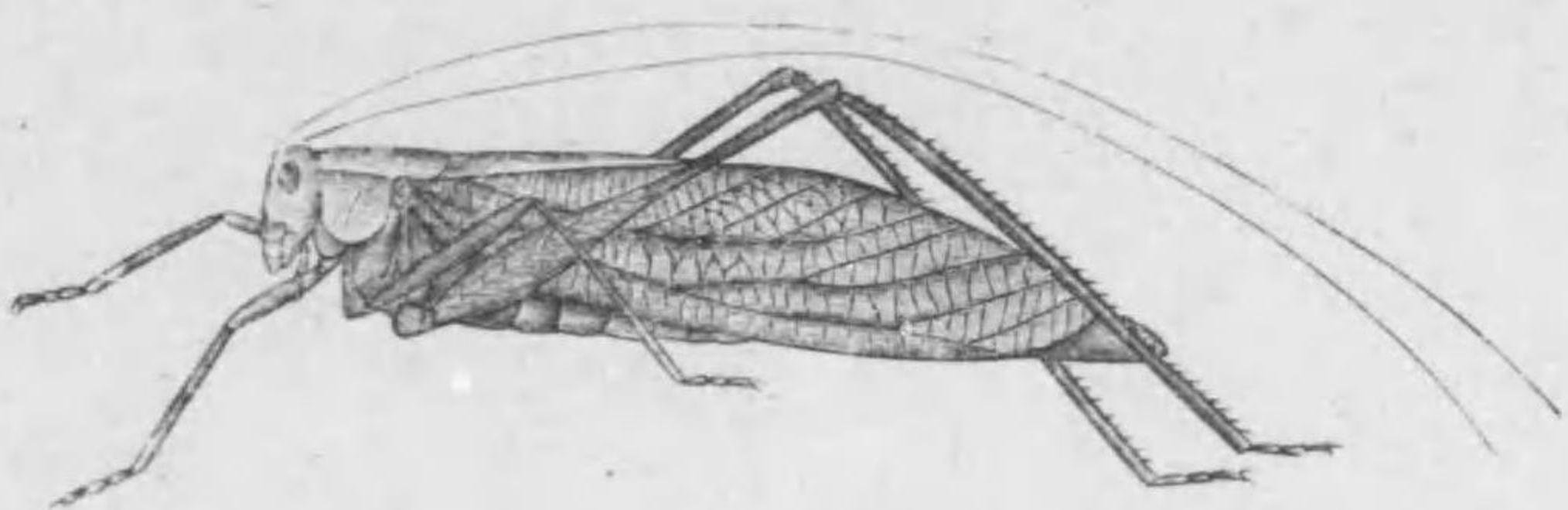
學名 *Holochlora brevifissa* Brunner.  
分科 直翅目蝻蜥科 *Locustidae*.  
異名 クダマキダマシ  
方言 バツタ、スイツチヨ(愛知)

形態  
成蟲 體軀ハ綠色ニシテ複眼ハ卵形ヲナシ黃綠色ヲ呈ス觸鬚ハ黃褐色ニシテ長ク絲狀ヲナシ遙カニ翅端ヲ超ユ前胸背ハ狹長ニシテ後緣圓ク中央ニハク字形ニ屈曲セル横溝ヲ存シ前翅ハ長ク之レヲ疊ム時ハ腹部ノ長サニ二倍シ中央最モ幅廣ク前緣脈ハ黃色ナリ後翅ハ少シク前翅ヨリ長ク膜質ニシテ靜止ノ際ハ前翅ノ下ニ隠ル脚ハ後脚特ニ發達シ各脛節ニハ刺ヲ生セリ雄ノ前翅ニ存スル發音鏡ハ略三角形ヲナシ雌ノ産卵器ハ短ク薙刀狀ヲナシテ上方ニ彎曲シ先端黑色ナリ體

クダマキモドキ



ククマキモドキ



(大然自)キドモキマダク 圖三十二第

卵二 蟲成一 (圖原者著)

長翅端マデ二寸内外アリ

卵 灰褐色長橢圓形ヲナシ長サ一分内外アリ

幼蟲 翅ヲ缺如スルノ他形態ニ於テ成蟲ニ酷似スル

モノナリ

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノ、如ク九月乃至十月ノ頃  
成蟲桑園ニ現ハレ枝條ノ上梢部ヲ撰ビ其産卵器ヲ以  
テ樹皮ニ長サ二三寸ノ縦裂ヲ作り其間隙ニ不規則ナ  
ル二列ヲナシテ卵ヲ産下シ其表面ニ灰褐色ノ薄キ被  
膜ヲ構成ス卵ハ其儘越冬シ翌春ニ至リテ孵化ス

加害ノ狀況



幼蟲及成蟲ハ桑葉ヲ害スルコトナキモ其産卵ノ際枝  
條ヲ傷クルガ爲メ  
其部ノ枯死腐蝕ヲ

來シ害ヲ被ルモノナリ

分布

東京附近ニ於テモ之レヲ認ムルト雖其加害甚シカラズ愛知兵庫ノ二縣ニ於テハ  
此被害アルヲ聞ケリ

驅除豫防

一、冬季枝條ニ群産セラレタ卵ヲ枝條ト共ニ燒却スベシ

二、桑園若クハ其附近ニ於テ成蟲ヲ發見シタルトキハ之レヲ捕殺スベシ

### アライトトンボ

學名 *Lestes temporalis* Selys.

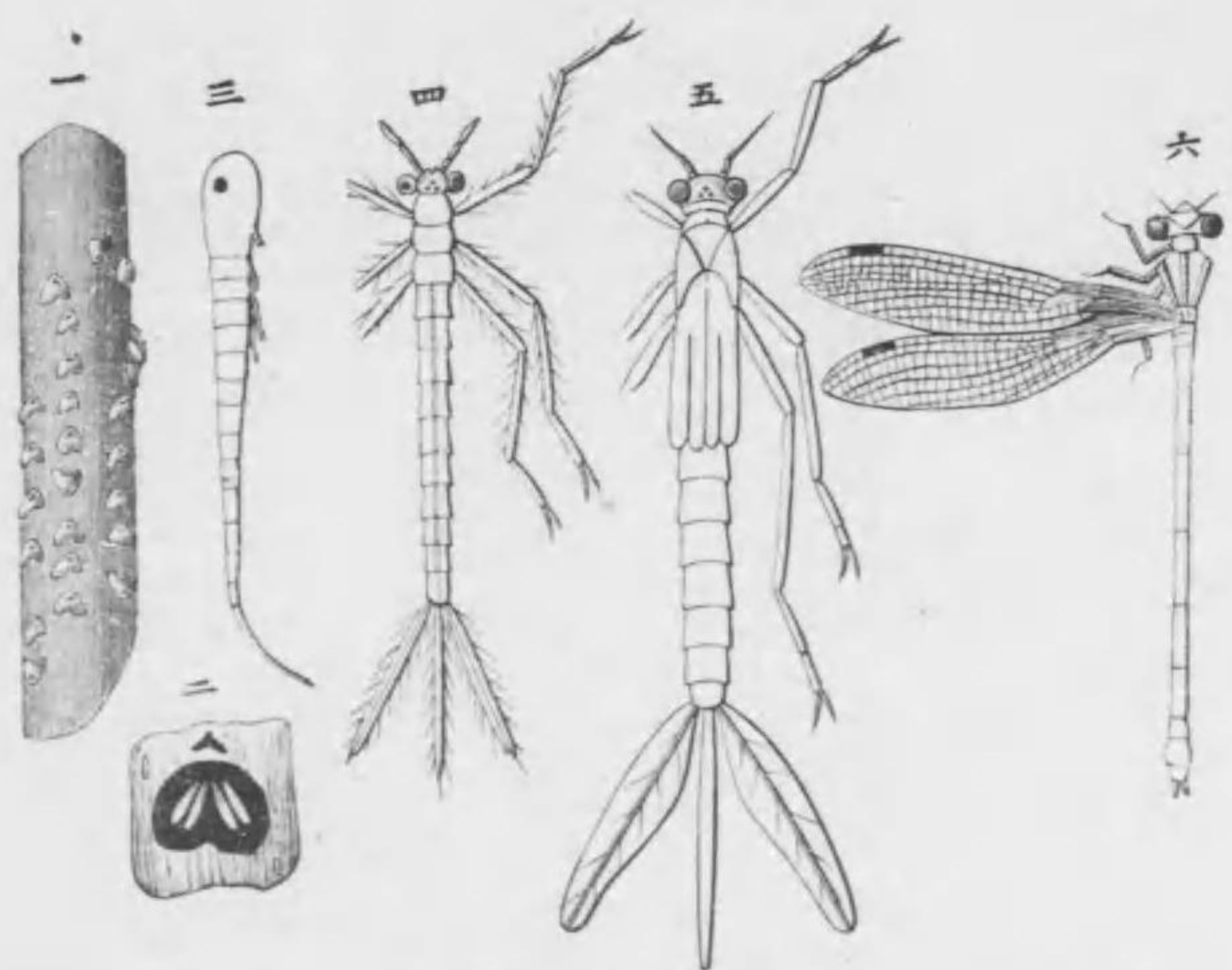
分科 蜻蛉目蜻蛉科 Libellulidae

形態

成蟲 體軀ハ細長ニシテ全體綠色ヲ呈シ鑛物光澤ヲ有ス腹面ハ黃褐色ナリ複眼  
ハ黑色ニシテ球形ヲナシ單眼ハ濃褐色ニシテ光澤ヲ有シ觸鬚ハ剛毛狀ニシテ短

アライトトンボ





アライトトンボ

第二十四圖

アライトトンボ

小ナリ翅ハ透明ニシテ翅脈ハ黒色ヲ呈シ静止ノ際ニハ之レヲ背上ニ疊ム體長一寸五分翅ノ開張一寸七分内外アリ

- 一、被寄枝終(自然大)
- 二、卵(擴大)
- 三、孵化當時の幼蟲(擴大)
- 四、稍發育する幼蟲(擴大)
- 五、成熟せる幼蟲
- 六、成蟲(自然大)

卵 紡錘形ニシテ淡黄色ヲ呈シ一端黒色ナリ長サ七八厘アリ  
 幼蟲 孵化當時ノモノハ細長キ圓錐形ヲナシ前端ハ鈍圓形ヲナシテ太ク漸次後方ニ向ツテ細尖セリ色ハ淡黄ニシテ觸鬚ハ發達セズ眼ハ黒色ヲ呈シ下唇ハ長ク延ビ

タリ又三對ノ脚ハ體ニ密着シテ尾端ノ呼吸器モ合着シテ尾毛狀ヲナス體長呼吸器ヲ合シテ一分内外ナリ  
 幼蟲ガ第一回ノ脱皮ヲ終ルトキハ體軀淡黄綠色トナリ環節ハ黒色ニシテ觸鬚ハ四節トナリ脚モ著シク伸長ス前脚ハ中脚ヨリ短ク中脚ハ後脚ヨリ短シ孰レモ纖毛ヲ生ジ且一蹠節ナリ又合着セル尾端ノ呼吸器ハ此際分レテ三本トナリ各呼吸器ハ劍狀ニシテ中央ニ氣管ヲ通ジ之レヨリ左右ニ羽毛狀ノ細管ヲ分布ス此呼吸器ハ呼吸作用ヲ營ムノ外其游泳中ニ於テハ進行ヲ助ケ恰モ櫂ノ如キ作用ヲナスモノナリ幼蟲ガ更ニ二三回ノ脱皮ヲナストキハ體ハ多少黒味ヲ帯ビ觸鬚ハ七節脚ハ二蹠節トナリ呼吸器ハ葉狀ニ變ジ其表面ニハ暗色ノ斑紋四個ヲ生ジ且末端モ暗色トナル又幼蟲期ノ終ニ達スレバ胸背ニ二對ノ翅芽ヲ生ジ體長七八分トナル

經過習性

本種ハ一年一回ノ發生ヲナシ卵態ヲ以テ越年ス幼蟲ハ五月下旬頃ヨリ發生シ孵化當時ノ幼蟲ハ脚ガ體ニ密着シテ伸長セザルヲ以テ全然歩行スルコト能ハズ僅

アライトトンボ



アナイトトンホ

カニ體ヲ屈曲シテ跳飛スルモノナレドモ其後一兩日ヲ經第一回ノ脱皮ヲ終リ脚ノ伸長シタル後ハ水中ニ入り初メハ「ゾウリムシ」ミジンコ等ノ如キ小動物ヲ食シ次第ニ成長スルト共ニ水棲小昆蟲ヲ食トスルニ至ル而シテ孵化ヨリ凡ソ二ヶ月ヲ經レバ幼蟲ハ充分成熟シ食ヲ絶チ水中ヨリ出デ附近ノ草上ニ登リ脱皮シテ成蟲トナル成蟲ハ桑樹其他植物ノ枝條ヲ傷ケ其内ニ卵ヲ産下ス而シテ卵ハ通例二個宛八字形ニ相對シテ産附セラレ一枝條ニ多數群集スルコト多シ

加害ノ狀況

成蟲ハ桑樹及ビ葎樹ノ皮下ニ産卵シ篩管部及ビ形成層ヲ害スルヲ以テ産卵多數ナルトキハ樹液ノ循環ヲ妨ゲ生育ヲ害スルニ至ル今産卵部ヲ表面ヨリ見ルトキハ樹皮浮腫シテ浮塵子ノ卵痕ニ彷彿タリ

分布

本種ハ山形、岩手、茨城等ノ二三府縣ニ於テ桑園及ビ葎樹園ニ此被害アリタレドモ其分布大ナラザルガ如シ

驅除豫防

本種ノ被害著シキトキハ被害枝條ヲ伐切シ其卵ト共ニ燒棄スルヲ良トスレドモ蜻蛉類ハ元來小昆蟲ヲ捕食シ益蟲ト認メラル、モノナレバ其産卵ノ季節ニ於テ桑樹ノ枝條ニ揮發性臭氣ヲ有スルモノヲ塗抹シテ成蟲ノ襲來ヲ防ギ産卵ヲ豫防スレバ一層可ナリ

附記

本項ノ記事ハ農事試驗場員深谷徹氏ノ研究ニ負フ所多ク且挿圖ニ用ヒタル標本モ同氏ノ好意ニ依リ得タルモノナリ

### 桑ノスリツプス

學名 *Belothrips mori* Niwa

分科 胞脚目 薊馬科

異名 桑ノ木蟲、桑ノ薊馬、クハノムクグムシ

形態

成蟲 體軀ハ淡黄色ニシテ細長ク小形ノ昆蟲ナリ頭部ハ幅廣ク左右ニ黑色ノ複眼ヲ有シ頭頂ニ赤褐色ノ單眼三個ヲ存ス觸鬚ハ短ク六節ヨリ成リ尖端ニ二刺ヲ

桑ノスリツプス



桑ノスリツプス



第二十五圖

桑ノスリ

ツプス

(擴大)

(著者原圖)

有ス口具ハ吸收口ニシテ上顎及下顎ハ針狀ヲナシ其基部ニ上唇ヲ存ス前胸ハ大ニシテ方形ヲナシ中胸後胸ハ癒合シテ境界線明カナラズ此部ニ二對ノ細長キ薙刀狀ヲナセル翅ヲ有シ其周縁ニハ長毛ヲ有ス翅ハ靜止ノ時ニハ之レヲ重ネテ背上ニ横タフ脚ハ短ク蹠節ノ尖端ニハ爪ヲ缺キ一個ノ膜質囊狀體ヲ存ス此ノ囊狀體ハ蹠節ノ末端ニ存スル小孔ヨリ血液ノ作用ニヨリ自由ニ出入ス腹部ハ九環節ヨリ成リ末端ハ漸々細マリ各節ノ左右ニハ小刺ヲ有ス體長三分内外アリ

幼蟲 體軀ハ略成蟲ト同シク只翅ヲ缺クヲ以テ明カニ區別シ得ラル

經過習性 本種ノ經過ハ未ダ明カナラズト雖モ一年二三回ノ發生ヲナスモノ、如ク幼蟲及成蟲ノ狀態ヲ以テ雜草等ノ間ニ於テ越冬シ春期ヨリ桑園ニ現出シ脚ノ末端ニ存スル囊狀體ニヨリ巧ニ葉上ヲ走行シ其針狀ノ口吻ヲ插入シテ液汁ヲ吸收シ五六

月ノ頃其卵ヲ桑葉ノ裏面ニ産下ス卵ハ數日ニテ孵化シ幼蟲ハ三四週日ヲ經バ靜止シテ食ヲ斷チ恰モ蛹期ノ如キ狀ヲ呈ス此時期ニ至レバ小形ノ翅基ヲ生ズ後成蟲ト化シ産卵スルモノナリ

成蟲ハ桑葉ノ上ヲ緩急自在ニ步行シ步行ニ際シテハ常ニ其腹部ヲ背上ニ持上グルノ奇習ヲ有ス之レ腹部側面ニ存スル小刺ヲ以テ翅ノ周縁ニ存スル長毛ヲ分ツ爲メナリト稱セラル

加害ノ狀況 幼蟲成蟲共葉柄葉片ノ別ナク口吻ヲ插入シ液汁ヲ吸收スルガ故ニ葉片ニアリテハ被害部ハ凹陷シ褐色ニ變ジ又葉柄葉脈ノ此害ヲ被ムル時ハ其發育ヲ妨ゲラレ葉ハ捲曲シテ恰モ萎縮病ノ如キ狀ヲ呈ス而シテ葉裏ニ産下セラレタル卵ヨリ孵化セル幼蟲ハ轉々加害シ成蟲トナレバ梢頭ノ嫩葉ニ移リテ食害スルヲ以テ成蟲ハ多ク上梢部ニ棲息ス

分布

群馬、島根、岐阜、高知、愛媛ノ諸縣ニ於テ甚ダシキ被害アリ東京附近ニ於テモ之レヲ

桑ノスリツプス



桑ノスリツナス

認ムレトモ其害輕微ナリトス

驅除豫防

一、ポンプヲ以テ石鹼水ヲ灌注スレバ殺蟲ノ効アリ

二、石油乳劑二十五倍稀釋液ヲ撒布スレバ成蟲幼蟲卵ヲ殺滅シ得ベシ

三、佐々木博士ノ樟ノ「ムクゲムシ」ニ對シテ實驗セラレタル成績ニヨレバ左記溶液

ヲ以テ最モ効アリタリトセラル本種ニ準用シテ効果アルベシ

鯨油 二斗二升五合

曹達 一貫目

水 四石五斗

煙草「エキス」四百五十匁約五合

但シ右ハ樟苗若クハ樟畑一町歩ニ對スル用量ナレバ桑園ニ行フ場合ニハ適宜  
用量ヲ加減スベシ

### クハノカヒガラムシ

學名 *Diaspis pentagona* Targ-Tozz.

分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae.

方言 コセ(愛知)、シラミ(香川)、カヒガラ(大分)、クワジラミ(石川)、キズラミ(青

森)、シラコムシ(秋田)、ネチ(京都)、シロコ(岩手)、シロザメ(兵庫)、キアプロ

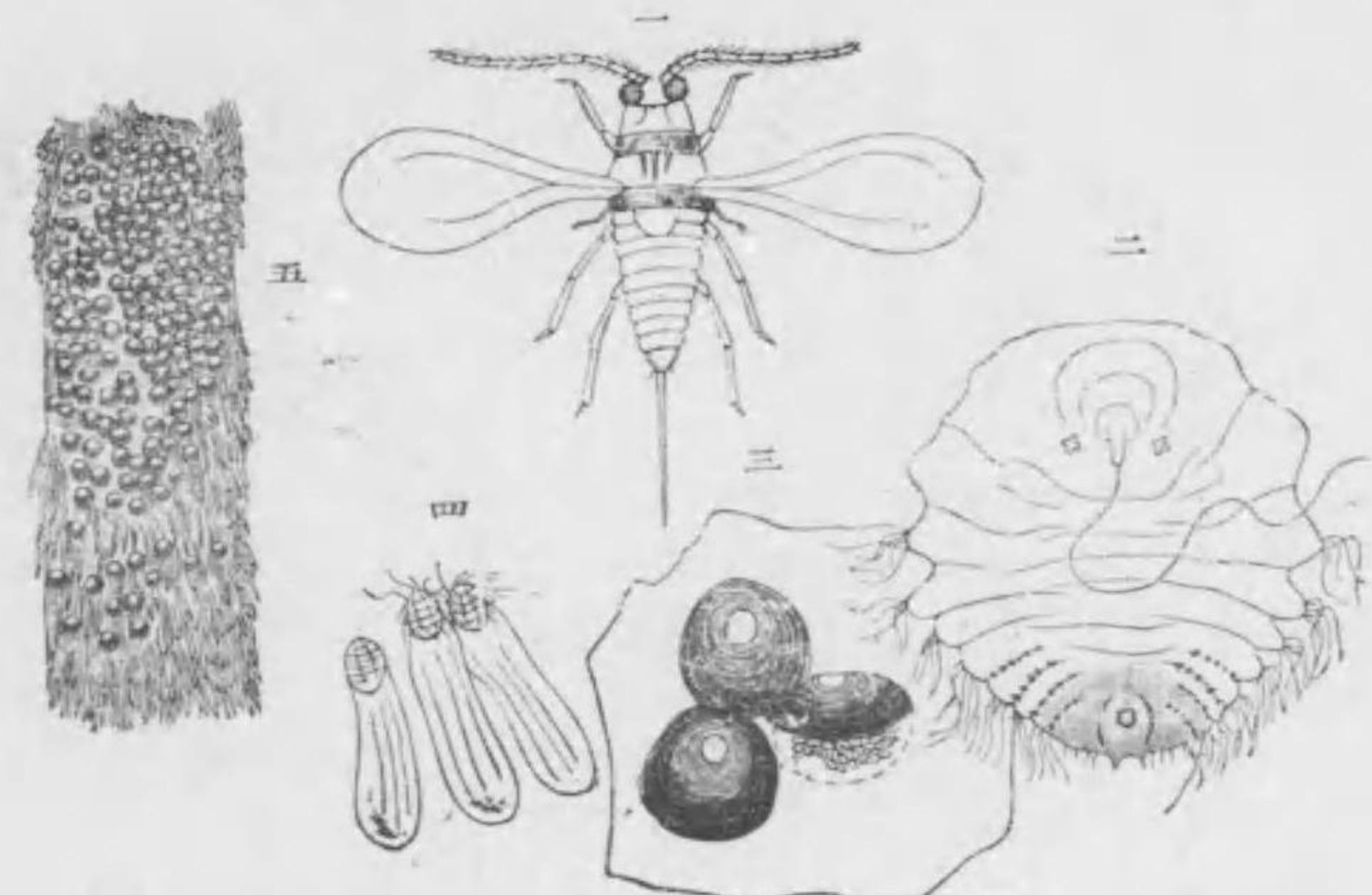
(岐阜)

形態

成蟲 雌雄著シク形態ヲ異ニシ雄ハ體軀橙赤色ヲ呈シ頭部ハ少シク尖リ左右ニ  
各二個ノ單眼ヲ存ス觸鬚ハ長ク十節ヨリ成ル胸部ハ方形ニ近ク前胸最モ大ニシ  
テ中胸ニハ一對ノ翅ヲ有シ膜質ニシテ杓子狀ヲナシ二本ノ翅脈ヲ有ス後胸ニハ  
後翅ノ退化變形セルク字狀ノ平均棍ヲ有シ其尖端ハ剛毛ニ化セリ脚ハ略同形ニ  
シテ脛節長ク蹠節ハ一節ヨリ成リ其尖端ニ一個ノ爪ヲ有シ爪ノ側ニハ三個ノ長  
毛ヲ生ズ體長二厘内外アリ

クハノカヒガラムシ





クハノカヒガラムシ

(圖原者著) シムラガヒカノハク 圖六十二第

一、雌 (擴大)  
 二、雌 (擴大)  
 三、雌ノ殼及  
 殼下ノ卵  
 ナ示ス(擴  
 大)  
 四、雄(擴大)  
 五、枝ニ附着  
 セル狀(自  
 然大)

雌ハ翅ヲ缺キ輪割不規則ナル楕  
 圓形ニシテ略圓形ニ近ク尾端ニ  
 向ヒ稍狭シ觸鬚ハ短ク一節ヨリ  
 成リ尖端ニ於テ三本ニ分岐シ其  
 基部ニ一個ノ長キ剛毛ヲ有ス體  
 軀ハ九環節ヨリ成リ腹部ニ於テ  
 ハ環節判然シ淡黄色或ハ橙黄色  
 ヲ呈シ背面ニハ第五環節ヨリ第  
 九環節ノ間ニ於ケル接線ニ於テ  
 一二列ノ分泌孔ヲ具フ臀板ハ黃  
 褐色ニシテ單一ナル若クハ分岐  
 セル剛毛ヲ生ジ尾端ヨリハ二本  
 ノ長毛ヲ出ス體長約四厘アリ  
 雌蟲ノ背面ニハ分泌物ニ依リ圓

形若クハ横橢圓形ノ介殼ヲ構成ス介殼ノ着色ハ灰白色或ハ灰褐色ニシテ殼點ハ  
 橙黄色ナリ殼點ハ幼蟲第一及ビ第二回ノ脱皮殼ヨリ成ルモノニシテ一方ニ偏シ  
 テ存在ス

卵 卵圓形ニシテ橙赤色ナルヲ常トスレドモ稀ニハ殆ンド白色ナルモノアリ長  
 サ半厘餘ニシテ一般ニ濃色ノモノハ淡色ノモノニ比シ稍大ナリ

幼蟲 孵化當時ノモノハ橢圓形ニシテ九節ヨリ成リ脚ヲ有シ自由ニ歩行ス着色  
 ハ橙赤色ノモノト淡色ノモノトアリ卵ノ着色ト一致シ成長ノ後前者ハ雌蟲トナ  
 リ後者ハ雄蟲トナル觸鬚ハ頭部ノ下面ニ在リ五節ヨリ成リ第一節最モ短ク第五  
 節ハ細長ニシテ他ノ四節ヲ合シタルモノト略同長ナリ各節共ニ纖毛ヲ生ズ眼ハ  
 黒色ニシテ頭部ノ前縁ニ二短毛ヲ有ス胸部ノ幅ハ最モ廣ク腹部トノ境判然セズ  
 腹部ハ尾端ニ向ヒテ漸次細マリ環節ハ明瞭ニシテ尾端ニ二長毛ヲ有ス脚ハヨク  
 發達シ略同大ニシテ大腿節ト脛節トハ同長ナリ

幼蟲ハ第一回ノ脱皮ヲ終レバ觸鬚及ビ脚ヲ缺如シ雌雄ヲ區別シ得ラル即チ雌ハ  
 體軀橙赤色ヲ呈シ臀板ハ濃黄色ヲ帶ビ腹部ノ外縁ニ數多ノ刺毛アリ又刺毛ノ中  
 グハノカヒガラムシ



クハノカヒガラムシ

間ハ四入ス雄ハ雌ニ比シ少シク長形ニシテ淡黄色ヲ呈シ臀板ハ濃色ナリ  
第二回ノ脱皮ヲ終レバ雌ハ體軀洋梨形トナリ臀板ハ尖リテ深黄色ヲ呈シ其他ノ  
部分ハ淡黄色ナリ又雄トナルベキモノハ此際蛹態トナリ食ヲ絶ツ

蛹 長橢圓形ニシテ橙黄色ヲ呈シ眼ハ濃紫色ニシテ二對アリ觸鬚及ビ翅脚ハ體  
ニ緊着シ口吻ハ之レヲ缺如ス腹部ノ環節ハ判然シ交接器ハ長シ體長約二厘アリ  
經過習性

一年三回ノ世代ヲ營ムモノニシテ雌蟲ハ介殼ノ下ニ於テ越冬ス雌蟲ハ翌春樹液  
ノ活動ト共ニ吸收ヲ始メ體軀肥大シ四月下旬乃至五月上旬ニ至リ介殼ノ下ニ百  
粒内外ノ卵ヲ群産シ卵ハ十八日内外ニシテ孵化ス而シテ橙赤色ノ卵ハ淡色ノ卵  
ニ比シ一週間前後早ク産卵セラル、ヲ以テ孵化モ亦之レニ準ジテ遲速アリ孵化  
セル幼蟲ハ自由ニ枝幹ヲ匍ヒ廻ハリ數時間ノ後ニハ一定ノ場所ニ固着シ口吻ヲ  
樹皮下ニ挿入シテ樹液ヲ吸收ス而シテ雌トナルベキモノハ三回ノ脱皮ヲ經テ成  
蟲トナリ雄トナルベキモノハ二回ノ脱皮ヲ終レバ繭ヲ營ミテ蛹トナル繭ハ白色  
綿狀長橢圓形ニシテ薄ク蛹體ヲ透視シ得ラル故ニ羽化後ノ繭ハ純白ナレドモ羽

化前ノモノハ淡赤色ヲ呈ス長サ四厘内外アリ化蛹後約一週日ヲ經即チ六月下旬  
ニ至ラバ之レヨリ雄蟲羽化シ交尾後暫クニシテ斃死ス而シテハ其生活期間ハ一  
晝夜ヲ超ヘザルモノ、如シ雌ハ七月中旬ニ至リ産卵シ之レヨリ數日ヲ經テ第二  
化ノ幼蟲發生ス斯クノ如キ順序ヲ繰返シ第三化ノ幼蟲ハ九月上旬頃ニ現ハレ九  
月下旬若クハ十月上旬ニ至リ雄蟲羽化シ交尾ノ後斃死スルモ雌蟲ハ受精後其儘  
越年スルモノナリ

本種ハ日光ヲ忌ムノ性アリ陰所ニ好ンデ棲息ス即チ幼蟲ノ孵化後匍ヒ廻ハリテ  
固着ノ場所ヲ撰ブニ當リ枝幹ノ北方ニ面セル所ニ多ク密集シ之レニ反シ南方ニ  
面セル部分殊ニ日光ノ直射スル所ニハ至テ少キヲ常トス而シテ此際幼蟲ノ匍匐  
移行スル距離ハ凡ソ十尺内外ニシテ二十尺ヲ超ユルコト甚ダ稀ナルモノ、如ク  
一時間ニ於ケル移行距離ハ三尺内外ニシテ五尺ニ達スルモノナキガ如シ又雄蟲  
ハ翅ヲ有スレドモ飛翔力ハ至ツテ薄弱ナルモノ、如ク枝幹ヲ歩行シテ雌蟲ヲ求  
メ稀ニ數尺ノ高サニ飛翔スルコトアレドモ風ニ逆ヒ又ハ雨ヲ冒シテ飛翔シ能ハ  
ザルモノナリ

クハノカヒガラムシ



クハノカヒガラムシ

加害ノ狀況

本種ハ幼蟲及ビ成蟲(雌)共ニ長キ絲狀ノ口吻ヲ植物ノ皮下ニ挿入シテ養液ヲ吸收スルモノニシテ主トシテ枝幹ニ寄生スルモノナレドモ稀ニハ葉柄又ハ葉面ニ寄生スルコトアリ而シテ其體軀ノ小ナルヲ以テ一個體ノ加害甚シキニアラザレトモ其繁殖力強大ナルヲ以テ忽チ蔓延シ群集シテ樹液ヲ吸收スルヲ以テ桑樹ハ漸々衰弱ヲ來タシ甚シキハ遂ニ枯死ニ至ルモノナリ尙本種ハ各地ノ桑園ニ之レヲ見ザルコト甚ダ稀ナリト雖著シク蔓延シテ桑樹ノ異狀ヲ呈スルニ至ラザレバ管理者ノ注意ヲ呼起サハルモノ、如シ

本種ハ桑樹ノ害蟲トシテ最モ恐ルベキモノナリト雖桑樹ノ他桃、櫻、櫻桃、梅、杏、李、梨、萃樹、山吹、須具利、梧桐、半夏、柳、杞柳、葡萄、茶、柿、山椒、アカメガシハ、胡桃、橄欖、ボブラ、等ニモ寄生ス

分布

各府縣ニ於テ此害ヲ被ラザル所稀ナリト雖鹿兒島、德島、香川、高知、京都、奈良、兵庫、埼玉、千葉、群馬、山梨、静岡、三重、滋賀、福井、新潟、福島、山形、秋田ノ諸府縣ニハ特ニ此被害甚

ダシキガ如シ

驅除豫防

- 一、冬期落葉後介殼蟲ノ繁殖セル部分ヲ繩、タワシノ類ヲ以テ摩擦シ之レヲ潰殺スベシ
- 二、冬期被害部ニ石油乳劑五倍稀釋液ヲ撒布スルカ石油重油ノ類ヲ塗抹スベシ
- 三、介殼蟲ハ通風惡シキ陰所ニ好ンデ繁殖スルモノナレバ桑樹ノ密植ヲ避ケ射光通風ヲ計ルベシ
- 四、苗木ニハ往々介殼蟲ヲ附着スルコトアレバ苗木購入ノ際ニハ十分之レヲ檢シ寄生ノ憂アレバ青酸瓦斯ヲ以テ燻殺スベシ
- 五、介殼蟲ハ冬期寒氣ノ爲メニ凍死スルノ他、ヒメアカボシテントウムシノ食害ヲ被リ又猩紅菌ノ寄生ニヨリ斃死スルモノ少ナカラザルヲ以テ此等有益蟲及菌類ヲ保護繁殖セシムベシ

天然敵

- 一、ヒメアカボシテントウムシ (Chilocorus similis Bossi.) 成蟲ハ體長一分三四厘半球

クハノカヒガラムシ



クハノカキカヒガラムシ

狀ノ甲蟲ニシテ背面ハ光澤アル黑色ニシテ翅鞘ノ中央ニ一對ノ赤色橢圓形ノ



第二十七圖  
ヒメアカ  
ボンテン  
トウムシ



(著者原圖)  
一、成蟲  
二、幼蟲

背上ニ縦裂ヲ生ズルノミナリ化蛹後旬日ヲ經テ羽化シ其儘越冬スルモノナリ

本種ハ幼蟲及成蟲期トモ介殼蟲ヲ食スルヲ以テ其効尠ナカラズ

二、寄生蜂 名和氏ニ依レバ *Prospalta aurantii* How. 他二三種ノ寄生蜂アリト稱スレ

ドモ詳細ノ記載ナキヲ以テ茲ニ掲グルコトヲ得ズ

三、猩紅菌 (*Nectria coccophila* Nomura) 本病菌ハ介殼蟲ニ寄生シ之レヲ斃死セシムル

モノニシテ此寄生ヲ受ケテ斃死セル介殼蟲ハ體軀乾固シテ其介殼ノ外面ニハ

橙黄赤色ナル擔子層或ハ眞紅色ナル子殻ヲ生ズ本菌ハ繁殖蔓延速カナルモノ

ニシテ米國「ホーワード」博士ニヨレバ本菌ニ犯サレタル介殼蟲ノ附着セル三本

ノ枝條ニ就キ介殼蟲斃死ノ割合ヲ調査セルニ第一枝ニアリテハ總數百八十三

頭ノ内僅カニ四頭、第二枝ニアリテハ總數七百二十三頭ノ内二頭第三枝ニアリテ  
ハ總數千六十四頭ノ内六十二頭生存セル他ハ全部斃死シ居タリト云フ

クハカキカヒガラムシ

學名 *Mytilaspis* sp.

分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae

形態

第二十八圖



クハカキカ  
ヒガラムシ



(一、三、擴大四、自然大)  
(丹羽氏原圖)



一、雌



二、雄の介殼



三、雄の介殼  
四、被害枝條

成蟲 雌ハ體軀略橢圓形ヲナシ紫紅色  
ニシテ觸鬚及ビ脚ヲ缺キ唯長キ口吻ヲ  
有ス臀板ハ黄色ニシテ體長六厘アリ常  
ニ背面ハ介殼ヲ以テ被ハレ介殼ハ牡蠣  
狀ヲナシ黑褐色ニシテ長サ一分内外ア  
リ殼點ハ其前端ニ位ス  
雄ハ體軀淡褐色ニシテ觸鬚ハ九節ヨリ



クハカキカヒガラムシ

成リ灰黄色ヲ呈ス複眼ハ黑色ニシテ胸背ニハ二個ノ濃褐色ノ横帯アリ前翅ハ透明ニシテ平均棍ハ灰黄色ナリ尾端ニハ長キ交尾器ヲ具フ體長約三厘アリ

經過習性

一年一回ノ發生ヲナシ雄ハ七月頃出現シテ雌ト交尾シ雌ハ其儘産卵スルコトナク越年シテ翌年五月頃介殼下ニ三四十粒ノ卵ヲ産下ス此卵ハ間モナク孵化シ雄トナルベキモノハ葉裏ニ移リ褐色ノ介殼ヲ作り雌トナルベキモノハ小枝ノ芽ノ周圍ニ集リ黒褐色ノ介殼ヲ作り樹液ヲ吸收ス

加害ノ狀況

略前種ト同ジキモ繁殖力ハ之レニ比シテ少シ

分布

本種ハ明治四十一年丹羽四郎氏ガ東京蠶業講習所ノ桑園ニ於テ發見セラレタル所ニシテ其分布ノ如キハ未ダ明瞭ナラザレドモクハノカヒガラムシト混在スル場合多キヲ以テ或ハ本種ヲ之レト誤認シ看過スルコト少カラザルベク從テ其分布モ或ハ廣汎ナランカ

驅除豫防  
前種ニ同ジ

### ヒモワタカヒガラムシ

學名 *Takahashia japonica* Okl.

分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae

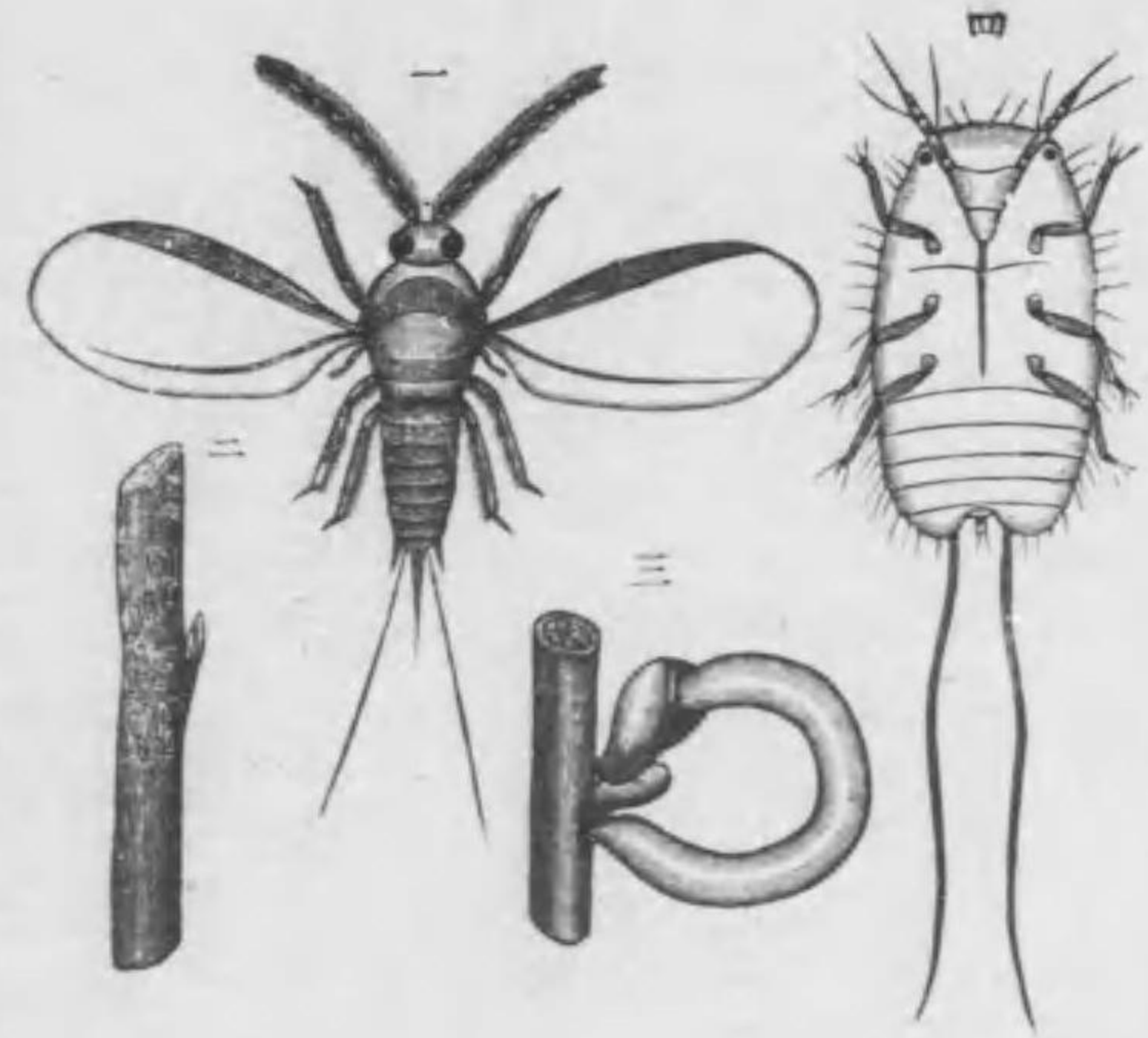
異名 クハノカメノコムシ

形態

成蟲 雌ハ體軀橢圓形ニシテ後端ニ淺キ縷入アリ背面ノ前端ニハ小ナル背板ヲ存ス腹面ハ扁平ナレドモ背面ハ隆起シテ灰黄色ヲ呈シ暗褐色ノ斑紋ヲ存シ又其中央ニハ紅色ノ線ヲ縱走シ産卵ヲ終レバ漸次暗褐色ニ變ズ觸鬚ハ七節ヨリ成リ體長二分五厘アリ雄ハ頭胸腹ノ三部共ニ黄褐色ヲ呈シ複眼ハ暗紫色ナリ觸鬚ハ灰黄色ニシテ十節ヨリ成リ全面ニ纖毛ヲ生ジ第三節最モ長ク第二節最モ短シ胸背ニハ二條ノ暗褐帯アリ前翅ハ幅廣ク半透明ニシテ淡灰黄色ヲ呈スレドモ前縁

ヒモワタカヒガラムシ





ヒモワタカヒガラムシ

第二十九圖

一、雄(擴大)  
 二、雄ノ脚  
 三、卵囊ヲ生シタ  
 四、幼蟲(擴大)

リモ各一個ノ肉質突起ヲ生ゼリ體長四厘翅ノ開張一分内外アリ(雄ノ記載ハ最初發見セラレタル桑名伊之吉氏ヨリ分與セラレタル標本ニ據ル)

卵 橙黄色椭圆形ノ小體ニシテ長サ一厘餘アリテ母體ノ卵囊内ニ包藏セラル

ニ接スル部分ハ桃紅色ヲ帯ビ翅脈ハ灰黄色ナリ翅ヲ背上ニ疊ムトキハ交接器ヲ超ユ後翅ハ鈎狀ノ平均棍ニ變形シ桃紅色ヲ呈ス脚ハ灰黄色ニシテ纖毛ヲ生ジ蹠節ハ脛節ノ四分ノ一ニ充タズ脛節ノ末端内側ニハ一本ノ刺毛ヲ生ズ又腹部ノ末端ニハ一個ノ長キ交接器ヲ存シ其左右ヨリ一對ノ尾毛ヲ生ズ又腹部第七環節ノ兩側ヨ

幼蟲 孵化當時ノモノハ體軀扁平椭圆形ニシテ淡黄色ヲ呈シ環節ハ腹部ニ於テノミ判然ス頭部ハ略半圆形ヲナシ一對ノ赤褐色單眼ヲ有シ觸鬚ハ六環節ヨリ成リ各環節ノ中央部ニ縊レヲ存ス口吻ハ長ク第三環節ニ達ス脚モ割合ニ大ニシテ蹠節ハ一節ヨリ成リ末端ニ爪及三本ノ擔球毛ヲ有ス腹部ノ末端ハ凹陷シ中央ニ一個ノ小突起アリ此左右ヨリ長毛ヲ出ス

經過習性

一年一回ノ發生ヲナスモノニシテ雄蟲ハ繭内ニ蛹態ヲ以テ雌蟲ハ介殼ノ下ニ成蟲態ヲ以テ越冬シ雄蟲ハ五月頃羽化シ交尾ノ後斃死ス雌蟲ハ五月中旬ニ至リテ卵囊ヲ伸出シ其内ニ卵ヲ藏ス即チ雌蟲ハ卵囊ノ一端ヲ枝條ニ附着シ漸々尾端ヲ擡ゲ終ニ轉覆シテ其背面ヲ枝條ニ接スルニ至ル此回轉ニ伴フテ卵囊モ漸々其長ナヲ増シ遂ニ環狀ヲナス卵囊ハ純白色ニシテ其内ニ三千乃至四千粒ノ卵ヲ藏ス卵ハ六月中旬ニ至リ孵化シ幼蟲ハ枝條ヲ匍ヒ廻リテ葉裏ニ達シ一回ノ脱皮ヲ終レバ皮膚下ニ隠レタル口吻ハ露出スルヲ以テ之レヲ葉内ニ挿入シテ液汁ヲ吸收シ落葉前ニ至レバ枝條ニ移リ雄蟲トナルベキモノハ枝幹ノ表面ニ白色ノ小繭ヲ

ヒモワタカヒガラムシ



ヒモワタカヒガラムシ  
營ミ化蛹シ雌蟲トナルベキモノハ其儘介殼ノ下ニ越冬シ翌春成蟲トナルモノナ  
リ

加害ノ狀況

桑葉ニ寄着シテ樹液ヲ吸收スルヲ以テ害アレドモ其發生甚ダシカラザルト發生  
ノ時期遅キヲ以テ著シキ害ヲ被ラズ本種ハ桑ノ他萩、ネムノキ等ニ寄生シテ害ヲ  
ナス

分布

兵庫、静岡、三重、青森、福島、東京ノ各府縣ニ發生加害ス

驅除豫防

- 一、五六月ノ頃桑樹ニ附着セル白色環狀ノ卵囊ヲ採集シテ其卵ヲ滅殺スベシ
  - 二、寄生蜂ヲ保護シ其繁殖ヲ計ルベシ
- 天然敵

一、寄生蜂(學名未詳) 體長三厘翅ノ開張一分内外ノ小蜂ニシテ頭胸部ハ橙黃褐色  
ニシテ複眼ハ暗綠色ヲ呈シ其間ニ三個ノ紫褐色ノ單眼ヲ存ス觸鬚ハ十一節ヨ

リ成リ膝狀ヲナシ淡綠色ナレドモ其先端及基部ニ於テ黑色ノ部分ヲ存ス翅ハ  
透明ナレドモ僅カニ灰色ヲ帶ビ脚ハ淡綠色ニシテ蹠節ノ先端黑色ナリ腹部ハ  
淡綠ニシテ中央ニ暗色部ヲ存ス本種ハ「ヒモワタカヒガラムシ」ノ雌蟲ヨリ五月  
頃屢々脱出スルモノナレドモ經過習性等詳ナラズ尙此他二三ノ寄生蜂アレド  
モ調査ヲ缺ク

ワタカヒガラモドキ

學名 *Phenacoccus pergandei* (Kll)

分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae

異名 クハノコナムシ、柿ノコナムシ

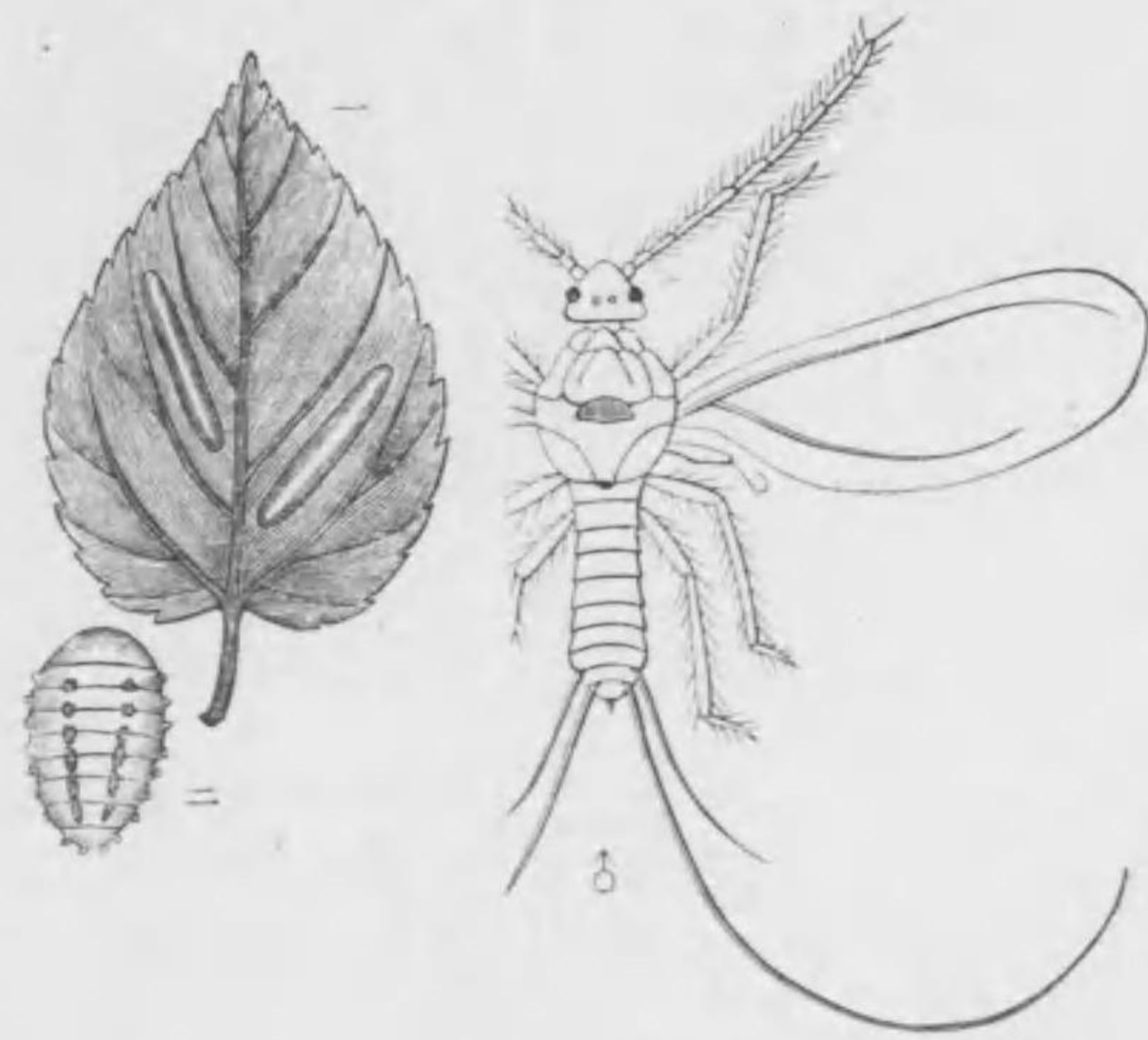
形態

成蟲 雌ハ體軀橢圓形ニシテ淡灰黃色ヲ呈シ背面隆起シ腹部環節ハ判然シ其部  
分ハ紫褐色ヲ呈ス又背面ニハ多數ノ分泌孔及微毛ヲ存シ體ノ末端ニハ相對セル  
瓣裝アリ其先端ニハ各一個ノ長毛ト數個ノ刺毛トヲ有ス觸鬚ハ短小ニシテ九節

ワタカヒガラモドキ



ワタカヒガラモドキ



第三十圖

ワタカヒ

ガラモド

キ(著者原

圖)

一、卵囊ヲ

生セル

雌(自然

大)

二、雌(擴大)

三、雄(擴大)

分餘アリ雌蟲ノ産卵ヲ終リタルモノハ殆ンド體軀ノ全部ヲ白色綿狀ノ卵囊ヲ以テ蔽ハル

ヨリ成リ第三節最モ長ク第二節之レニ次ギ殆ンド大差ナク第八節ハ最モ短シ而シテ各節孰レモ纖毛ヲ有スレドモ就中第九節ニ於テ最モ多シ絲狀ノ口吻ハ短カク脚ハ三對共殆ンド同大ニシテ短大ナリ蹠節ハ短ク脛節ノ三分ノ一ニ過ギズ爪ハ大ニシテ少シク彎曲シ内縁ニ鋸齒ヲ有シ四本ノ擔球毛ヲ存ス肛門輪ハ大ニシテ六箇ノ刺毛ヲ存セリ體長二分幅一

雄ハ體軀細長ニシテ少シク前方ニ尖リ複眼ハ紫褐色ヲ帶ビ觸鬚ハ十環節ヨリ成リ第一第二ノ兩環節ハ短大ニシテ他ノ諸節ハ細長ク略同長ヲナシ且多クノ纖毛ヲ生ゼリ脚ハ細長ニシテ三對相類シ蹠節ハ短ク脛節ノ三分ノ一ニ過ギズ多數ノ纖毛ヲ生ゼリ爪ハ比較的大ニシテ少シク彎曲ス翅ハ透明ニシテ長ク之レヲ背上ニ疊ムトキハ交接器ヲ超ユ腹部第七及第八兩環節ノ左右ヨリハ各一本宛ノ長毛ヲ生ズ腹部末端ノ交接器ハ短大ニシテ略圓錐形ヲナス體長約七厘アリ

卵 橢圓形ニシテ淡黄色ヲ呈シ長サ一厘内外アリ卵囊内ニ包藏セララル

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ體軀橢圓形ニシテ黄色ヲ呈シ脚及觸鬚ハ能ク發達セリ眼ハ小ニシテ赤色ヲ呈シ觸鬚ハ六環節ヨリ成リ纖毛ヲ生ジ第六節最モ長ク他ノ諸節ハ略同長ニシテ短シ脚ハ能ク發達シ三對略相類シ蹠節ハ脛節ヨリ少シク長シ腹部ノ末端ニ存スル瓣膜ニハ各一本ノ長毛ヲ生ズ體長一厘内外アリ

經過習性

一年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ヲ以テ越冬ス雄蟲ハ四月上中旬ノ頃出現シ雌蟲ト交尾ス雌ハ受精後體軀次第ニ肥大シ産卵期ニ達スレバ越冬ノ場所ヨリ

ワタカヒガラモドキ



ツノロウムシ

離レ葉ノ裏面又ハ小枝ニ移リ白色綿絮狀ノ卵囊ヲ伸出シテ其内ニ産卵ス此卵ハ五月中旬乃至六月上旬ニ至リ孵化シ微小ナル幼蟲トナル幼蟲ハ葉ノ裏面葉脈ニ沿フテ固着シ養液ヲ吸收シ晚秋落葉ニ先チ枝ニ移リテ越冬スルモノナリ加害ノ狀況

本種ノ多數ニ發生スルトキハ絶ヘズ養液ヲ吸收スルヲ以テ葉ノ萎凋黃變ヲ招クコトアルノミナラズ給桑ニ際シ之レヲ除去スルガ爲メ少カラサル煩勞ヲ要スルモノナリ本種ハ桑樹ノ他椿樹及柳樹ニモ寄生シテ害ヲナス

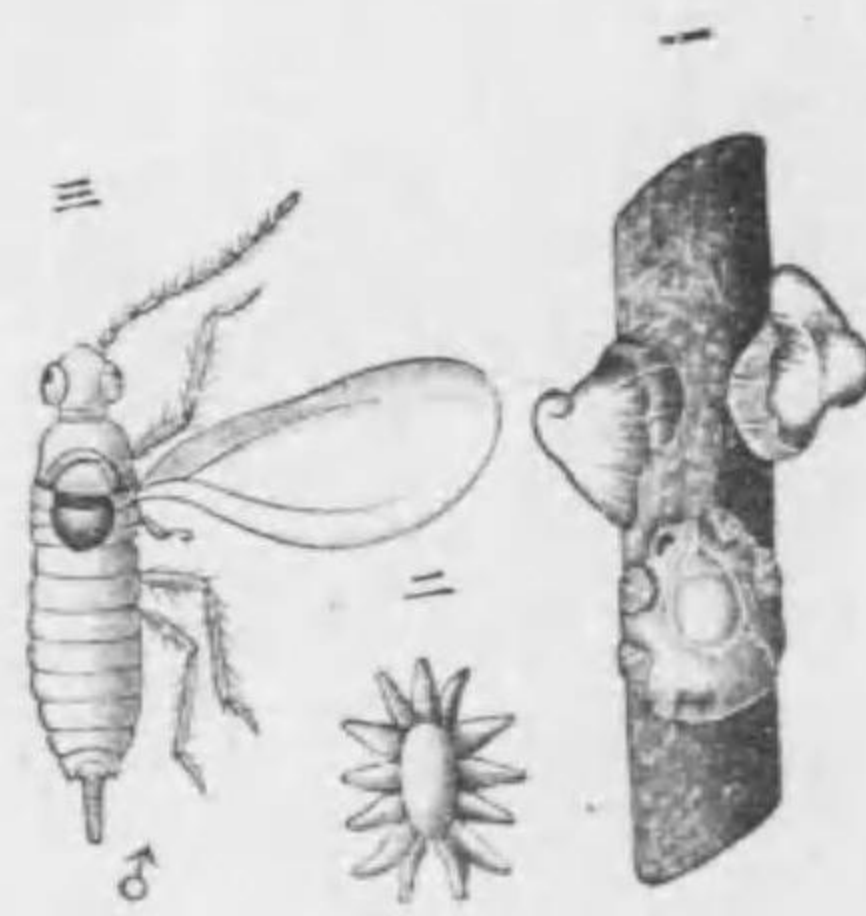
本種ハ各地ノ桑園及果樹園ニ發生ス

驅除豫防

- 一、四五月ノ頃桑園ヲ見廻リ綿絮狀ノ卵囊ヲ發見セバ之レヲ燒却スベシ
- 二、孵化當時ノ幼蟲ニハ石油乳劑二十五倍乃至三十倍液ヲ撒布シテ滅殺スベシ

ツノロウムシ

ツノロウムシ



形態

成蟲 雌蟲ハ體軀橢圓形ニシテ濃紅色ヲ呈シ背面ハ隆起シ腹面ハ扁平ニシテ體

學名 *Ceroplastes ceriferus* And.  
 分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae  
 異名 桑ノ蠟蟲  
 方言 ラウムシ(静岡)

第三十一圖

ツノロウ  
 ムシ(著者  
 原圖)  
 一、雌(自然  
 大)  
 二、雄の繭  
 三、雄(擴大)

ノ後端ニハ縫入アリ其背面前端ニ存スル背板ハ褐色ナリ觸鬚ハ六環節ヨリ成リ第三節最モ長ク第二節ノ二倍又ハ二倍以上アリ脚ハ三對共相類シ肥大セリ體軀ノ背面ハ白色蠟質ノ分泌物ヲ以テ蔽ハレ周圍ニハ八個ノ棒狀突起及背面ニ一個ノ角狀突起ヲ生ズレドモ老ヒタルモノニ於テハ各突起往々鈍耗シ一個ノ蠟塊狀ヲナスニ



ツノロウムシ

至ル體長二分八厘アリ

雄ハ體軀赤褐色ニシテ觸鬚及脚ハ淡褐色ヲ呈セリ頭部ハ略圓形ニシテ前端僅カニ尖リ眼ハ暗紫色ヲ呈ス觸鬚ハ十環節ヨリ成リ各環節ニハ纖毛ヲ存シ第十節ニハ三個ノ擔球毛ヲ生ゼリ翅ハ幅廣クシテ少シク黃色ヲ帶ビ前縁ニ沿ヒテ紫色ヲ呈ス之レヲ背上ニ疊ムトキハ其外縁交接器ノ末端ニ達ス腹部ハ圓錐形ニシテ胸部ヨリ少シク幅狭ク尾端ニ二個ノ肉質突起ヲ有ス交接器ハ大ナリ體長四厘アリ卵 略橢圓形ニシテ赤紫色ヲ呈シ長サ一厘内外アリ

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ長橢圓形ニシテ腹部ノ環節判然シ全體淡赤褐色ヲ呈ス觸鬚及脚ハ能ク發達シ觸鬚ハ六環節ヨリ成リ第二及第三環節ハ殆ンド同長ナリ體ノ末端ニ存スル縫入ハ深ク背板ハ大ナリ又體ノ末端ヨリハ左右各一本ノ長毛ヲ生ゼリ體長一厘内外アリ

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ雌蟲ハ六月中旬頃腹面下ニ産卵ス卵ハ八九月ノ頃ニ至リテ孵化シ雌トナルベキモノハ枝梢ニ又雄トナルベキモノハ葉面ノ葉

脈ニ沿ヒテ附着シ養液ヲ吸收シ漸次成長シ雌蟲ハ體ノ背面ニ蠟質ヲ分泌シ其堆積ヲ作り雄蟲モ蠟質ノ皮殻ヲ作ル之レ所謂雄蟲ノ繭ト稱スルモノニシテ背面ニ低キ突起及周圍ニ十三個ノ棒狀突起ヲ存シ長サ六七厘アリ十月下旬ニ至レバ雄蟲ハ此皮殻ヲ破リテ出現シ雌蟲ト交尾ス受精セル雌蟲ハ其儘越年シテ翌春ニ至リ産卵スルモノナリ

加害ノ狀況

各地ノ桑園ニ發生シ樹液ヲ吸收シテ害ヲナセドモ其繁殖著シカラザレバ之レガ爲メ甚シキ損害ヲ被リタルコトナシ又本種ハ桑樹ノ他茶、柑橘、苹果、萩、ハゼノキモツコク、椿、クチナシ等ニモ寄生シテ害ヲナスコトアリ

分布

各地之レヲ認ムレドモ静岡縣ニ於テ甚シク發生セルコトアリ

驅除豫防

一、冬期落葉後桑園ヲ巡視シ枝幹ニ蠟質物ヲ認ムルトキハ竹篋ノ類ヲ以テ搔落シ其下ニ潜伏セル幼蟲若クハ成蟲ヲ潰殺スベシ

ツノロウムシ



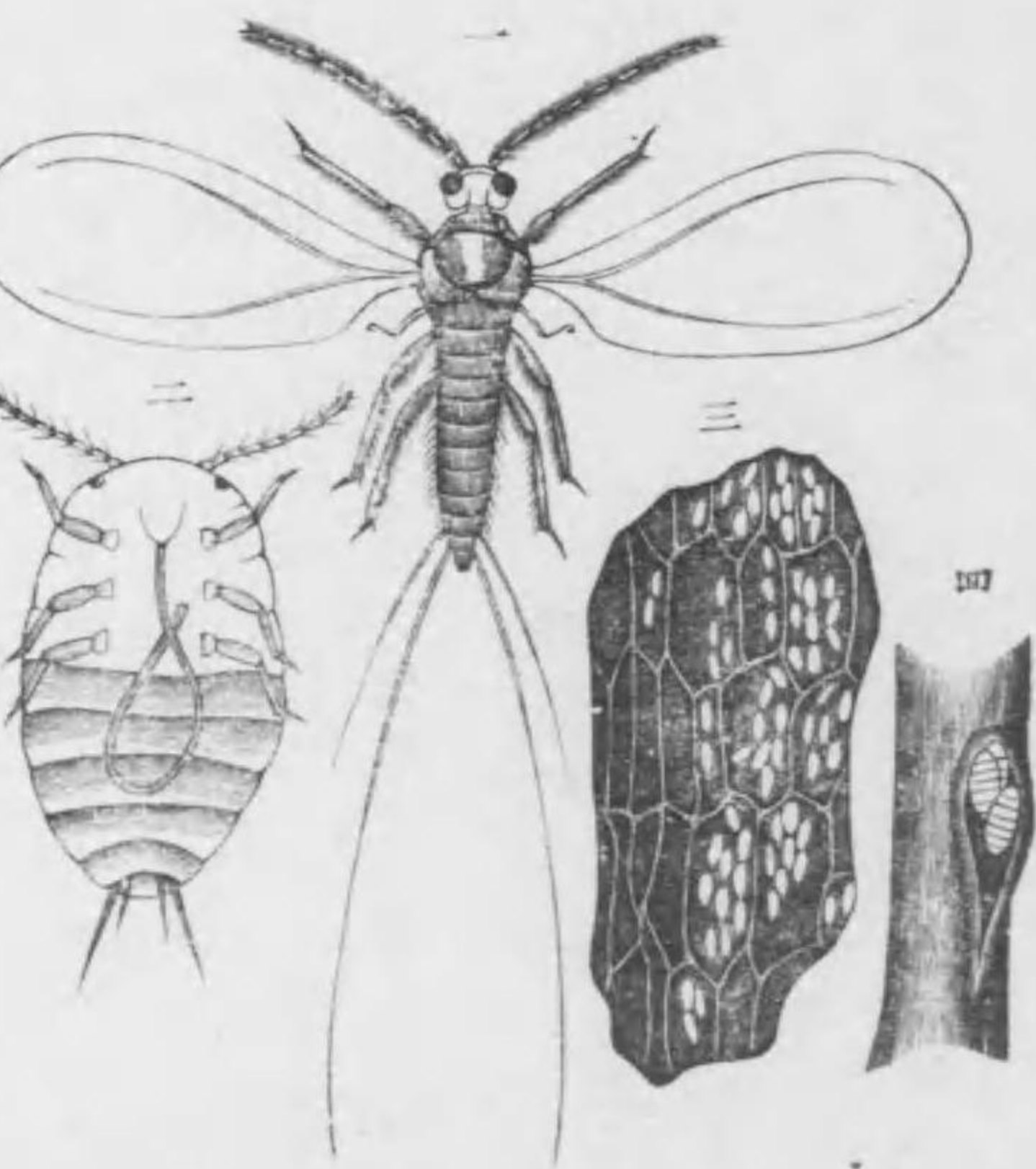
コナカヒガラムシ  
二、幼蟲ハ多ク母蟲ノ附近ニ棲息スルモノナルヲ以テ母蟲ヲ發見セバ其附近ヲ搜索シ幼蟲ヲ潰殺スベシ

### コナカヒガラムシ

學名 *Dactylopius comstocki* Kuwana.  
分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae.

#### 狀態

成蟲 雌ハ體軀長橢圓形ニシテ前端少シク尖リ暗紫色ヲ呈シ背面ハ白粉ヲ以テ蔽ハル觸鬚ハ褐色ニシテ長ク八環節ヨリ成リ第八環節最モ長ク先端ニハ多數ノ毛ヲ存ス口吻ハ長ク脚ハ稍發達シ腰節ハ細長ク之レニ多數ノ刺ヲ有シ回轉節ニハ一本ノ長毛ト數多ノ短毛トヲ有ス大腿節ハ太ク短毛ヲ散生ス脛節ハ大腿節ト略等長ニシテ末端膨大シ多數ノ毛ヲ有ス肛門輪圓形ニシテ突出シ六本ノ毛ヲ有シ體長一分五厘アリ  
雄ハ頭部暗黃色ニシテ複眼ハ黑色ヲ呈シ觸鬚ハ暗黃色ニシテ長ク胸部及腹部ハ



第三十二圖

コナカヒガラウム  
シ(著者原圖)  
一、雌(擴大)  
二、雌(擴大)  
三、雄ノ齒(自然大)  
四、雌(自然大)

亦暗黃色ニシテ一雙ノ灰白色膜質ノ翅ヲ有シ之レニ二個ノ翅脈ヲ存ス平均棍ハ淡黃色ニシテ其先端ニハ捲曲セル一本ノ毛ヲ有セリ脚モ亦暗黃色ニシテ脛節ノ一端ニ一本ノ刺ヲ有ス蹠節ハ一節ヨリ成リ其末端ノ爪ヨリハ一本ノ擔球毛ヲ生セリ腹部ハ

十節ヨリ成リ第八及第九節ニ於テハ其後端ヨリ各一對ノ白色尾絲ヲ發シ第九環節ニ存スルモノハ體長ヨリ稍長ク第八環節ニ存スルモノハ其半バニ達セズ  
經過習性

コナカヒガラムシ



コナカヒガラムシ

一年三回發生シ雄ハ繭内ニ蛹態ヲ以テ雌ハ根際ニ近キ裂隙ニ於テ越冬ス雄ハ四月下旬羽化シ交尾ノ後斃死シ雌ハ五月中旬桑葉ノ裏面ニ移行シ産卵ス孵化セル幼蟲ハ葉裏ニアリテ液汁ヲ吸收シテ成長シ雄ハ枝幹ニ移リ長サ七厘餘ノ灰褐色橢圓形ノ小繭ヲ營ミ化蛹ス雌ハ再ビ桑葉ノ裏面ニ産卵シ晩秋ニ至リ第三化ノ幼蟲ハ枝幹ニ移リ雄ハ結繭化蛹シ雌ハ裂隙ヲ求メテ其間ニ越冬スルモノナリ尙成蟲ハ甘露ヲ漏出スルヲ以テ蟻ハ之レヲ保護シ土砂ヲ以テ其體ヲ被蔽ス

加害ノ狀況  
桑樹ニ寄生シテ液汁ヲ吸收スルヲ以テ害アレドモ繁殖著シカラザルヲ以テ被害輕微ナリ

分布

本種ノ雌蟲ハ農事試驗技師桑名伊之吉氏ノ東京府下赤羽及西ヶ原ニ於テ發見セラレ雄蟲ハ昨四十年著者ガ西ヶ原蠶業講習所桑園ニ於テ初メテ採集セルモノニシテ分布ニ關シテハ尙充分ノ調査ヲ缺ク  
驅除豫防

一、冬期莖幹ノ表面ニ群集附着セル灰褐色小繭ヲ採集スベシ  
二、冬期莖幹ノ裂隙等ヲ搜查シ土塊ニ蔽ハレタルモノヲ檢出潰殺スベシ

### ワタカヒガラムシ

學名 *Pulvinaria kuwacola* Kuwana.

分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae.

形態

成蟲 雌ハ體軀橢圓形ニシテ灰褐色ヲ呈シ背面ニハ多數ノ横皺ヲ存ス尾端ヨリハ雪白色ノ卵囊ヲ出シ其長サ一分内外アリ觸鬚ハ八節ヨリ成リ第三第四節最モ長ク其先端ニハ多數ノ細毛ヲ有ス脚ハ太ク腰節長ク數個ノ細毛ヲ有シ脛節ハ長ク蹠節ノ三倍アリ爪ハ強大ニシテ僅カニ屈曲シ肛門輪ニ六本ノ毛ヲ有ス體長二分内外アリ雄ハ未詳ナリ

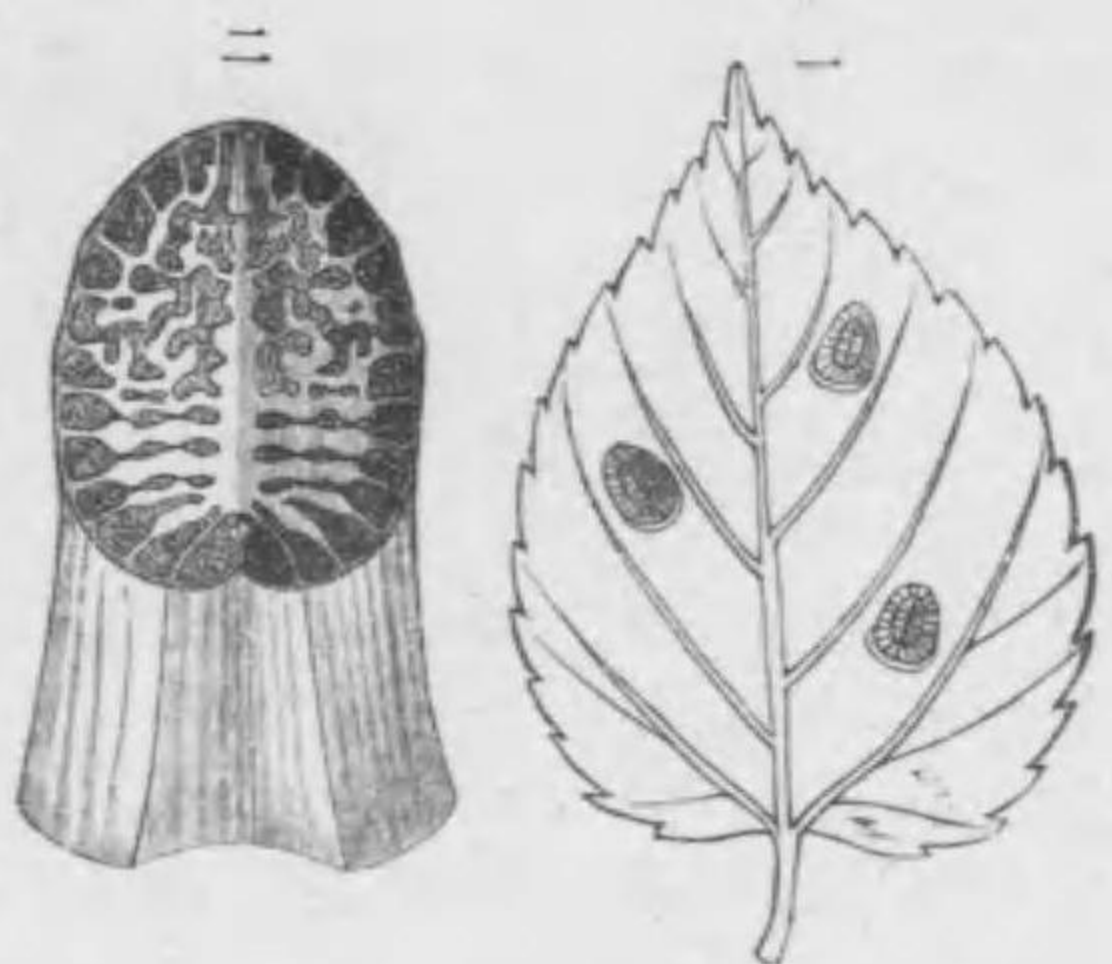
卵 桃紅色橢圓形ニシテ長サ〇.三「ミ、メ」幅〇.一五「ミ、メ」アリ

幼蟲 桃紅色ニシテ橢圓形ヲナシ單眼ハ紫褐色ヲ呈シ觸鬚ハ判然セザレドモ七

ワタカヒガラムシ



ワタカヒガラムシ



節ヨリ成ルモノ、如ク口吻ハ長ク第二

第三十三圖

ワタカヒ

ガラムシ

(著者原圖)

一、雌(自然)

二、同上(擴)

大)

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ雌蟲

ハ五六月ノ頃成熟シ體外ニ僅カニ卵囊

ヲ伸出ス卵ハ一二週間ヲ經テ孵化シ初

メハ桑葉ノ裏面ニ存スレドモ成長ノ後ハ枝條ニ移リ其儘越年スルモノトス

加害ノ狀況

孵化當時ハ桑葉ノ裏面ニ群集シテ養液ヲ吸收シ其甚ダシキモノハ之レヲ萎凋セシムレトモ未ダ其發生甚ダシキヲ聞カス

分布

東京府下西ヶ原附近ニ存スレドモ各地充分ノ調査ヲ缺ク

驅除豫防

一、石油乳劑五倍乃至七倍稀釋液ヲ撒布セバ驅除ノ効アルベシ

クハカタカヒガラムシ

學名 *Lecanium nishigaharae* Kuwana.

分科 半翅目介殼蟲科 Coccidae.

形態

成蟲 雌ハ廣楕圓形ニシテ背面隆起シ若キモノハ黃色ニシテ皮膚緊張スレドモ産卵ヲ終レバ背面ニ多數ノ横皺及一二ノ縦皺ヲ生ジ褐色ヲ呈ス觸鬚ハ八節ヨリ成リ第三節長ク脚ハ強ク略同長ナリ體長二分内外アリ雄ハ未知ニ屬ス

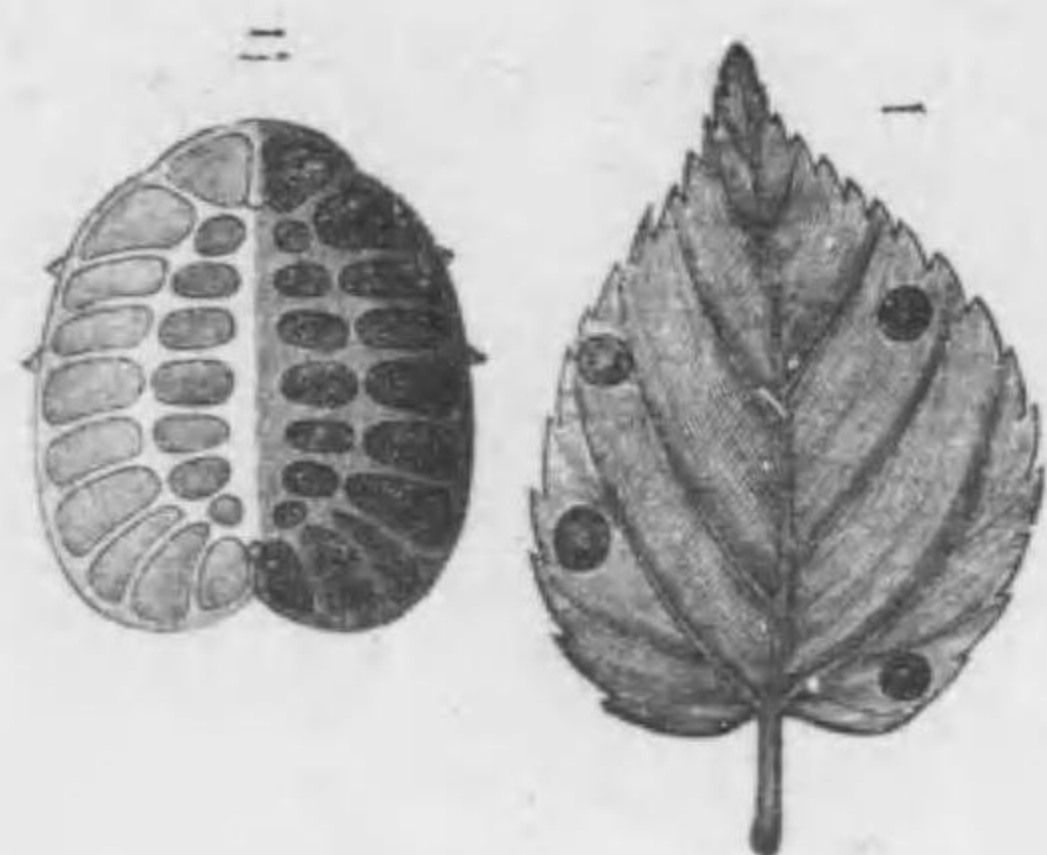
幼蟲 孵化當時ノモノハ體長二厘圓形ヲナシ觸鬚ハ七節ヨリ成リ第三節最長シ

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ成蟲態ヲ以テ枝條ニ於テ越冬ス五月下旬ニ至レバ成蟲ハ葉裏ニ移行シ自己ノ體下ニ其卵ヲ群産ス此卵ヨリ孵化セル幼蟲ハ葉

クハカタカヒガラムシ





クハジラミ

第三十四圖

裏ニ群棲シテ養液ヲ吸收シ秋末ニ至レバ  
枝幹ニ移行シテ茲ニ越冬スルモノトス

クハカタ  
カヒガラ

加害ノ狀況

ムシ(著者  
原圖)

略前種ニ同ジ

一、雌(自然  
大)

東京府下西ヶ原附近ニ於テ之レヲ認ムレ

二、同上(擴  
大)

ドモ各地充分ノ調査ヲ缺ク

驅除豫防

前種ニ同ジ

クハジラミ

學名 Anomonura mori Schw.

分科 半翅目葉蝨科 Psyllidae.

異名 桑ノ綿蟲、木蝨

方言 シロコ(奈良)シロシブ(長野)キリ、シロキリ(高知)シラミ(香川)ウラコ

(島根)クハノコナムシ(茨城)シラコムシ(島根)シラクボ(滋賀)

形態

成蟲 體軀ハ扁平ニシテ淡綠色ヲ呈シ頭部ハ短ク殆ド三角形ヲナシ複眼ハ赤色  
ヲ呈シ單眼ハ淡紅色ニシテ三個ヲ存ス觸鬚ハ長ク十節ヨリ成リ基部ノ二節特ニ  
大ナリ翅ハ透明ナル膜質ニシテ翅面ニハ黒褐色ノ小點ヲ散布シ尙ホ内縁及外縁  
ニハ黒褐色ノ部分ヲ有スルコトアリ脚ハ暗褐色ニシテ白毛ヲ有シ腹部ハ八環節  
ヨリ成リ紡錘形ヲナス體長一分二厘アリ

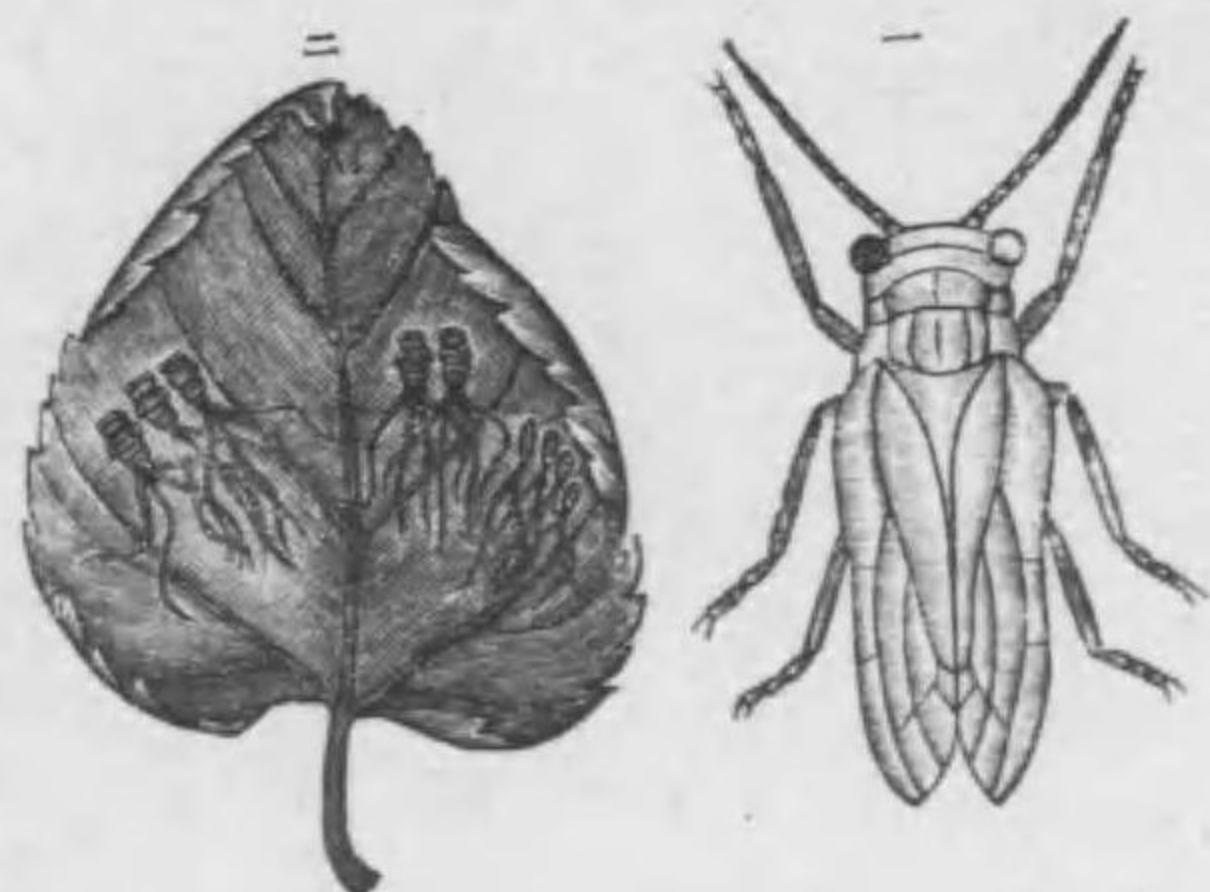
幼蟲 體軀ハ扁平淡黃色ニシテ頭部ハ三角形ヲナシ複眼ハ赤色ヲ呈シ觸鬚ハ短  
ク七節ヨリ成リ基部ノ二節大ナリ胸部ニハ小形ノ翅基ヲ有シ脚ハ短ク末端ニ二  
爪ヲ有ス腹部ノ末端ヨリハ二束ノ白色絲狀體ヲ出ス充分生長スル時ハ體長八厘  
内外ニ達ス

蛹 幼蟲ノ成熟スル時ハ翅基ハ發育伸長シ尾端ノ絲狀體ハ短縮シテ四束トナリ  
テ體長一分ニ達ス

クハジラミ



クハツラミ



第三十五圖

クハツラ

ミ(著者原

圖)

一、成蟲(擴

大)

二、幼蟲(自

然大)

經過習性

幼蟲ハ五月上中旬ノ頃現出シ桑葉ノ裏面ニ群棲シ口吻ヲ挿入シテ養液ヲ吸收ス五月下旬乃至六月上旬成蟲トナリ其儘越年シ翌春桑芽ノ二三葉ヲ開ク頃其外面ニ接セル葉ノ裏面ニ産卵ス卵ハ橢圓形ニシテ白色ナレドモ孵化前ニハ黄色ヲ呈ス幼蟲ハ好ンデ陰濕ノ地ニ群棲スルヲ以テ斯ノ如キ桑園ニ於テハ幼蟲尾端ノ白絲束ニ依

リ桑葉ノ裏面ニ綿塊ヲ散ゼルガ如キ狀ヲ呈ス  
加害ノ狀況  
被害葉ハ養液ヲ吸收セラル、ガ爲メ黃變萎縮シテ蠶兒ノ餌料ニ適セザルニ至ル分布  
大分、愛媛、高知、京都、奈良、和歌山、兵庫、島根、朽木、三重、滋賀、福井、山形ノ諸縣ニ被害甚シ

驅除豫防

- 一、幼蟲ノ群棲スルトキハ綿狀體ヲ認ムルヲ以テ斯ノ如キ桑葉ハ剪切シテ石油中ニ投ジ本蟲ヲ滅殺スベシ
- 二、石油乳劑二十五倍稀釋液ヲ撒布スレバ殺蟲ノ効アリ
- 三、本種ハ陰濕ノ地ニ多ク發生スルモノナレバ桑園ニ射光通風ヲ計ルベシ

オホヨコバイ

學名 *Tettigonia viridis* L.  
 分科 半翅目浮塵子科 *Jassidae*  
 異名 クハヨコバイ、ヨコバイムシ  
 方言 ヨコバイ、ウンカ(岐阜)

形態

成蟲 雌ハ體軀黄色ニシテ頭部ハヨク發達シ三角形ヲナシ左右ニハ暗綠色ノ複眼ヲ有シ後頭部ニハ淡赤褐色ノ單眼一對ヲ存ス單眼ノ内側ニハ二個ノ褐色多角

オホヨコバイ





第三十六圖

オホヨコバ  
イ(著者原圖)  
一、成蟲(擴大)  
二、卵(自然大)

形斑紋アリ前頭部ニハ左右ニ四條ノ褐色ノ  
條紋ヲ有シ顔面モ亦黃綠色ニシテ額ノ中央  
ニ二條ノ褐色縱線ヲ存ス觸鬚ハ複眼ノ内側  
ヨリ出デ長ク五十八個ノ小環節ヨリ成ル口  
吻ハ短ク淡黃褐色ニシテ二節ヨリ成リ中脚ノ回轉節ニ達ス前胸部ハ大ニシテ方  
形ヲナシ綠色ヲ帶ビ斑紋ヲ有セズ胸部ノ腹面及脚ハ淡黃色ニシテ脛節ニハ褐色  
ノ刺ヲ有ス前翅ハ厚ク中央ハ綠色ニシテ前縁後縁及翅脈ハ黑色ヲ呈シ外縁ハ灰  
白色ナリ後翅ハ透明ナル膜質ニシテ暗褐色ヲ呈シ其前縁ノ基部ハ鋸齒狀ヲナス  
腹部ハ九環節ヨリ成リ背面ハ褐色ニシテ腹面ハ淡黃色ヲ呈シ末節ハヨク發達シ  
淡褐色ノ硬毛ヲ有シ第七環節ノ腹面ヨリ產卵器ヲ出ス產卵器ハ四片ヨリ成リ其  
内方ノ二片ハ上縁鋸齒狀ヲナシ合着シテ其内部ニ一條ノ溝アリ雄ハ斑紋等雌ト  
異ナル所ナク只着色稍濃厚ナリ體長雌ハ三分一厘雄ハ二分六厘アリ  
卵 長橢圓形エシテ少シク屈曲シ淡黃色ヲ呈シ孵化前ニ至レバ卵殼ヲ透シテ赤  
色ノ複眼ヲ認メ得

幼蟲 孵化當時ノ幼蟲ハ體長四厘五毛體軀ノ背面ハ總テ淡黃色ヲ呈スレトモ成  
長スルニ從ヒ着色濃厚トナリ充分成長セルモノハ體長二分ニ達シ頭部ハ三角形  
ヲナシ幅廣ク背面ニ一對ノ淡褐色ノ斑紋ヲ有シ複眼ハ不正三角形ニシテ黃色ヲ  
呈シ前後兩端ハ黑色ヲ呈シ又單眼ヲ認ムルコトヲ得ベシ腹部ハ九環節ヨリ成リ  
背面ハ淡黃色ニシテ各節ニ二條ノ暗褐色ノ縱線ヲ有ス

經過習性

一年三回ノ發生ヲナスモノニシテ卵態ヲ以テ越冬シ五月上旬孵化ス幼蟲ハ四回  
ノ脱皮ヲ經テ成蟲トナリ六月下旬產卵ス此ノ卵ハ十日内外ニテ孵化シ第二化ノ  
幼蟲トナリ七月下旬成蟲トナリ八月月上旬ニ至リテ產卵ス此卵ヨリ孵化セル第三  
化ノ幼蟲ハ九月中旬成蟲トナリ九月下旬ニ至リテ產卵シ此卵ヲ以テ越冬ス成蟲ハ  
春夏ノ候ハ稻稗其他禾本科植物ノ莖稈ニ產卵スルモノナレドモ秋季ニ於テハ桑  
樹ニ產卵スルモノナリ其產卵スルニハ先ヅ其產卵器ヲ以テ枝條ノ表皮組織ヲ三  
日月形ニ傷ケ其皮下ニ四五粒群產ス  
加害ノ狀況

オホヨコバ



オホツマゲロヨコバイ  
桑葉ノ液汁ヲ吸收シ又産卵ノ際枝條ヲ傷クルヲ以テ害ヲナス此産卵セラレタル部分ハ少シク隆起シ灰白色ヲ呈スルヲ以テ容易ニ認識シ得桑樹ノ他稻麥稗大豆蔬菜類ヲ害ス

分布

東京、香川、石川、新潟、千葉、秋田、宮城、山形、熊本、滋賀、栃木、鹿兒島、高知、兵庫、岡山、島根、鳥取、山梨、静岡、三重、岐阜、福井、ノ諸府縣ニ發生ス  
驅除豫防

- 一、冬期産卵セラレタル枝條ヲ伐採シテ燒棄スベシ
- 二、幼蟲及成蟲ヲ捕蟲網ヲ以テ掬殺スルカ石油ヲ入レタル器内ニ打落スベシ

### オホツマゲロヨコバイ

學名 *Tettigonia ferruginea* Fabr. var. *apicalis* Walk.

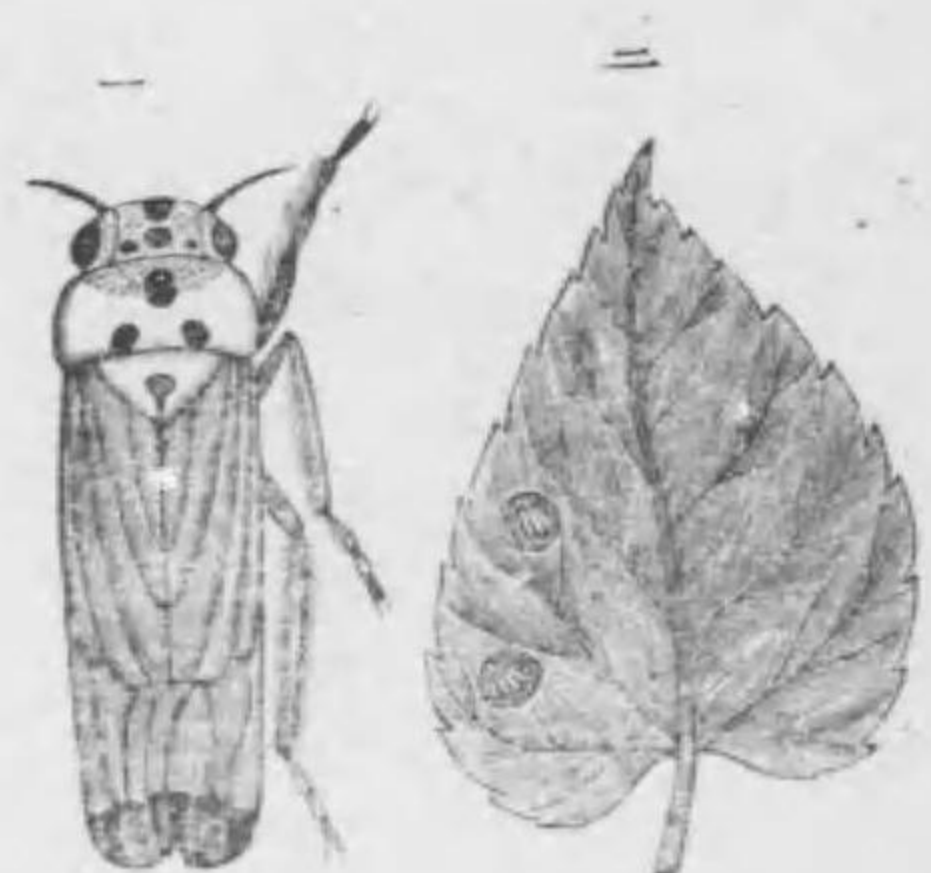
分科 半翅目浮塵子科 Jassidae.

異名 ムツボシヨコバイ、ナナホシヨコバイ、

形態

成蟲 體軀ハ橙黄色ヲ呈シ大形ノ種類ナリ頭部ハ頭頂及後頭部ノ中央ニ各一個ノ大黒點アリ此斑點ノ左右ニ黒色ノ單眼ヲ存ス口吻ハ黒色ニシテ中脚ノ基部ニ

#### 第三十七圖



オホツマ  
グロヨコ  
バイ(小貫  
氏ニ據ル)  
一、成蟲(横  
大)  
二、卵(自然  
大)

達シ觸鬚ハ複眼ノ内側ヨリ出デ基節及第二節ハ黒色ニシテ短キ鞭狀部ヲ存ス前胸部ハ腎臟形ヲナシ上縁ニ接スル中央ニ一個下縁ニ接スル左右ニ二個ノ大黒點アリ胸部ノ腹面ハ黒色ヲ呈シ脚ハ三對共大腿節ハ黒色脛節ノ基部ハ白色ニシテ下端ハ黒色ナリ第三蹠節ノ尖端及爪ハ黒色ニシ

テ他ハ白色ナリ前翅ハ翅底ニ一個ノ小黒點ヲ存シ外縁ニ接スル部モ亦黒色ヲ帶ブ後翅ハ黒褐色ニシテ翅脈ハ一層濃厚ナリ腹部ハ背腹共ニ黒色ヲ呈シ末節ハ小ニシテ次第ニ嵌入シ産卵管ハ短クシテ其左右ニ黒色硬毛ヲ列生ス雌ハ體長四分

オホツマゲロヨコバイ



キオホヨコバイ

七八厘雄ハ四分五厘アリ

卵 長橢圓形ニシテ皮膜薄ク内部ノ胚子ヲ透視シ得

幼蟲 形態着色ニ於テ成蟲ト大差ナク翅ヲ缺如ス

經過習性

一年一回ノ發生ヲナスモノ、如ク成蟲態ヲ以テ雜草ノ間ニ越年シ翌春禾本科其他ノ植物ノ組織内ニ其卵ヲ七八粒宛群産ス

加害ノ狀況

桑葉ノ液汁ヲ吸收シテ害ヲナスモノニシテ其他各種ノ植物ヲ害スルモノ、如シ驅除豫防

一、幼蟲及成蟲ヲ捕蟲網ヲ以テ掬殺スルカ若シクハ石油ヲ入レタル器内ニ打落ス

### キオホヨコバイ

學名 *Tettigonia guttigera* Uhl.

分科 半翅目浮塵子科 *Jassidae.*  
異名 クハキヨコバイ  
方言 ウンカ

形態

成蟲 體軀ハ黄色ヲ呈シ頭部ハ鈍三角形ヲナシ複眼ハ黑色ナリ頭頂及其左右ニハ黒斑ヲ存シ單眼ノ間ニモ亦大黒斑ヲ存ス顔面ハ黄色ニシテ口吻ハ中脚ノ基部ニ達ス胸部ハ前胸梯形ヲナシ後縁ニ接スル部ハ褐色ナリ楯板ハヨク發達シテ左



第三十八圖  
キオホヨコバイ(擴大)  
(小貫氏ニ據ル)

右ニ一對ノ縱線中央ニ一個ノ横線ヲ存ス前翅ハ淡黄色ヲ帶ビ後縁ニ接スル半ハ褐色ヲ呈ス後翅ハ淡褐色ニシテ前縁ノ基部ハ鋸齒

狀ヲ呈ス脚ハ黄色ナリ腹部ハ背面暗色ヲ帶ビ腹面ハ黄色ニシテ淡褐色ノ産卵器ヲ有ス雄ハ着色雌ヨリ濃厚ナリ體長雌ハ二分雄ハ一分八厘アリ

幼蟲 形態着色等略成蟲ニ同ジク翅ヲ缺如ス  
經過習性

キオホヨコバイ



ヒシモンヨコバイ

未ダ明カナラザレドモ夏期桑葉ニ來リ液汁ヲ吸收シテ害ヲナス  
加害ノ狀況

桑葉ノ液汁ヲ吸收シテ害ヲナスモノニシテ桑以外ノ植物ヲモ害スルモノ、如シ  
分布

東京神奈川静岡縣等ニ發生ス  
驅除豫防

前種ニ全シ

ヒシモンヨコバイ

學名 *Eutettix discigutta* Walk.

分科 半翅目浮塵子科 *Jassidae*.

異名 褐色電光横這

形態

成蟲 小形肥大セル種類ニシテ翅ヲ疊ム時ハ菱形ノ褐色斑紋ヲ現ハス頭部ハ淡



第三十九圖

ヒシモン  
ヨコバイ  
(擴大)  
小貫氏ニ  
據ル

褐色ニシテ後頭部ニ一對ノ斑點アリ觸鬚ノ尖端  
及口吻ハ褐色ヲナシ口吻ハ前胸ノ後端ニ達ス前  
胸ハ扇形ヲナシ深綠色ヲ呈シ楯板ハ小ニシテ淡  
黃色ヲ帶ビ尙褐色不正形斑紋アリ胸部ノ腹面及  
脚ハ褐色ニシテ脛節ニハ三脚共濃褐色ノ斑點ヲ列ス前翅ハ淡藍色ニシテ翅脈ハ  
赤褐色ヲ呈シ翅端ハ褐色ヲ帶ビ後縁ノ全部ニ亘リ褐色菱形ノ斑紋ヲ存ス後翅ハ  
褐色ニシテ翅脈ハ濃褐色ナリ腹部ハ褐色ニシテ末端ニ黃色ノ斑點ヲ存シ小硬毛  
ヲ散生ス體長一分五厘内外アリ

幼蟲 形態着色略ボ成蟲ト同ジク翅ヲ缺如ス

經過習性

未詳

加害ノ狀況

前種ニ同ジ

分布

ヒシモンヨコバイ



チマダラヨコバイ  
東京、滋賀、群馬ノ諸府縣ニ發生ス  
驅除豫防  
前種ニ同ジ

チマダラヨコバイ

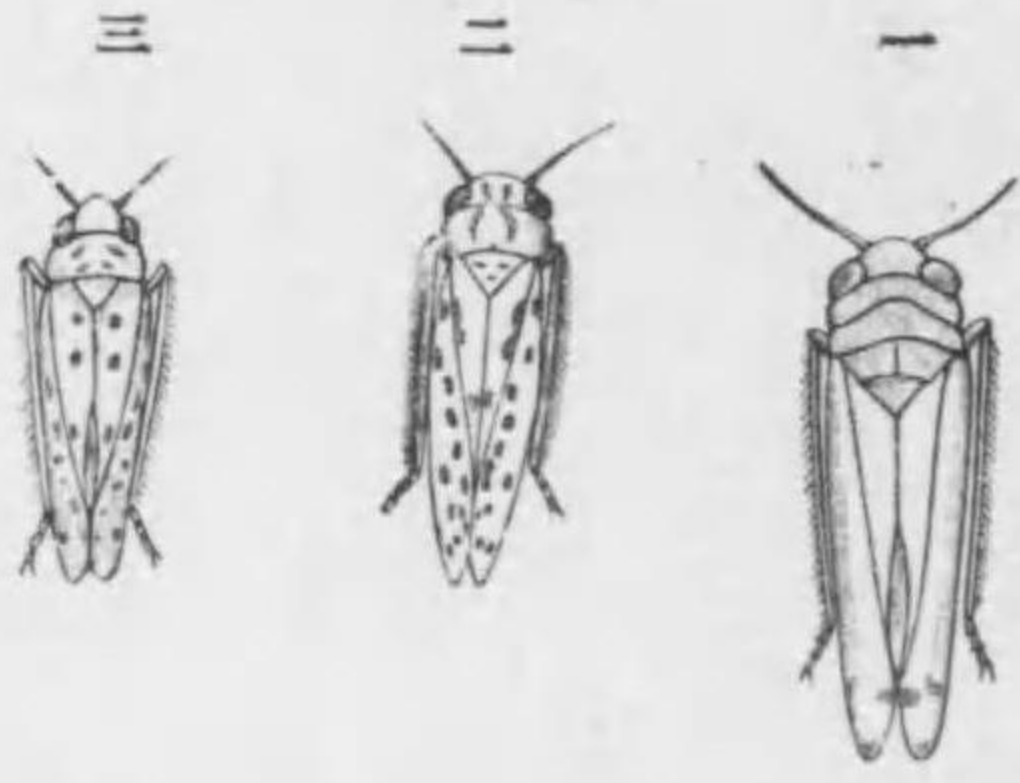
學名 *Typhlocyba Mori* Mats.  
分科 半翅目浮塵子科 *Jassidae*  
異名 クハノアカフヨコバイ  
方言 ウンカ、コヌカ(岐阜)

形態

成蟲 體軀ハ長形ニシテ淡黄色ヲ呈シ頭部ハ前方ニ突出シ鈍三角形ヲナス複眼ハ灰綠色ニシテ其上方ヨリ觸鬚ヲ出ス前胸部ハ半圓形ヲナシ後縁ハ弧狀ヲナス本種ニハ數多ノ異形アリ

第一形 前翅ハ淡黄色ニシテ外縁ニ接スル部ニ淡黑色ノ斑紋アリ後翅ハ無色

第四十圖



キマダラ  
ヨコバイ  
(擴大)  
(小貫氏  
ニ據ル)  
一、第一形  
二、第二形  
三、第三形

透明ニシテ脚及腹部ハ淡黄色ナリ

第二形 前胸ニ四個ノ黄色斑點ヲ有シ前翅ノ全面ニハ數多ノ濃黄色ノ斑點アリ其中前縁ニ存スル四個及翅尖ニ存スル一個ノ斑點ハ黒褐色ヲ帶ビ腹部ハ淡黄色ニシテ産卵器ハ褐色ヲ呈ス

第三形 頭部及胸部ニ數個ノ赤色ノ斑點アリ前翅ノ全面ニハ數多ノ赤色斑點ヲ有シ其位置

略前形ニ同ジ後翅ハ無色ニシテ産卵器ハ赤色ヲ帶ブ

以上ノ三異形ハ從來別種ト考ヘラレ第一形ヲ「キヨコバイ」第二形ヲ「キマダラヨコバイ」第三形ヲ「チマダラヨコバイ」ト稱シタリシガ其同一種タルコト判明スルニ至レリ各形共體長一分弱ニシテ第三形ハ秋季ニ多ク認めラル

幼蟲 體ハ淡黄色ニシテ複眼ハ灰綠色ヲ呈ス胸腹ノ背面ニハ暗色ノ斑點ヲ有シ翅ヲ缺ク

チマダラヨコバイ



アオバハゴロモ

經過習性

一年ニ化成蟲ヲ以テ越年シ五月頃ヨリ桑園ニ現出ス

加害ノ狀況

前種ニ同ジ

分布

東京府、岐阜、山形、兩縣下ニ於テ發生加害アリ

アオバハゴロモ

學名 *Geisha distinctissima* Walk.

分科 半翅目光蟬科 Fulgoroidea

方言 シロコ(三重)

形態

成蟲 體軀ハ帶黃綠色ニシテ頭部ハ短カク三角形ヲナシ額面ノ中央ニ一條ノ隆起アリ複眼ハ不正半圓形ヲナシ淡赤褐色ナリ其後方ニ左右各一個ノ灰白色單眼



第四十一圖

アオバハゴロモ (自然大) (著者原圖) アリ觸鬚ハ黃色ニシテ短ク三節ヨリ成リ尖端ヨリ長毛ヲ出ス口吻ハ二節ヨリ成リ末端褐色ヲ呈シ後脚ノ基部ニ達セリ前胸ハ淡黃綠色ニシテ前方ニ突出シ頭頂ヲ蔽フ中胸

ヘリ前翅ハ方形ニ近ク網狀ノ翅脈ヲ存シ地色ハ淡綠色ナレドモ外縁及後縁ハ稍赤味ヲ帶ビ後翅ハ薄ク白色ニシテ僅カニ綠色ヲ帶ブ翅脈ハ綠色ナリ脚ハ淡黃色ニシテ後脚ハ少シク長ク脛節蹠節ハ淡褐色ヲ呈シ後脚ノ脛節ニハ二本ノ刺ヲ有ス腹部ハ短ク六環節ヨリ成リ黃色ヲ呈シ白色蠟質物ヲ分泌ス體長雌ハ二分二厘雄ハ二分アリ

幼蟲 翅ヲ缺キ蠟質物ニヨリ蔽ハレ綿狀ヲ呈ス脚ハヨク發達シテ跳行ニ適ス經過習性

未ダ詳カナラザレドモ秋期成蟲ヲ認ムルヲ以テ年一化ノモノニシテ晩秋雌蟲ハ其産卵器ヲ以テ桑樹ノ皮下ニ産卵シ卵態ヲ以テ越冬スルモノニアラザルカ加害ノ狀況

アオバハゴロモ



ベツカウハゴロモ  
桑樹ノ嫩葉ニ來リテ口吻ヲ挿入シテ液汁ヲ吸收スルヲ以テ害ヲナセトモ其害著シカラズ桑樹ノ他梨茶柿栗梅枳等ヲモ加害ス

分布  
東京府三重縣等ニ發生加害ス  
驅除豫防

一、成蟲及幼蟲ヲ捕殺スベシ

### ベツカウハゴロモ

學名 *Ricania japonica* Melich.

分科 半翅目光蟬科 Fulgoidae.

形態

成蟲 體軀ハ褐色ニシテ形態前種ニ類似シ頭部ハ短小ニシテ複眼ハ淡褐色ヲ呈シ不正半圓形ヲナス單眼ハ淡黄色ニシテ周圍ニハ赤色環ヲ有シ複眼ノ下側面ニ各一個ヲ存ス觸鬚ハ短ク三節ヨリ成リ口吻ハ二節ヨリ成リ後脚ノ基部ニ達ス前



第四十二圖

ベツカウハゴロモ  
(自然大)  
(著者原圖)

胸ハ小ナレトモ中胸ハ大ニシテ三條ノ隆起線アリ前翅ハ靛甲色ヲナシ二條ノ白線ヲ有シ且前縁ニ於テモ白色紋ヲ有ス翅脈ハ多クシテ横翅脈ヲ有シ網狀ヲナス後翅ハ小形三角形ヲナシ淡褐色ニシテ稍透明ナリ脚ハ黄色ニシテ後脚少シク長シ腹部ハ短ク六節ヨリ成リ末端ニ産卵器ヲ有ス體長二分七八厘アリ

幼蟲 體軀ハ稍圓ク淡黄色ノ細毛ヲ密生シ翅ヲ缺ク  
經過習性  
未詳

加害ノ狀況

前種ニ同ジ

分布

東京府青森縣等ニ發生ス  
驅除豫防

ベツカウハゴロモ



前種ニ同ジ

スケバハゴロモ

### スケバハゴロモ

學名 *Euricaia fascialis* Walk.

分科 半翅目光蟬科 Fulgoidae.

形態

成蟲

體軀ハ黒褐色ニシテ頭部ハ短ク複眼ハ半圓形ニシテ淡褐色ナリ單眼ハ二

第四十三圖

個其下方ニアリ黃褐色ヲ呈ス觸鬚ハ短カク三節ヨリ成

スケバハ

リ口吻ハ黃褐色ヲ呈シ二節ヨリ成リ中脚ノ基部ニ達ス

ゴロモ

前胸及中胸ハ黒褐色ニシテ前胸ニ一條中胸ニ三條ノ縱



(自然大)

線隆起セリ後胸ハ稍方形ニシテ淡褐色ヲ呈ス前翅ハ透

(著者原圖)

明ニシテ少シク黃色ヲ帶ビ周縁ハ濃色ヲ呈シ翅脈ハ褐色ニシテ少ナシ後翅ハ小

ニシテ翅脈及周縁ハ褐色ヲ呈ス脚ハ黃褐色ニシテ後脚少シク長ク脛節ノ外側ニ

二本ノ刺アリ腹部ハ短カクシテ暗褐色ヲ呈ス體長二分内外アリ

經過習性

未詳

加害ノ狀況

前種ニ同ジ

分布

東京府、岐阜縣等ニ發生ス

驅除豫防

前種ニ同ジ

### テングスケバ

學名 *Dictyophora sinica* Walk.

分科 半翅目光蟬科 Fulgoidae.

異名 スケバヨコバイ

方言 サンカクムシ(滋賀)

テングスケバ



テングスケル

形態

成蟲 雌ハ體軀、帶黃綠色ニシテ頭部ハ著シク前方ニ突出シ前胸楯板ヲ合シタルモノヨリ少シク長ク中央ニ於テ淡綠色ノ縱線其兩側ニ於テ縱隆線ヲ存ス額部ノ中央ニ淡綠色ノ縱線アリ尙其左右ニハ二對ノ縱隆線ヲ存ス而シテ其中央ニアル溝ハ橙赤色ヲ帶ブ複眼ハ大ニシテ淡褐色ヲ呈シ單眼ハ淡黃色ヲナシ複眼ノ下方ニ各一個ヲ存ス觸鬚ハ瘤狀ヲ呈シ第二節ハヨク發達シ褐色ノ環紋ヲ有シ第三節ハ小ニシテ一本ノ黑色長毛ヲ出セリ口吻ハ黃褐色ニシテ長ク二節ヨリ成リ後脚ノ基部ヲ越ヘ前胸ハ頭部ヨリ幅廣ク背面ニ五個ノ綠色縱線ヲ存シ中胸ニハ四個ノ縱線ヲ存ス前翅ハ透明ニシテ大キク翅尖ニ近ク淡褐色ノ斑紋ヲ有シ翅脈ハ網狀ヲナス後翅ハ稍小ニシテ三角形ヲナシ透明



第四十四圖

テングス

ケバ(擴大)

(著者原圖)

無紋ナリ脚ハ淡綠色ニシテ大腿節脛節ニハ褐色ノ縱線ヲ存ス蹠節ハ三節ヨリ成リ各環節ノ末端及脛節ノ末端ニ小刺ヲ有ス腹部ハ九環節ヨリ成リ肥大シ背面ハ

褐色末端ハ灰白色ヲ呈ス雄ハ着色斑紋等雌ニ比シ著シキ差異ナキモ腹部ハ稍細尖セリ體長雌雄共四分内外ナリ

卵 長橢圓形ニシテ光澤アリ黑色ヲ呈シ一端ニ三角形ノ附屬物アリ長サ三厘幅一厘六毛内外アリ

幼蟲 體軀ハ淡綠色ヲ呈シ頭部ハ細長ク突出シ其基部ノ兩側ニ淡褐色ノ複眼ヲ有ス口吻ハ二節ヨリ成リ長ク後脚ノ基部ニ達シ内部ニ褐色ノ吸管ヲ藏ス胸部ハ後方ニ至ルニ從ヒ漸次其幅ヲ増シ翅ハ薄膜ヲ被リ開展セザレトモ腹部第四環節ニ達ス脚ハ淡灰色ヲ呈シ黑色ノ縱線アリ蹠節ト前中兩脚ハ二節ニシテ後脚ハ三節ヨリ成リ脛節ノ末端及蹠節各節ノ末端ニ數個ノ小刺ヲ生ズ腹部ハ九環節ヨリ成リ其幅胸部ト同一ナレモ尾端ニ至リ漸ク細ク末端環節ニハ數本ノ綿毛ヲ有ス經過習性

一年一回ノ發生ヲナスモノニシテ卵態ヲ以テ越冬シ七月上旬乃至下旬ニ於テ孵化シ九月上中旬ノ頃羽化シ十月上旬土中ニ八十粒内外ノ卵ヲ群産ス幼蟲ハ陰濕ニシテ通風不良ナル稻田等ニ棲息シ成蟲トナレバ山林又ハ桑園ニ來リテ加害ス

テングスケル



テングスケバ

加害ノ狀況

桑樹ノ葉及嫩條ニ口吻ヲ挿入シテ液汁ヲ吸收スルヲ以テ害ヲナセドモ其程度著シカラズ本蟲ハ主トシテ山間地方ノ稻田ニ發生シテ著シキ害ヲナスモノナリ

分布  
滋賀、福井、奈良、山梨等ノ諸縣ニ發生ス

驅除豫防  
一、幼蟲及成蟲ヲ捕蟲網ヲ以テ捕殺スベシ  
天然敵

一、寄生蛾學名未詳

第四十五圖



體長一分五厘翅ノ開張四分一厘内外ノ小蛾ニシテ頭部ハ小  
ニシテ黑色ヲ帶ビ複眼モ亦黑色ヲ呈シ其間ニ於テ淡褐  
色ノ單眼ヲ存ス觸鬚ハ鞭狀ニシテ數十個ノ環節ヨリ成  
ケバ寄生  
ル胸部及腹部ハ黑褐色翅ハ灰黑色ヲ呈シ外縁及後縁ニ  
蛾(擴大)(滋  
賀縣農事  
試驗報告  
ニ據ル)  
長キ綠毛ヲ有ス脚ハ淡褐色ニシテ蹠節ハ五環節ヨリ成  
リ末端ニ鈎爪ヲ具フ腹部ハ九環節ヨリ成リ褐色ヲ呈シ

黑色ノ鱗毛ヲ密生セリ卵ハ長サ一厘幅七毛ノ橢圓形ヲナシ純白色ナリ幼蟲ハ體長二分五厘アリ體軀黃色ヲ呈シ胸脚三對腹脚四對尾脚一對ヲ有ス幼蟲ノ老熟スル時ハ長二分七厘幅一分三厘白色ノ繭ヲ營ミ化蛹ス蛹ハ體長二分幅七厘アリ圓筒形ニシテ黑褐色ヲ呈ス本種ハ滋賀縣農事試驗場ノ調査ニ係カルモノニシテ其寄生ノ狀況ニ就テハ記載ナキヲ以テ確知スルコト難シ然レモ幼蟲ノ形態ニヨリ考フルニ寄主ノ體軀ノ外面ニ附着寄生スルモノ、如シ

シロオビアハフキムシ

學名 *Aphrophora intermedia* Uhl.  
分科 半翅目泡吹蟲科 *Cercopidae*  
異名 クハノアワフキムシ  
方言 ツバキムシ(静岡)

形態

成蟲 頭部ハ略三角形ニシテ灰黃色ヲ呈シ其正中線隆起ス複眼ハ灰褐色ヲナシ

シロオビアハフキムシ



單眼ハ紅色ニシテ二個ヲ存ス口吻ハ三節ヨリ成リ長ク後方ニ延ビ後脚ノ基部ニ達セリ前胸背ハ灰黃色ニシテ頭部ト同ジク正中線隆起ス又其前方ニハ稍淡色ニシテ不明瞭ナル斑紋ヲ有シ楯板ハ赤褐色ヲ呈セリ前翅ハ暗褐色ニシテ翅尖ニ向ツテ其色稍淡ク其中央ヨリ少シク内方ニ前縁ヨリ後縁ニ向ヒ斜走スル白帶アリ又前縁ノ外半ニ沿フテ白色部ヲ存セリ脚ハ灰黃色ニシテ暗褐色ヲ混シ蹠節ハ三環節ヨリ成リ其末端ニハ二爪ヲ有セリ雌雄形態



第四十六圖

シロオビ  
アワフキ  
(著者原圖)  
一、成蟲(擴大)  
二、泡ニ含マレタル幼蟲  
(自然大)  
三、幼蟲(自然大)

着色ヲ異ニセザレドモ雌ハ腹部ノ末端ニ産卵器ヲ存セリ體長四分内外アリ  
幼蟲 頭部及胸部ハ共ニ黑色ニシテ脚モ亦黒シ腹部ハ八環節ヨリ成リ紅色ヲ呈スレドモ其末端ハ黑色ニシテ第六環節ノ背面左右ニハ各一個ノ分泌孔ヲ開ク體

長三分内外アリ  
經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ミ卵態ヲ以テ越冬スルモノ、如ク幼蟲ハ五月上中旬ノ頃解化シ桑樹ノ嫩條ニ寄着シ之レニ口吻ヲ挿入シテ樹液ヲ吸收シ背面ノ分泌孔ヨリ唾液様ノ泡沫ヲ分泌シ自體ヲ蔽ヒ此内ニ棲息ス而シテ嫩條ノ液汁ニ缺乏スルニ至レバ他ニ移リテ再ビ泡沫ヲ分泌ス其老熟スルヤ桑葉ノ裏面ニ靜止シ脱皮シテ成蟲トナル成蟲ハ交尾ノ後桑ノ枝條ニ産卵スルモノ、如キモ卵及ビ産卵ノ箇所明瞭ナラズ  
加害ノ狀況

幼蟲ノ時期專ラ加害ヲ逞フシ爲メニ葉芽ノ伸長ヲ妨ゲ葉ハ開綻ニ至ラザルコトアリ此ノ蟲ハ多ク山間部陰地ノ桑園ニ發生シ日光ノ透射可良ナル平地ノ桑園ニハ少ナシ

分布  
東京附近ニ於テモ之レヲ認ムレドモ其加害甚シカラズ静岡縣富士及天城山麓ニシロオビアハフキムシ



クハノクサガメ  
於テ加害甚シト云フ

驅除豫防  
一、桑樹ニ生ズル泡沫ノ内ヲ檢シ幼蟲ヲ捕殺スベシ

### クハノクサガメ

學名 未詳  
分科 半翅目盲椿象科 *Capsidae*.  
異名 桑芽ノクサガメ

#### 形態

成蟲 體軀扁平頭部ハ暗褐色ニシテ複眼ハ半球狀ヲナシ黒褐色ヲ呈ス觸鬚ハ四



節ヨリナリ第一節ハ黒褐色ナレトモ他ノ環節ハ  
クハノク  
サガメ  
前半ノミ黒褐色ヲ呈ス口吻ハ長ク後脚ノ基部ニ  
達ス前胸ハ略三角形ヲナシ其ノ前半ハ帶黄綠色  
ナレトモ後半ハ暗褐色ヲ呈ス楯板ハ暗褐色ナリ  
第四十七圖  
（擴大）佐々  
木博士ヲ  
參照ス）

脚ハ淡褐色ナレトモ大腿節ハ暗褐色ヲ呈シ蹠節ハ三節ヨリ成リ先端ニ二爪ヲ具  
フ翅鞘ハ暗褐色ニシテ其前縁ノ中央ニ一個ノ楕圓小形ノ白點ヲ存シ且ツ前翅ノ  
膜質部ハ灰褐色ニシテ少數ノ翅脈ヲ存ス體長二分五厘内外アリ

幼蟲 翅ヲ缺如スルノ他形態着色成蟲ニ同シ

經過習性

未ダ詳カナラザレドモ八月ノ頃桑園ニ現出ス

加害ノ狀況

桑樹ノ新芽嫩條ニ口吻ヲ挿入シ樹液ヲ吸收スルヲ以テ之レガ萎凋ヲ來シ甚シキ  
ハ枯死スルコトアリ

分布

廣島、熊本兩縣ニ發生スト云ヘトモ東京附近ニ於テハ之レヲ認メズ

驅除豫防

一、早朝桑樹ノ枝條ヲ振動シ落下スルモノヲ採集滅殺スベシ

クハノクサガメ



クハヒメハマキムシガ

### クハヒメハマキムシガ

學名 *Exartema morivora* Mats.

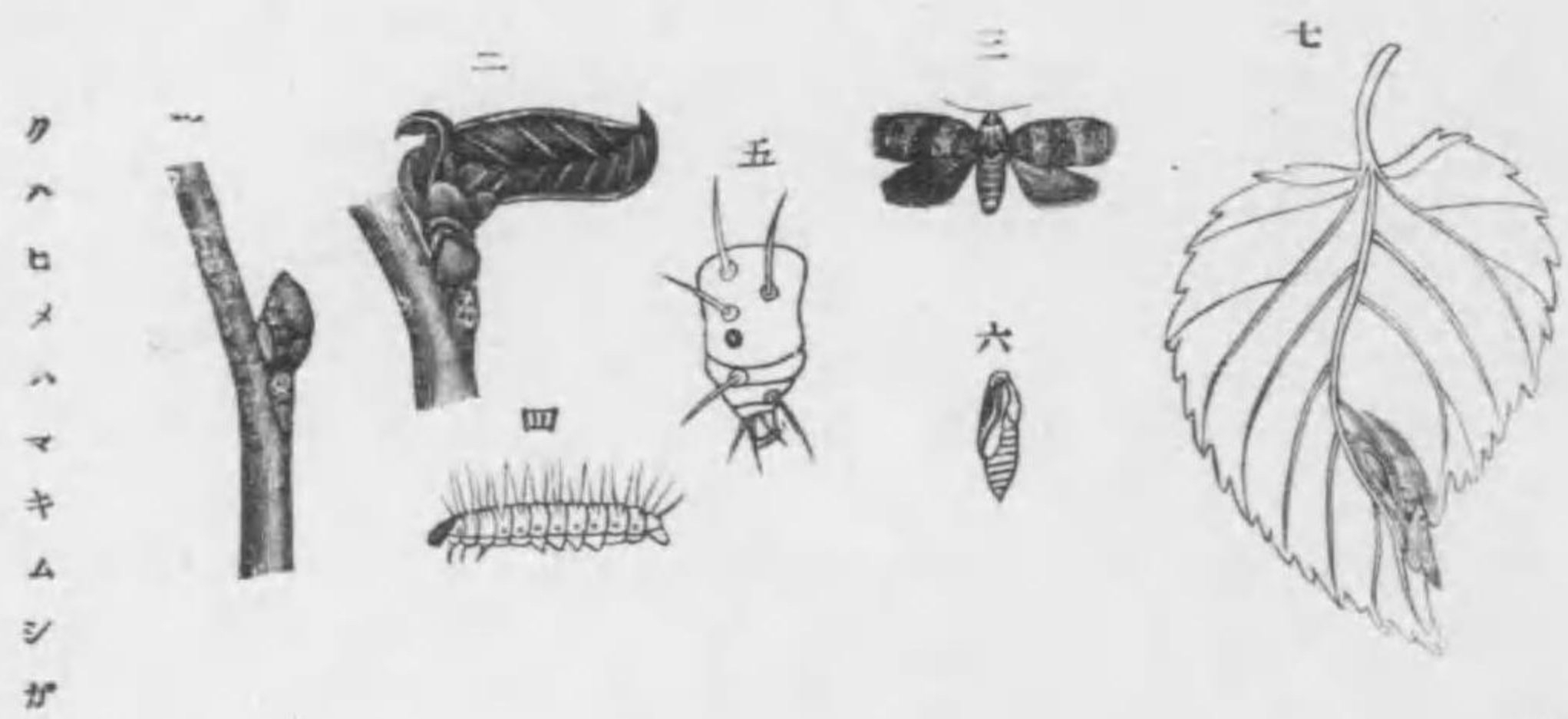
分科 鱗翅目葉捲蟲蛾科 Tortricidae.

異名 桑ノ星芽蟲

方言 芽蟲

#### 形態

成蟲 頭部ハ小ニシテ頭頂ニハ黑褐色ノ毛塊ヲ有シ複眼ハ暗紫褐色觸鬚ハ暗灰褐色ナリ前胸背ハ暗褐色ニシテ前翅ハ長方形ヲナシ地色ハ灰藍色ヲ混ジタル黒褐色ニシテ前縁ニハ白色及黒褐色ノ斑紋交互ニ配列シ翅ノ中央ヨリ稍翅底ニ近キ所ニ於テ前縁ヨリ後縁ニ亘ル淡黄色ノ帶條アリ之レニ黄色及暗褐色ノ小斑紋ヲ有ス翅ノ外縁ニ接シタル部分ハ灰藍色ニシテ翅尖ニ近ク暗黄色ノ楕圓紋アリ又外縁ニハ灰黄色ノ縁毛ヲ有ス後翅ハ三角形ニシテ暗褐色ヲ呈シ灰黄色ノ縁毛ヲ有ス脚ハ灰黄色ニシテ蹠節ニハ暗褐色ヲ混ゼリ腹部背面ハ暗褐色ニシテ雄ハ



第四十八圖

- クハヒメ
- ハマキム
- シガ(自然)
- 大(著者原)
- 一、被害芽
- 初期
- 二、被害芽
- 末期
- 三、成蟲
- 四、幼蟲
- 五、幼蟲環
- 六、蛹
- 七、蛹ヲ包
- 菜

腹部ノ末節ニ淡黄色ノ毛ヲ簇生セリ體長

二分二厘翅ノ開張五分前後アリ

卵 圓形透明ニシテ葉裏ニ産附セラレタ

ルモノハ認識ニ容易ナラズ

幼蟲 頭部ハ漆黑色ニシテ胴部ハ暗綠色

ヲ呈シ前後環節ノ硬皮板及ビ胸脚共ニ漆

黑色ナリ各環節ニ各十個ノ黑色突起アリ

之レヨリ各一本ノ毛ヲ生ズ氣門ハ圓形ニ

シテ黑色ナリ成熟セルモノハ體長四分ニ

達ス

蛹 圓筒形ニシテ尾端細マリ全體脂光ア

ル褐色ニシテ腹部ノ末端ニハ六本ノ鈎狀

毛ヲ生ゼリ

經過習性



クハハメハマキムシガ

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ幼蟲ヲ以テ越冬シ早春ヨリ現出シ桑芽ニ蠶入シテ之レヲ食害シ成長スレバ加害芽ヲ去リ葉ノ先端ヲ折曲グ此内ニ粗繭ヲ營ミテ化蛹ス蛹ハ六月上中旬ノ頃羽化シ桑葉ノ裏面ニ二三粒宛産卵ス之レヨリ孵化セル幼蟲ハ二三回ノ脱皮ヲ經タル後莖幹ノ裂隙等ニ潛入シテ越冬スルモノナリ加害ノ狀況

早春ヨリ幼芽ニ蠶入スルヲ以テ被害芽ハ其後僅カニ成長スルモ燕口ニ至レバ漸々枯凋シ黒褐色ニ變ジ其狀恰カモ凍害後ニ於ケルノ觀ヲ呈ス

分布

東京附近ニ於テ常ニ認ムル所ニシテ北海道群馬縣等ニ發生スト云フ其他ノ地方ニ就テハ分布明カナラズ蓋シ葉捲蟲ハ幼蟲ニ於テハ勿論成蟲ノ形態ニ於テモ各種酷似シ且多クハ早春ヨリ加害ヲ初ムルモノニシテ其加害ノ狀亦略一様ナルヲ以テ各種ヲ一々判別スルコト容易ナラズ從テ各地普通ニ葉捲蟲ハ總稱ヲ慣用スルヲ以テ其分布ニ關スル調査困難ナリ

驅除豫防

一、冬期莖幹ノ裂隙ハ十分ニ掃除シテ之レニ潛伏セル幼蟲ヲ捕殺スベシ

二、被害芽ヲ摘去焼却スベシ又幼蟲ニハ屢々寄生蜂ノ存スルモノアレバ此等ハ其保護ニ勉メ完全ニ化蜂セシムルヲ可トス

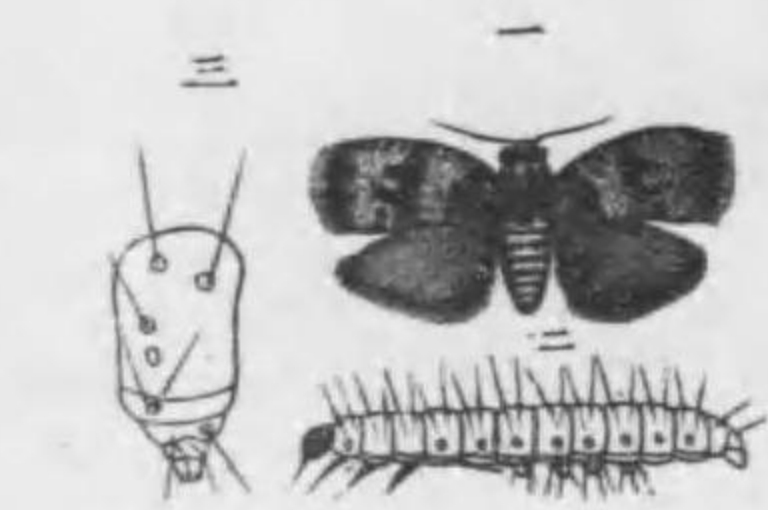
### クハハマキムシガ

學名 *Exartema mori* Mats.

分科 鱗翅目葉捲蟲蛾科 Tortricidae.

異名 クハアオメムシ、桑ノ鮮綠葉捲蟲蛾

#### 第四十九圖 形態



クハハマキムシガ

成蟲 頭部ハ暗褐色ニシテ複眼ハ黒色下唇鬚ハ太クシテ前方ニ突出セリ前翅ハ略長方形ニシテ前縁ハ翅底ニ近キ部分ニ於テ深ク彎入セリ翅底ハ淡灰綠色ニシテ暗褐色ノ斑点ヲ交ヘ翅ノ中央ニハ暗褐色ノ大ナル斑點アリ又外縁ニ沿フテ暗褐色部ヲ存

一、成蟲 (著者原圖)

二、幼蟲

三、幼蟲環大節ノ擴

クハハマキムシガ



クハハマキムシガ

シ外縁ノ中央ト暗褐色トノ中間ニハ淡灰綠色ノ部分ヲ存セリ外縁ノ縁毛ハ灰黄色ニシテ之レニ暗褐色ヲ混ズ後翅ハ暗褐色ニシテ縁毛ハ灰黄色ナリ脚ハ灰黄色ヲ呈シ腹部ハ暗褐色ナリ雄ノ尾端ニハ灰黄色ノ毛ヲ叢生セリ體長二分五厘翅ノ開張七分内外アリ

卵 圓形ノ小粒ニシテ透明ナルヲ以テ綠葉上其形ヲ認識スルニ容易ナラズ

幼蟲 頭部ハ黑色胸部ハ鮮綠色或ハ帶黃綠色ニシテ前後ノ硬皮板ハ皮膚ノ着色ト同ジキヲ以テ之レヲ判知スルコト難シ胸脚及氣門ハ淡褐色ヲ呈ス充分成長セシモノハ體長七分内外ニ達ス

蛹 脂光アル黃褐色ニシテ略圓筒形ヲナシ尾端ニ近ク稍細マリ末端ニ八個ノ鈎狀毛ヲ存ス

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ幼蟲ヲ以テ越冬シ早春ヨリ出デ、幼芽ニ蠶入シ其ノ開綻スルヤ絲繭ヲ吐キテ之レヲ綴リ其内ニ蟄シテ食害ス芽葉ヲ食盡スレバ他ニ移行シテ再ビ加害ヲ逞シ六月頃捲葉内ニ化蛹シ六月下旬若クハ七月上旬

羽化シテ桑葉ノ裏面ニ二三粒宛産卵ス卵ハ七八月ノ頃孵化シ幼蟲ハ直チニ芽ノ下方ニ於テ絹絲ヲ以テ被蓋ヲ作り其内ニ蟄シテ越冬ス

加害ノ狀況

本種ハ早春ヨリ現出シ其蠶入ヲ受ケタル幼芽ハ枯死シ新梢ノ形成ヲ妨ゲラル、ヲ以テ損害尠カラズ

分布

東京附近及北海道ニ於テ發生アレドモ他府縣ニ於ケル調査詳カナラズ  
驅除豫防

一、春期被害芽ヲ採集シテ燒棄スベシ但シ全ク枯死セルモノハ多ク幼蟲ノ脱出後

ニシテ且ツ往々寄生蜂等ノ爲メ斃死セルモノヲ存スルヲ以テ之レヲ燒棄スレ

バ除害ノ効ナク反ツテ益蟲ヲ滅滅スルノ虞アレバ一々幼芽ヲ檢シ蠶痕ヲ存シ

尙全部枯死セザルモノヲ採集スベシ又寄生蜂ヲ完全ニ保護セントセバ幼蟲ノ

逃逸ヲ防グルニ足ル金網製籠内ニ投入シ寄生蜂ノ羽化脱出ニ任ズベシ

二、絲繭ヲ以テ嫩葉ヲ綴リ其内ニテ食害シツ、アル幼蟲ヲ搜索捕殺スベシ

クハハマキムシガ



クハイトヒキハマキムシガ

クハイトヒキハマキムシガ

學名 Archips orataeana Hb.

分科 鱗翅目葉捲蟲蛾科 Tortricidae.

異名 桑ノ綠葉捲蟲蛾

方言 イトヒキハマキムシ

形態

成蟲

雌ハ頭及胸背部ハ灰褐色ニシテ前翅ハ略長方形ヲナシ外縁ハ稍波狀ニ屈

第五十圖

ク 曲ス地色ハ灰褐色ニシテ翅底ニ近ク後縁ヨリ

ハイヒキハ

起レル濃褐色ノ斑紋アリ又翅ノ中央ニ近ク前

マキムシガ(自

縁ヨリ起リ臀角ニ向ツテ延ビタル大ナル濃褐

然大)(著者原圖)

帶アリ又其外方ニ於テ前縁ニ沿ヒタル斑紋及

一、成蟲

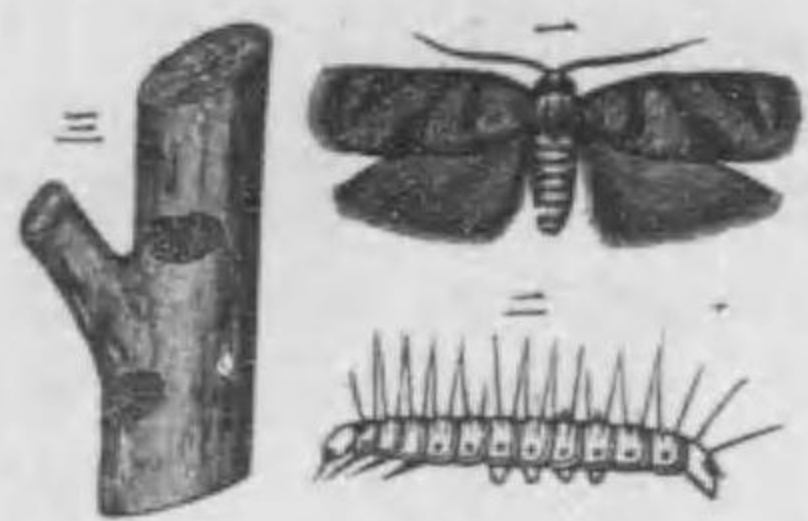
翅尖ニ存スル斑紋モ濃褐色ヲ呈シ其他翅面ニ

二、幼蟲

ハ數多ノ暗褐條ヲ縱走セリ後翅及ビ腹部ハ暗

三、卵塊

ハ數多ノ暗褐條ヲ縱走セリ後翅及ビ腹部ハ暗



灰色ニシテ雄ノ腹部末端ニハ黄色毛ヲ簇生セリ雌ハ體長三分六厘翅ノ開張八分

二厘雄ハ體長三分二厘翅ノ開張七分五厘アリ

卵 灰黄色椭圆形ノ小粒ニシテ長サ約三厘アレトモ多數集合シテ塊狀ヲナシ其

表面ヲ黑色ノ蠟質ニテ蓋ハル

幼蟲 頭部ハ褐色胸部ハ背面暗灰綠色腹面ハ淡黄色ニシテ第一環節ノ硬皮板ハ

淡灰褐色ヲ呈シ其周圍ハ黒ク各環節亞背線上ニ二對氣門上下ニ各一對腹脚ノ根

部ニ一對淡色ノ突起ヲ有シ之レヨリ一本ノ毛ヲ生ゼリ充分成長セルモノハ體長

八分五厘ニ達ス

蛹 體軀ハ圓筒形ヲナシ背面ハ黒褐色ニシテ末端五環節ハ其接線ニ於テ褐色ヲ

ナシ腹面モ亦褐色ナリ體長雌ニアリテハ四分五厘雄ニアリテハ三分内外アリ

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ卵態ヲ以テ越冬シ四月下旬ヨリ五月上旬ノ頃

孵化ス幼蟲ハ桑芽ニ蠶入シ之レヲ害シ一芽ヲ害シ終レバ更ニ他芽ニ移リ芽ノ開

綻スルニ至レバ絲繭ヲ以テ之レヲ綴リ其内ニ蟄シテ食害ス六月上旬ニ至レバ老

クハイトヒキハマキムシガ



クハイトヒキハマキムシガ

熟シ綴ラレタル桑葉ノ内ニ化蛹ス其後約一週間ヲ經テ蛾化シ枝條ニ數十乃至百餘粒ノ卵ヲ群産シ其上ヲ黒褐色ノ粘液ヲ以テ蔽フ故ニ卵塊ハ外觀膏藥病斑點ノ如キ狀ヲ呈ス幼蟲ハ活潑ニ這ヒ廻ハルモノニシテ被害樹ヲ振動スルトキハ絲縷ヲ吐キテ垂下スイトヒキハマキノ名アル所以ナリ蛾ハ晝間草叢内ニ隠レ翅ヲ屋根形ニ疊ミテ靜止スルトキハ外觀鳥糞ニ類似スルヲ以テ巧ニ害敵ノ侵害ヲ免ル加害ノ狀況

本種ハ幼芽嫩葉ヲ食害スルヲ以テ損害實ニ夥シク明治二十八年滋賀縣長濱地方ニ於テ大發生ヲナシ六百餘町歩殆ンド收葉皆無タルノ慘況ヲ呈シ損害約十萬圓ニ上レリト云フ又群馬縣利根郡沼田地方ニモ連年發生シ去ル四十一年ハ其害特ニ甚シク被害二百五十町歩ニ及ベリ而シテ食害ハ主ニ夜間ニ於テ行フモノ、如ク高木ハ常ニ根刈桑ニ比シ被害多シ

分布  
本種ノ發生シテ加害ヲ逞フセルハ滋賀縣ニシテ次テ岐阜福井縣下ニ發生シ其後三重岩手ノ二縣ニ於テ此發生ヲ聞ケリ東京附近ニ於テモ年々多少ノ發生アリ尙

他ノ府縣ニ於テモ多少ノ發生アルベシ

驅除豫防

一、冬期卵塊ヲ搜索シ竹筥ヲ以テ潰殺スルカ若クハ石油「コールタール」ノ類ヲ塗抹スベシ

二、被害桑樹ヲ振動シ絲縷ヲ吐キテ垂下スル幼蟲ヲ捕殺スベシ  
天然敵

寄生蜂第一種(學名未詳) 雌ハ體長二分七厘翅ノ開張三分六厘アリ頭部ハ眞黒色複眼ハ淡黒色ニシテ其間ニ淡褐色ノ單眼三個鼎足狀ヲナシテ存ス觸鬚ハ黒色鞭狀ヲナシ數十節ヨリ成リ短毛ヲ簇生ス口ハ咀嚼ニ適シ胸部ハ黒色ニシテ翅ハ灰白色透明ナレトモ翅脈ハ黒褐色ヲ帶ブ脚ハ前中ノ兩脚ハ褐色ニシテ後脚ハ黒褐色ヲ帶ビ各脛節下端ニハ二本ノ小刺ヲ生ジ蹠節ハ五節ヨリ成リ末端ニ鈎爪ヲ有ス腹部ハ七環節ヨリ成リ其第一環節細ク後方ニ近ツクニ從ヒ太ク背面黒色ニシテ腹面ハ暗褐色ヲ呈ス雄ハ未詳ナリ本種ノ幼蟲充分成長スルトキハ寄主ノ體外ニ出デ暗褐色ノ絲縷ヲ吐キ長サ二分六厘幅一分長橢圓形ノ繭ヲ

クハイトヒキハマキムシガ



クハイトヒキハマキムシガ

營ミ其内ニ化蛹ス

寄生蜂第二種(學名未詳) 雌ハ體長一分七厘翅ノ開張三分アリ頭部ハ褐色ニシテ背面中央ニ黑色ノ斑紋アリ此斑紋内ニ淡褐色ノ單眼三個ヲ鼎足狀ニ配置ス複眼ハ黑色ナリ觸鬚ハ鞭狀ニシテ數十環節ヨリ成リ黒褐色ヲ帯ビ其長サ一分三厘アリ口ハ咀嚼ニ適ス前胸ノ背面ハ褐色ニシテ其兩側及頭部トノ接合部ハ黑色斑紋アリ中後兩胸節ハ黑色ナレドモ中胸背ニハ一個ノ褐色斑紋ヲ存ス翅ハ膜質ニシテ淡褐色翅脈ハ褐色ヲ呈シ翅ノ全面ニハ褐色ノ短毛ヲ散生ス脚ハ褐色ニシテ膝節ハ五節ヨリ成リ末端ニハ鈎爪ヲ有ス腹部ハ六環節ヨリ成リ背面前半ハ褐色ニシテ後半ハ黒褐色ナリ末端節ヨリ黒褐色ノ長キ産卵器ヲ出ス雄ハ雌ト大差ナシト雖モ體長二分五厘翅ノ開張二分八厘腹部ハ七環節ヨリ成リ背面黒褐色ニシテ中央環節ハ褐色ヲ呈ス

幼蟲ハ純白色ノ蛆ニシテ充分成長シタルモノハ體長一分八厘ニ達ス頭尾兩端尖リ腹部腹面ハ稍黄色ヲ呈ス老熟後寄主ノ體外ニ出デ長一分六厘幅六厘五毛ノ長精圓淡黄色ノ繭ヲ營ミ其内ニ化蛹ス

寄生蜂第三種(學名未詳) 雌ハ體長二分翅ノ開張三分雄ハ體長三分翅ノ開張四分

五厘體軀ハ漆黑色ニシテ白色ノ短毛ヲ有シ單眼及複眼共ニ漆黑色觸鬚ハ暗綠色ニシテ細毛ヲ有ス翅ハ透明ニシテ僅カニ暗色ヲ帯ビ翅脈ハ黃褐色ヲ呈ス脚ハ淡黄色ニシテ腰節及先端ハ黑色ヲ呈シ脛節ニハ二個ノ刺ヲ存ス腹部ハ八環節ヨリ成リ雌ハ長キ産卵管ヲ有ス

寄生蜂第四種(學名未詳) 體長一分七厘翅ノ開張三分五厘體軀ハ飴色ヲ呈シ單眼及複眼ハ漆黑色ナリ觸鬚ハ三十節ヨリ成リ短毛ヲ生ズ胸部ハ暗褐色ナレドモ中胸後胸ノ中央ハ飴色ヲ呈ス翅ハ透明ニシテ翅脈ハ暗黄色ヲ呈ス脚ハ飴色ニシテ脛節ニハ二個ノ刺ヲ有ス腹部ハ八節ヨリ成リ基部ハ暗褐色ナリ

寄生蜂第五種(學名未詳) 體長二分三厘翅ノ開張四分三厘頭部ハ漆黑色觸鬚ハ暗黃褐色ニシテ五十三節ヨリ成リ長サ體長ニ二倍ス胸部ハ赤褐色ナレドモ後胸背後半ノ中央部ハ暗褐色ヲ呈シ翅ハ透明ニシテ翅脈ハ暗黄色ナリ脚ハ黃褐色ヲ呈シ腹部ハ黑色ニシテ八節ヨリ成リ産卵器ハ赤褐色ナリ

寄生蠅(學名未詳) 體長二分五厘翅ノ開張四分五厘體軀ニハ剛毛ヲ有シ頭部及顔

クハイトヒキハマキムシガ



クハアトキバネハマキ

面ハ暗黄色、縫線ハ黑色ヲ呈ス複眼ハ紫褐色ニシテ單眼ハ暗色ヲ呈シ觸鬚及下  
顯鬚ハ黑色ナリ胸背ハ淡黄色ニシテ五個ノ黒條ヲ有シ翅ハ透明ニシテ翅脈ハ  
黑色ヲ呈ス鱗片ハ淡黄色ニシテ平均棍ハ褐色ナリ脚ハ黑色ヲ呈ス腹部ハ四節  
ヨリナリ第一環節ハ黑色餘ノ三環節ハ淡黄色ト黑色トヲ以テ條紋ヲナス

クハアトキバネハマキ

學名 Archips asiatica Wals.

分科 鱗翅目葉捲蟲蛾科 Tortricidae.

形態

成蟲 雌ハ頭部胸部及前翅ハ灰褐色ニシテ前縁及外縁ハ多少波狀ヲナシ翅面ニ  
ハ多數ノ褐色波狀線ヲ縱走セリ又翅ノ中央ニハ前縁ヨリ後縁ニ向ツテ斜走セル  
稍濃色ナル太キ帶條ヲ存セリ後翅ハ外半ハ橙黄色ニシテ内半ハ暗灰色ヲナシ腹  
部ハ背面暗灰色ナレドモ末端ハ橙黄色ナリ雄ハ雌ヨリモ一般ニ濃色ニシテ前翅  
ハ翅底及前縁ノ外半ニモ濃色紋ヲ有シ外縁モ多少濃色ナリ又後翅ノ橙黄色部ハ雌



第五十一圖

ニ比シ少ナク腹部末端ニハ黄色毛ヲ簇生ス雄ハ  
體長三分翅ノ開張八分雌ハ體長三分五厘翅ノ開  
張七分五厘アリ  
卵 淡黄色ニシテ徑一厘内外ナレトモ桑葉ノ表  
面ニ塊狀ヲナシテ多數群産セラレ其表面ヲ黄色  
ノ蠟質ニテ蓋フ

幼蟲 頭部ハ淡褐色胸部ハ綠色ニシテ第一環節ノ硬皮板ハ淡褐色ヲ呈シ其左右  
及後縁ハ黑色ナリ體ノ各環節ニハ十個ノ小突起アリ各一本ノ淡黄色ノ短毛ヲ生  
ゼリ充分成長セルモノハ體長八九分ニ達ス

經過習性

未ダ充分調査セシモノアラザレトモ一年二三回ノ發生ヲナシ老熟セル幼蟲若ク  
ハ蛹ヲ以テ越年スルモノ、如シ本種ハ發生遅キヲ以テ常ニ開葉セル嫩葉ヲ捲キ  
テ芽ニ蠶入シ害ヲ加フルコトナシ

被害ノ狀況

クハアトキバネハマキ



クハノトビイロハマキムシガ  
 主トシテ新稍ノ數葉ヲ集メ之レヲ捲キ其内ニアリテ食害ヲナセドモ其發生多カラザレバ被害著シカラズトス  
 分布  
 東京附近ニ於テ之レヲ見ル未ダ全國各地ノ桑園ニ於テ其發生ヲ聞カズ

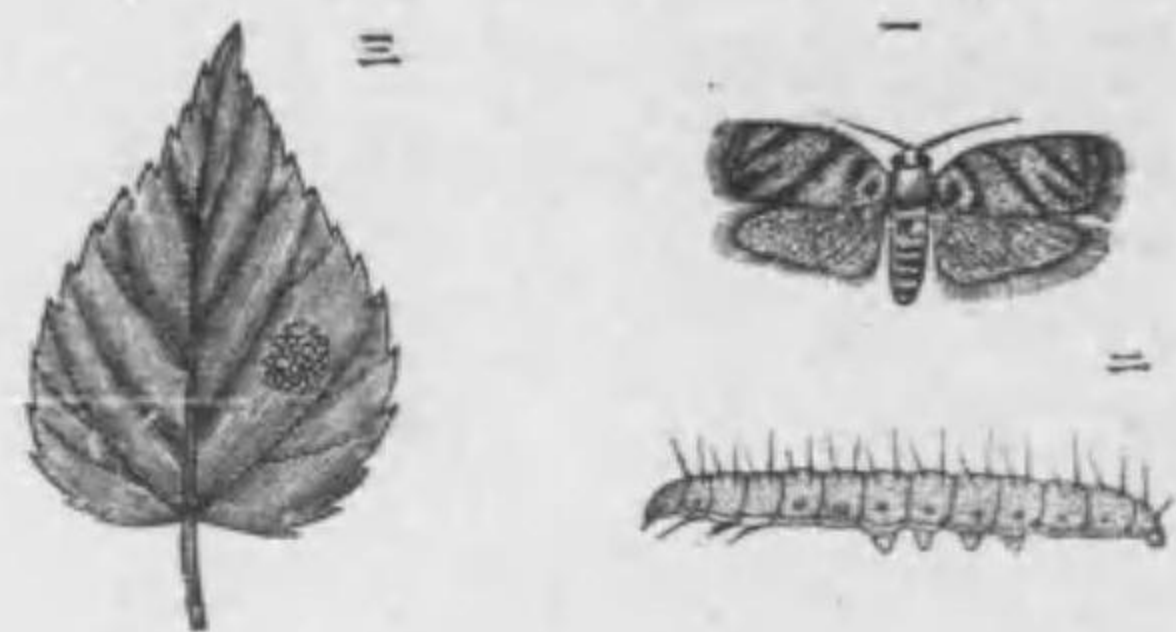
クハノトビイロハマキムシガ (新稱)

學名 *Pandemis ribeana* Hb.

分科 鱗翅目葉捲蟲蛾科 Tortricidae.

形態

成蟲 頭部及胸部ハ淡褐色ヲ呈シ前翅ハ長方形ヲナシ同色ナリ前縁ハ翅底ニ近ク彎曲シ翅面ニハ三個ノ褐色帶ヲ存シ中央ニ存スルモノ最モ大ナリ外縁ニハ淡褐色ノ縁毛ヲ有ス後翅ハ灰褐色ニシテ内縁ニ近キ部ハ暗色ヲ帶ビ外縁ニハ灰黄色ノ縁毛ヲ有ス腹部背面ハ暗灰色ニシテ雄ハ其末端ニ灰黄色毛ヲ叢生セリ體長二分五厘翅ノ開張七分アリ



第五十二圖

- 一、成蟲
- 二、幼蟲
- 三、卵

卵 扁平ナル小粒ニシテ淡黄色ヲ呈シ直徑一厘内外アリ

幼蟲 頭部ハ褐色ヲ呈シ胸部ハ暗綠色ニシテ前後ノ硬皮板ハ褐色ナリ各環節ニハ六對ノ小突起ヲ有シ之レヨリ各一本ノ淡黄色毛ヲ生ジ胸脚ハ暗褐色氣門ハ褐色ナリ成熟セルモノハ體長六分内外ニ達ス

蛹 暗褐色圓筒形ニシテ後方ニ細マリ末端ニ八本ノ鈎狀毛ヲ存ス體長三分内外アリ

經過習性

一年四回ノ發生ヲナシ老熟セル幼蟲若クハ蛹ヲ以テ越冬シ六月上旬羽化ス蛾ハ桑葉ノ表面ニ其卵ヲ群産シ黄色ノ蠟質分泌物ヲ以テ之レヲ蔽フ産卵後約一週間ニシテ孵化シ幼蟲ハ桑葉ノ裏面ニ絲ヲ吐キ自體ヲ蔽ヒテ食害シ一二回ノ脱皮ヲ經タル後ハ絲繭ヲ以テ桑葉ヲ綴リ合セ其内ニアリテ食害ス六月下旬乃至七月上

クハノトビイロハマキムシガ



クハノトビイロハマキムシガ

旬化蛹シ後凡一週間ニシテ羽化産卵ス第二化ノ幼蟲ハ七月中下旬ノ頃發生シ八月中旬羽化産卵ス第三化ノ幼蟲ハ九月上旬發生シ九月中旬羽化産卵シ第四化ノ幼蟲ハ九月下旬發生シ化蛹後若クハ其儘越年スルモノナリ  
加害ノ狀況

本種ハ一年數回ノ發生ヲナシ桑葉ヲ食害スト雖モ蛹若クハ老熟セル幼蟲ヲ以テ越冬シ幼蟲發現ノ時期既ニ桑芽ノ開綻後ナルヲ以テ被害割合ニ大ナラズ  
分布

東京府西ヶ原附近ニ於テ多ク見ル所ナレトモ地方ニ於ケル發生ノ如何ハ調査詳ナラズ

驅除豫防

- 一、冬期其幼蟲若クハ蛹ヲ搜索捕殺スベシ
- 二、卵ハ桑葉ノ表面ニ群産セラレ黄色蠟質ノ粘液ヲ以テ蔽ハル、ガ故ニ之レヲ採集燒殺スベシ
- 三、桑葉ヲ綴リ合セ其内ニ蟄セル幼蟲ヲ捕殺スベシ

天然敵

寄生蜂(學名未詳) 體長一分二厘翅ノ開張二分四厘アリ頭胸ハ黑色ニシテ細カキ

第五十三圖



クハノト  
ヒイロハ  
マキ寄生  
蜂(擴大)  
(著者原圖)

刻點アリ複眼ハ紫褐色ヲ呈シ觸鬚ハ十八節ヨリ成リ暗褐色ヲ呈ス翅ハ透明ニシテ翅脈ハ暗褐色ナリ脚ハ黄色ナレトモ中後兩脚ノ大腿節及脛節ニハ暗褐色部ヲ交ヘ各脛節ニハ二本ノ刺ヲ有ス腹部ハ七環節ヨリ成リ暗褐色ヲ呈シ雌ノ産卵器ハ其長サ略腹部ノ半バニ達ス

本種ハ一頭ノ寄主ニ對シ一二頭宛寄生シ老熟スレバ其體ヲ脱出シ小繭ヲ營ミ化蛹ス

クハノメイガ

學名 *Glyphodes pyralis* Walk.

分科 鱗翅目螟蛾科 Pyralidae.

クハノメイガ



クハノメイガ

異名 クハノスキムシガ、クハノアオハマキムシガ、クハハマキムシ

方言 スキムシ(三重)ハマキムシ(高知)ツマリムシ(愛媛)アヲムシ(青森)

形態

成蟲 頭部ハ白色ニシテ複眼ハ黒褐色ヲ呈シ觸鬚ハ灰黄色ナリ胸部ハ中央暗褐

第五十四圖



クハノメイガ

(自然大)

(蒼者原圖)

一、成蟲

二、幼蟲

三、蛹

接シ細キ白線ヲ走ラシ又之レヨリ少シク内方ニ前縁ニ近ク白色波狀紋ヲ存シ其下方ハ細キ白色線トナリテ後縁ニ達セリ後翅ハ大部分白色ニシテ外縁ニ接シ太キ暗褐帯アリ其内方ニ向ヘル部分ハ稍濃色ニシテ外縁ニ接セル部分ニハ細キ白色線ヲ存シ腹部背面ハ暗褐色ヲ呈セリ

卵 不規則ナル圓形ニシテ殆ド透明ナレドモ僅カニ綠色ヲ帯ビ直徑一厘餘アリ  
幼蟲 頭部ハ淡褐色ヲ呈シ胸部ハ淡綠色ニシテ第一環節ノ硬皮板ハ淡褐色ナリ各環節ニハ四個乃至六個ノ黒色小突起ヲ存シ之レヨリ一本ノ灰白色ノ短毛ヲ生ゼリ充分成長セルモノハ體長七八分ニ達ス  
蛹 圓筒形ニシテ黄褐色ヲ呈シ長三四分アリ

經過習性

一年四回ノ世代ヲ營ムモノニシテ幼蟲態ヲ以テ越冬シ五月中旬頃化蛹シ其後凡二週間ヲ經テ蛾トナリ其卵ヲ葉裏ニ點々産附ス卵ハ六月上旬ニ至リ孵化シ第一化ノ幼蟲發生シ絲繭ヲ吐キテ桑葉ヲ折曲ケ其間ニ潜伏シテ之ヲ食害シ七月上旬ニ至リ老熟化蛹ス之ヨリ羽化産卵セルモノ七月下旬孵化シテ第二化ノ幼蟲トナリ凡二週間ニシテ老熟化蛹ス次テ八月中旬羽化産卵シ之ヨリ孵化シタル第三化ノ幼蟲ハ九月上旬老熟化蛹シ九月中旬ニ至リ羽化産卵ス九月下旬ノ頃第四化ノ幼蟲發生シ充分成長セル後桑葉ヲ綴リ若クハ莖幹ノ裂隙ニ潛入シテ越冬スルモノナリ

クハノメイガ



クハノメイガ

加害ノ狀況

本種ハ一年數回發生加害スルモノナレドモ其害ノ最モ著シキハ八九月ノ頃ニシテ秋蠶飼育ノ時期ナリトス其食害ノ方法ハ幼齡ノ頃ハ桑葉ノ裏面ニ數本ノ絲縷ヲ張り其間ニ自體ヲ保チ葉肉ノミヲ食シ表皮ヲ殘スモ成長セルモノハ桑葉ヲ折リ曲ゲ其間ニ潛ミ食害ヲ逞フス故ニ此ノ害ヲ被リタル桑葉ハ點々透明ノ部分ヲ生ズ之レ「スキムシ」ノ稱アル所以ナリトス

分布

各地殆ド此發生ヲ聞クト雖被害甚シキハ三重、高知、愛媛、青森、滋賀、岐阜ノ諸縣トス驅除豫防

第五十五圖



スキムシ

寄生蜂

(擴大)

(著者原圖)

一、冬期枯葉ノ間若クハ莖幹ノ裂隙等ニ潜伏越冬セル幼蟲ヲ搜索捕殺スベシ

二、桑葉ヲ絲縷ヲ以テ折曲ゲ其内ニ蟄シテ食害スル幼蟲ヲ捕殺スベシ

天然敵

寄生蜂(學名未詳) 體長一分翅ノ開張二分頭胸部ハ黑色ニシテ細キ刺點ヲ有シ觸鬚ハ十七節ヨリ成リ翅ハ透明ニシテ翅脈ハ暗褐色ナリ脚ハ黃褐色ニシテ各脛節ニ刺ヲ有ス腹部ハ黃褐色ニシテ背面ノ正中線及後部三環節ハ暗褐色ヲ呈ス雌ノ産卵器ハ短小ナリ  
本種ハ寄主ノ老熟セル頃之レヲ脱出シ其周圍ニ於テ小繭ヲ營ム而シテ一頭ノ寄主ニ對シ普通十五六頭寄生ス

スカシノメイガ

學名 *Glyphodes pyyeri* Butl.

分科 鱗翅目 螟蛾科 *Pyralidae*.

異名 ヲグロハマキムシガ

形態

成蟲 頭部ハ白色ヲ呈シ複眼ハ黑色觸鬚ハ淡黄色ナリ胸部及翅ハ白色ニシテ翅ニハ五個ノ暗褐色アリ其内翅底ニアルモノハ稍判明ヲ缺ク翅底ヨリ計算シテ

スカシノメイガ





スカシノメイガ

第五十六圖

スカシノ

メイガ

(自然大)

(著者原圖)

第三位ニアルモノ最モ太クシテ中央ヨリ稍下方ニ一  
個ノ白點ヲ存シ第四位ノモノト後縁ニ近キ所ニ於テ  
合一セリ第四帯ト第五帯トノ中間ニハ細キ白帯ヲ存  
シ其帯ノ前縁ニ接セル部分ハ稍幅廣クシテ二個ノ鋸  
齒狀ヲナセリ又第五帯ト外縁トノ間ニモ細キ白帯ヲ  
存シ縁毛ハ灰黄色ナリ後縁ニハ二個ノ暗褐帯アリ其内方ニ存スルモノハ前縁ニ  
向ツテ又狀ヲナシ此帯ト第二帯トノ間ニ一ノ白色帯アリ又第二帯ト外縁トノ間  
ニモ一ノ白色帯ヲ存シ縁毛ハ淡黄色ナリ腹部背面ハ暗褐色ニシテ其後半ハ黒色  
ヲ呈セリ體長三分五厘翅ノ開張八分アリ

卵、幼蟲、蛹 前種ト酷似シ兩者判別スルコト困難ナリ

經過習性

未詳ナレドモ略前種ト同ジキガ如シ

加害ノ狀況

前種ニ同ジ

分布

形態前種ニ酷似スルガ故ニ住々兩者ヲ混同スルヲ以テ調査詳カナラズ  
驅除豫防  
凡テ前種ニ同ジ

クハノミノガ

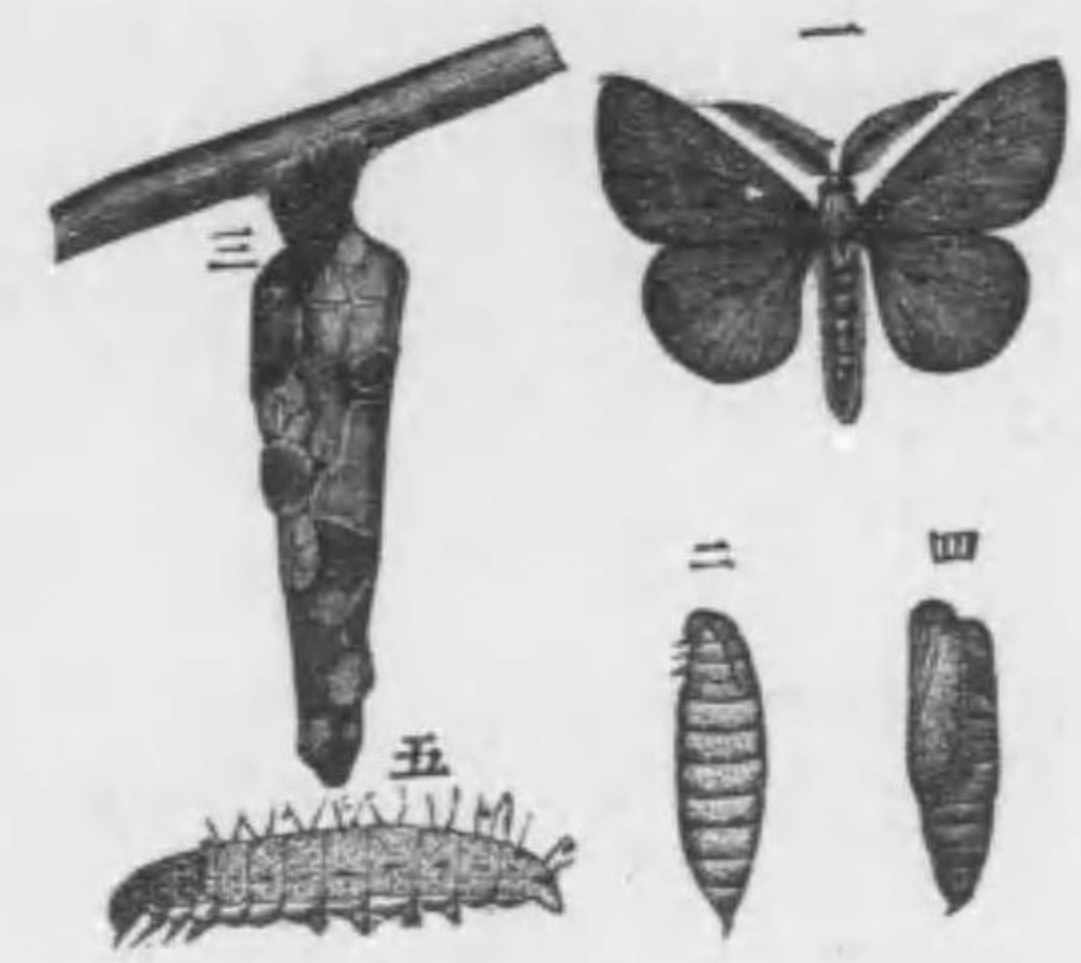
學名 *Pachytelia unicolor* Huhn.

分科 鱗翅目避債蟲科 Psychidae.

形態

成蟲 雌雄著シク狀態ヲ異ニシ雄ハ黒色小形ノ蛾ニシテ複眼ハ黒色觸鬚ハ羽狀  
ヲナス翅ハ着色體軀ト同シク黒色ヲ呈シ斑紋ヲ存セズ體長三分五厘翅ノ開張八  
分アリ雌ハ翅ヲ缺キ淡黄色ノ蛆狀ヲナス頭部ハ小ニシテ黒色ヲ呈シ觸鬚ハ短小  
ニシテ三節ヨリ成リ眼ハ退化シテ一雙ノ小窩トナレリ第一乃至第四環節ノ背面  
ニハ黒色ノ背板ヲ有シ胸脚ハ淡褐色ナリ腹部ハ肥大ナルモ末端ノ環節ハ細尖セ  
クハノミノガ





第五十七圖  
クハノミ  
ノガ(稍擴  
大)著者原  
圖  
一、雌  
二、雌  
三、被囊  
四、雄蛹  
五、幼蟲

リ體長四分乃至五分アリ  
卵 小粒狀ヲナシ淡黄色ヲ呈ス  
幼蟲 頭部ハ黑色ニシテ黄色ノ斑紋ヲ  
存シ胸部ハ暗綠色ニシテ第一乃至第四  
環節ノ背面ニハ頭部ト同色ノ背板ヲ存  
ス胸脚ハ三對存スレトモ腹脚ハ退化シ  
テ僅カニ痕跡ヲ止ムルニ過ギズ氣門ハ  
赤褐色ナリ成熟セルモノハ體長六分餘  
ニ達ス

蛹 雌雄形態ヲ異ニシ雌ハ黄褐色ニシテ圓筒形ヲナシ體軀ノ中央部少シク膨大  
シ胸部ニ翅脚ヲ有セズ體長五分内外アリ雄ハ暗褐色ニシテ體軀ノ前角張リ後  
方ニ向ツテ次第ニ細マリ末端ノ環節ハ鈎狀ヲナセリ頭部胸部及翅ハ判然シ他ノ  
部分ニ比シ稍濃色ナリ體長四分内外アリ  
經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ雌蟲ハ晩秋其被囊内ニ卵ヲ産下シ卵ハ翌春五  
月頃ニ至リテ孵化ス幼蟲ハ樹皮若クハ芽ノ苞皮等ヲ絲縷ヲ以テ綴リ囊狀物ヲ作  
リ此ノ内ニ棲息シテ芽葉ヲ食ス而シテ其成長スルニ從ヒ被囊ノ開口部ニ於テ其  
大サヲ増シ八九月ノ頃ニ至レバ老熟シ絲縷ヲ以テ被囊ノ口ヲ枝條ニ固着シ雄蛾  
ハ其下端ヨリ脱出ス此際蛹皮ノ大半ハ囊外ニ出ヅルヲ常トス雄ハ夜間活潑ニ飛  
翔スレドモ雌ハ被囊内ニ蟄セルヲ以テ一見交尾スルコト能ハザルガ如キ觀アレ  
バ往時ハ專ラ雌ハ受精セザル卵ヲ産下シ之レヨリ幼蟲孵化スルモノト信ジ昆蟲  
類ニ於ケル單爲生殖ノ一例トナシタレトモ其實此等避債蟲ノ多クハ雌雄相交尾  
シ産卵スルモノニシテ其方法ハ雄先ヅ雌ノ被囊上ニ静止シ長キ交尾器ヲ挺出シ  
テ此ヲ被囊ノ排泄口ニ挿入シ交尾ヲナスモノトス  
加害ノ狀況  
本種ハ其被囊ノ材料トシテ樹皮ヲ嚙ミ其食トシテ芽葉ヲ害スレトモ其發生甚シ  
カラザルト食慾貪ナラザルトヲ以テ著シキ損害ヲ與ヘタルコトナシ  
驅除豫防  
クハノミノガ



イラムシガ  
一、冬期枝條ニ附着セル被囊ヲ集メ燒棄スベシ

### イラムシガ

學名 *Monema flavescens* Walk

分科 鱗翅目刺蟲蛾科 *Limacodidae*

異名 柿ノ刺蟲

方言 オクズ(青森)

#### 形態

成蟲 頭部ハ小サク複眼ハ圓形ニシテ黑褐色ヲ呈シ觸鬚ハ鞭狀ニシテ黑褐色ヲ帶ビ下唇鬚ハ褐色ヲ呈シ頭部ノ前方ニ突出ス胸部及翅ハ黄褐色ニシテ前翅ニハ二個ノ黑褐色ノ斑點及翅尖ヨリ起ル二條ノ褐色條紋アリ此他翅面ニハ數多ノ黑褐色細點ヲ散布ス後翅ニハ外縁ニ近ク淡褐色ノ橫線アリ脚ハ褐色ナレモト腰節及大腿節ハ赤色ヲ帶ブ腹部ハ肥大シ黄褐色ヲ呈ス雌ハ體長五分五厘翅ノ開張一寸三分雄ハ體長五分翅ノ開張一寸一分アリ



第五十八圖

イラムシ

ガ(自然大)

(著者原圖)

一、成蟲

二、幼蟲

卵 扁平ナル卵形ニシテ長サ三厘アリ淡黄色ヲ呈スレモト孵化前ニ至レバ赤褐色ニ變ズ

幼蟲 頭部ハ小ニシテ黄褐色ヲ呈シ第一環節ノ下面ニ隠ル第一環節背面ニハ黑褐色ノ

斑紋一對アリ第二環節ヨリ以下各環節ニ於

テハ背面ニ二個側面ニ各一個ノ突起ヲ有シ之レヨリ黑色ノ小刺ヲ生ズ而シテ第三第四及第十環節ニ於ケル突起ハ時ニ大ニシテ其第三環節ノ背面ニ存スル突起ノ間ニハ黄色ノ橫線ヲ存ス第二第四第八及第九ノ各環節ハ紫褐色ニシテ青藍色ヲ混ジタル部分多ク尙第十環節ノ側面ニハ長形ノ斑紋アリテ同ジク青藍色ヲ混ズ第十一環節ニハ慈姑狀ノ斑紋アリテ末端環節ニハ八個ノ黑褐色ノ小點ヲ存シ脚ハ胸脚ヨク發達スルモ腹脚ハ退化セリ充分成長セルモノハ體長八分五厘ニ達ス  
蛹 肥大ニシテ地色ハ淡黄褐色ナレトモ腹部ニ於ケル各環節ノ接線ハ褐色ナリ  
體長五分内外ナリ

イラムシガ



イラムシガ

經過習性

一年二回ノ世代ヲ營ムモノニシテ幼蟲ハ繭内ニアリテ越冬シ翌五月中旬ノ頃其内ニ化蛹ス繭ハ俗ニ雀籠ト稱スルモノニシテ橢圓形ヲナシ地色ハ黒褐色ニシテ白色ノ縦斑アリ其質甚ダ堅ク長サ五分内外アリ六月中旬ニ至リ羽化シ卵ヲ桑葉ノ裏面ニ點々群産ス雌蛾ノ産卵數約百五十粒トス産卵後一週日前後ニシテ孵化シ七月中旬老熟結繭シ八月中旬再ビ發蛾産卵ス八月下旬ニ至レバ幼蟲發生シ九月下旬若クハ十月上旬老熟結繭スルモノナリ幼蟲ハ甚ダシキ有毒ノ刺毛ヲ有ス加害ノ狀況

多カラズ

分布

各地發生スルモノ、如キモ桑樹ニハ著シキ害ヲ加ヘタルコトヲ聞カズ僅カニ青森縣ニ於テ此害ヲ被リタリト云フ  
驅除豫防

一、水ヲ被害樹ニ灌注スルカ或ハ之レヲ動搖セシムレバ幼蟲ハ落下スルモノナレバ之レヲ捕殺スベシ  
一、五六月及冬期ニ於テ枝幹ニ營マレタル繭ヲ採集焼却スベシ

キハラゴマダラヒトリ

學名 *Diacrisia lubricipeda* L.

分科 鱗翅目燈蛾科 *Arctidae*

異名 キマダラヒトリ、ヒメゴマダラヒトリ、キハダゴマフシロタヘ

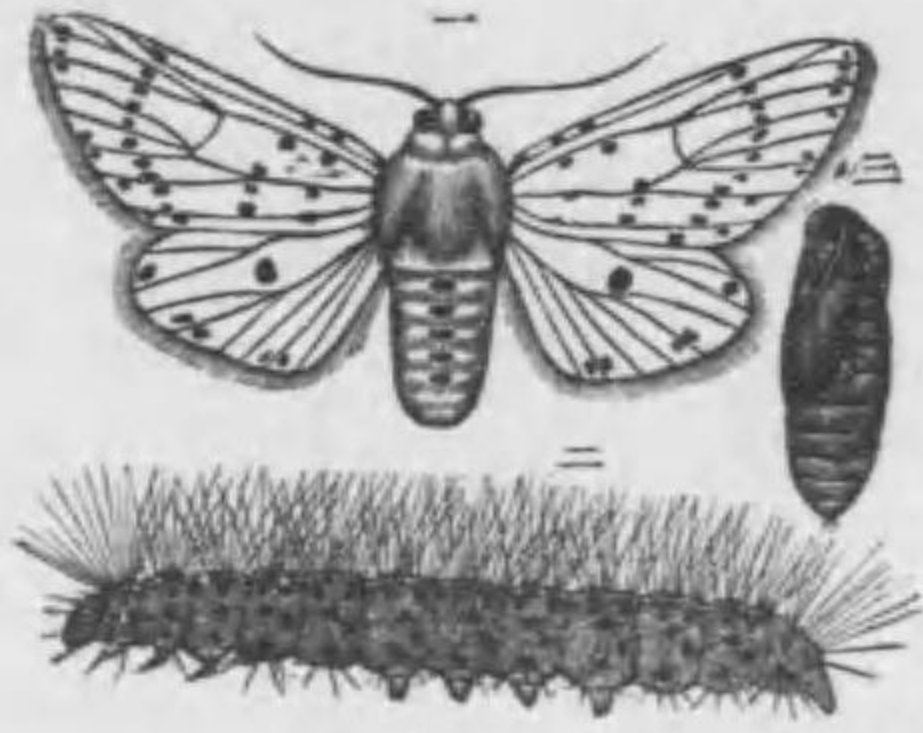
方言 イラ、ヒゲケムシ(愛媛) ゲダ(ガ)青森

形態

成蟲 雌雄着色ヲ異ニセズ體軀ハ純白色ニシテ下唇鬚觸鬚及頸ハ暗褐色ヲ呈ス前翅ハ白色ニシテ前縁ノ基部ニ於テ二個ノ黒點ヲ有シ中央翅脈上ニ於テ屈曲セル點線列アリ又中室ノ上方ニ於テ一個ノ黒點ヲ存シ此外側ニ於テ斜行セル黒點ノ列ヲ有ス此他ニ外縁ニ沿フテ數個ノ黒點アリ後翅モ白色ニシテ中央ニ一個ノ

キハラゴマダラヒトリ





キハフゴマダラフヒト

第五十九圖

黒點ヲ有シ外縁ニ數個ノ小黑點ヲ存ス脚ニ  
 キハラゴ  
 ハ黒色ノ條紋アリ大腿節ノ上部ハ橙黄色ヲ  
 マダラヒ  
 ナス腹部ノ背面ハ第一環節及末端環節ヲ除  
 トリ(自然  
 大(著者原  
 圖)  
 一、成蟲  
 二、幼蟲  
 三、蛹  
 長五分翅ノ開張一寸三分内外アリ

卵 扁平ナル圓形ニシテ淡黄色ヲ呈シ直徑二厘弱アリ

幼蟲 頭部ハ光澤アル黒褐色ニシテ淡褐色ヲ交ヘ胴部ハ暗褐色ヲ呈ス第一環節  
 ノ硬皮板ハ黒褐色第十二環節ノ硬皮板ハ淡褐色ヲ呈シ背線ハ淡黄色ニシテ明瞭  
 ナリ體軀ノ各環節ニハ十個乃至十六個ノ突起ヲ有シ此突起ヨリハ暗褐色ノ長毛  
 ヲ簇生ス氣門ハ極メテ淡キ褐色ニシテ黒色ノ縁ヲ有ス胸脚ハ黄褐色ニシテ暗褐  
 色紋ヲ散在シ腹脚ノ先端ハ淡色ナリ體長一寸三分ニ達ス

蛹 暗紫褐色ヲ呈シ腹面ハ扁平ニシテ背面ハ隆穹セリ皮膚ニ存セル梨子地狀點

ハ稍大ニ尾端ニハ十本内外ノ短剛毛ヲ存ス體長五分アリ

經過習性

一年二回ノ世代ヲ營ムモノニシテ蛹態ヲ以テ越年スルモノナリ而シテ越冬セル  
 蛹ハ五月下旬羽化シテ桑葉ノ裏面ニ其卵ヲ一層ニ群産ス卵ハ母蛾ノ體毛ヲ以テ  
 蔽ハル、コトナク一雌蛾ノ産卵數ハ四百粒内外ナリトス卵ハ一週間前後ニシテ  
 孵化シ幼蟲ハ桑葉ヲ食トシ成長シ六月下旬ノ頃五回ノ脱皮ヲ經テ老熟シ地表ニ  
 下リ灰色粗薄ノ繭ヲ營ミテ化蛹ス而シテ其幼稚ナル時期ニ於テハ群棲スレトモ  
 成長後ハ個々離散ス七月中旬發蛾産卵シ之レヨリ孵化セル幼蟲ハ九月頃老熟結  
 繭シ蛹ハ此繭内ニ蟄シテ越冬スルモノナリ蛾ハ燈火ヲ慕ヒ襲來スルノ性アリ  
 加害ノ狀況

本種ハ幼稚ナル時期ニ於テハ桑葉ノ裏面ニ群棲シ其頭部ヲ併列シテ葉肉ヲ食害  
 シ其表皮ヲ殘スト雖成長後ハ離散シテ桑葉ヲ蝕害ス而シテ加害ノ時期遅キト其  
 發生甚タシカラザルトニヨリ被害ノ程度大ナラズ尙桑樹ノ他萃樹櫻等ヲモ害  
 ス

キハフゴマダラフヒト



フタスゲヒトリ

分布

各地之レヲ認ムルト雖其發生甚シカラズ愛媛青森兩縣下ニ於テハ此被害アリタルヲ聞ク

驅除豫防

- 一、五月及七月ノ頃桑葉ノ裏面ニ群産セラレタル卵ヲ採集潰殺スベシ
  - 二、幼蟲ノ幼齡ナル群棲時期ニ於テ捕殺スベシ
  - 三、土際ニ營メル繭ヲ採集シ蛹ヲ燒殺スベシ
  - 四、蛾ハ燈火ニ集來スルノ性アルヲ以テ燈火誘殺法ヲ行フベシ
- 天然敵  
蠶蛆 別項參照

### フタスゲヒトリ

學名 *Diacrisia bifasciata* Putl.

分科 鱗翅目燈蛾科 *Arctidae*.

異名 ハラアカフタスゲ

形態

成蟲 雌ハ體軀淡黃褐色ニシテ頭部ハ黑褐色ヲ呈シ下唇鬚ハ基部ハ紅色先端ハ黑色ヲ呈シ顔ノ下部及觸鬚ハ黑色ナリ前翅ハ黃褐色ニシテ翅底ニ近ク前縁ヨリ後縁ノ中央ニ達スル黒斑列アリ又中室端ヨリ前縁ト後縁トヲ結合スル黒斑アリ此黒斑ハ後縁ニ於テハ前記黒斑ト合ス之等ノ黒斑ハ何レモ翅脈ニヨリ横斷セラレ後翅モ黃褐色ニシテ斑紋ヲ有セズ又翅ノ裏面ハ前翅基部ノ大半及後翅ノ外縁ハ赤色ヲ呈ス前脚ノ腰節及大腿節ノ上部ハ特ニ朱色ヲ呈シ大腿節ノ末端脛節及蹠節ハ黒色ヲ呈ス腹部ハ第一環節ト末端環節ヲ除ク各環節ハ橙黃色ヲ帯ビタル赤色ヲ呈シ背線側線及亞側線ニ於テ各一個ノ黒點ヲ縦列ス雄ハ稍小ニシテ前翅ノ斑紋ハ雌ニ比シ幅狭キヲ常トス雌ハ體長七分餘翅ノ開張一寸九分雄ハ體長七分翅ノ開張一寸八分内外アリ

卵 扁平ナル圓形ニシテ淡綠色ヲ呈シ直徑二厘強アリ

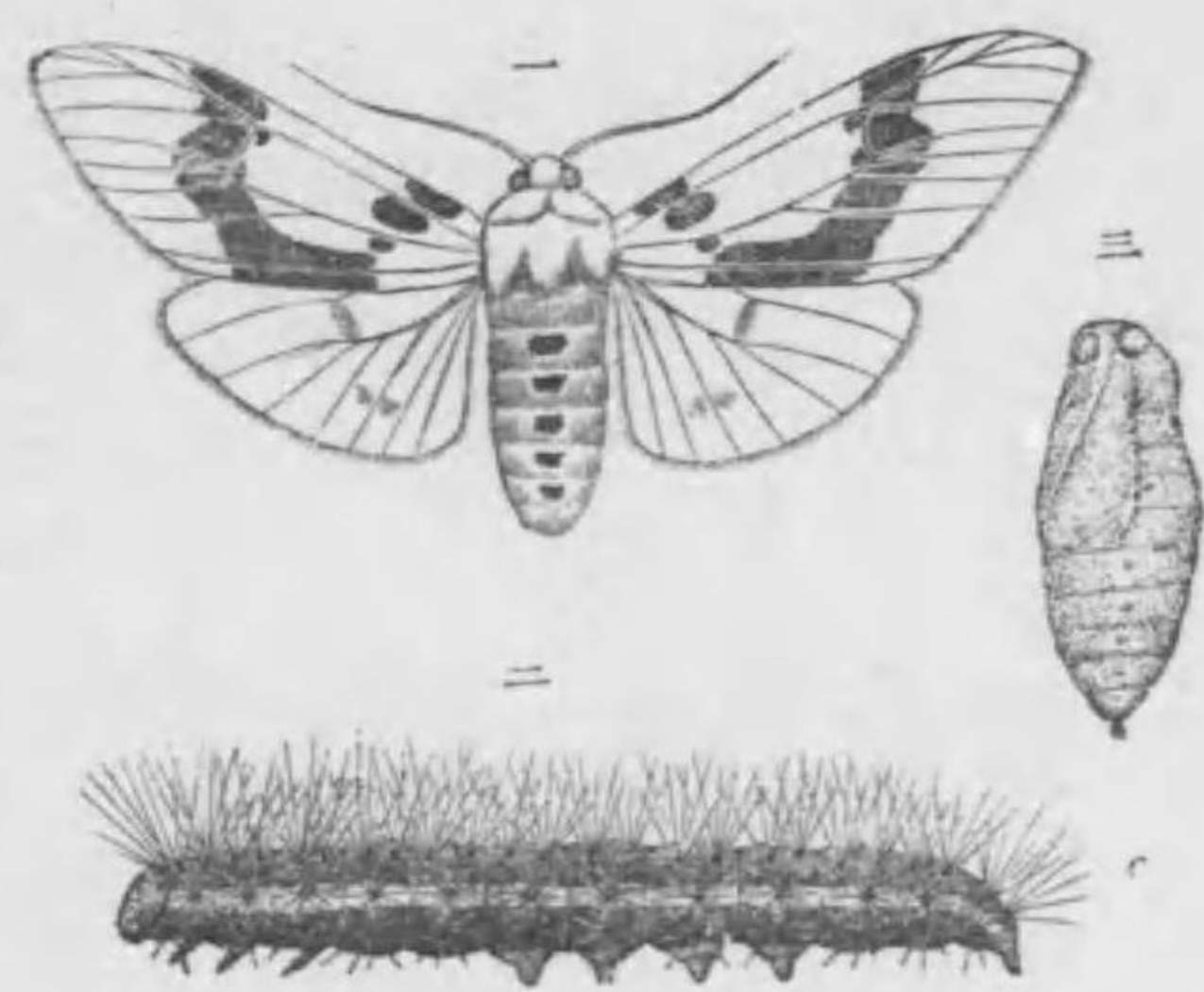
幼蟲 頭部ハ漆黒色ヲ呈シ胴部ハ暗褐色ニシテ第一及第十二環節ニ存スル硬皮

フタスゲヒトリ



板及各環節ノ突起ハ稍濃色ナリ各突起ヨリハ黑色ノ長毛ヲ叢生シ氣門ハ黑色ニシテ其上方ニハ太キ赤褐色ノ帶條ヲ走ラス充分成長シタルモノハ體長一寸五分

フタスガロトリ



第六十圖

フタスデ  
ヒトリ(自  
然大(著者  
原圖)  
一、成蟲  
二、幼蟲  
三、蛹

ニ達ス

蛹 光澤アル暗紫色ニシテ腹面ハ扁平背面ハ緩ク隆起シ全體ニ細カキ梨子地狀ノ刻點ヲ密布ス體ノ末端ニハ十四本内外ノ短剛毛ヲ有ス體長七分アリ

經過習性

一年二回ノ世代ヲ營ムモノニシテ蛹態ヲ以テ越年シ五月下旬乃至六月初旬ノ頃ニ於テ羽化産卵ス卵ハ桑葉ノ裏面ニ一層ニ群産セラレ一雌蛾ノ産卵數ハ六百五十粒内外トス卵ハ産卵後一週間前後ニシテ孵化シ幼蟲ハ幼稚ナル時期ニ於テハ群居ノ性ヲ有スレトモ成長ノ後ハ個々離散ス七月上旬ノ頃六回ノ脱皮ヲ終リ老熟シ地表ニ下リ灰色ノ粗繭ヲ營ミテ

化蛹八月中旬ニ至レバ羽化産卵シ次第第二化幼蟲ノ發生ヲ見九月下旬老熟化蛹スルモノナリ蛾ハ燈光ヲ慕ヒテ集來スルノ性アリ

加害ノ狀況  
幼蟲ノ幼稚ナル時期ハ頭部ヲ揃ヘテ桑葉ノ裏面ニ群居シ葉肉ヲ食害シテ表皮ヲ殘スモ成長後ハ離散シテ加害ヲ逞フス然レトモ其發生加害ノ時期遅キヲ以テ大ナル被害ナシ

分布  
本種ハ著者ガ明治三十九年初メテ西ヶ原附近ノ桑園ニ於テ其加害ヲ認メタルモノニシテ未ダ各地其發生ヲ聞カズ

驅除豫防

- 一、五月及八月ノ頃桑葉ノ裏面ニ群産セラレタル卵塊ヲ採集潰殺スベシ
- 二、幼蟲ハ幼稚期ニ於テ群居スルモノナレバ此時期ニ於テ捕殺スベシ
- 三、土表ニ近ク營マレタル粗繭ヲ採集燒棄シテ蛹ヲ燒殺スベシ
- 四、誘蛾燈ヲ設ケテ蛾ヲ誘殺スベシ

フタスガロトリ



ウススヂモンヒトリ

天然敵

寄生蜂學名未詳) 體長六厘翅ノ開張一分六厘頭胸及腹背ハ黑色ニシテ細キ刻點

ヲ有シ觸鬚ハ十五節ヨリ成リ翅ハ透明ニシテ翅脈ハ暗褐色ナリ脚ハ黃褐色ニ

第六十一圖

クロケム

シ寄生蜂

(擴大)(著者原圖)

シテ中後兩脚ノ脛節ニハ各一個ノ刺ヲ有ス腹部ハ七環節ヨリ成リ雌ハ其末端ニ短キ產卵器ヲ有ス

本種ハ一頭ノ幼蟲ニ九十頭内外寄生シ幼蟲期ニ於テ脱出シ體軀長毛ノ間ニ淡黄色ノ小繭ヲ營ム



ウススヂモンヒトリ

學名 *Dacnusa obliqua* Walk.

分科 鱗翅目燈蛾科 Archidae.

形態

成蟲 雌雄着色ヲ異ニセス體軀ハ淡黃褐色ニシテ下唇鬚ハ紅色ヲ呈シ末端ハ黑色ヲ呈ス顔ノ側面及觸鬚ハ黑色ナリ胸部背面ニ於テ往々黒線ヲ存スルコトアリ

前翅ハ淡黃褐色ニシテ外縁ニ沿フテ黒點ノ列ヲ存シ其裏面ニ於テ斜行セル黒條アリ表面ヨリ透視シ得後翅ハハ稍淡色ニシテ外縁ニ近ク黒點ノ列ヲ有ス脚ハ一般ニ黑色ヲ呈スレトモ前脚ノ腰節及大腿節ノ上部ハ紅色ヲ呈シ腹部ノ背面ハ第一及末端ノ兩環節ヲ除キ他ハ紅色ニシテ背

第六十二圖

ウススヂ

モンヒト

リ(自然大)

(著者原圖)

一、成蟲

二、幼蟲

三、蛹

卵 圓形扁平ニシテ淡綠色ヲ呈シ直徑二厘内外アリ

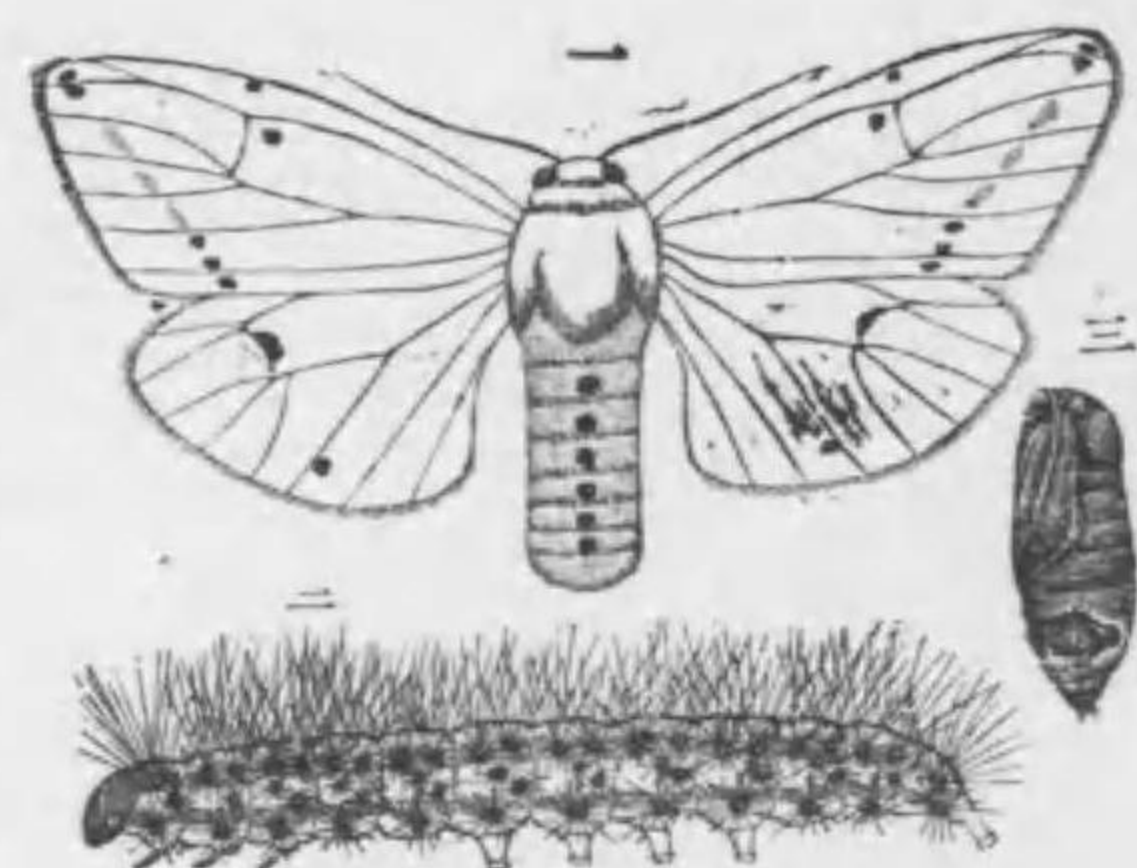
幼蟲 頭部ハ光澤アル褐色ニシテ胸部ハ灰

綠褐色ナリ第一及第十二環節ノ硬皮板ト背

線及氣門上線ハ淡黃褐色ニシテ背線ハ細ク不鮮明ナレトモ氣門上線ハ其幅廣ク

明瞭ナリ各環節ニハ十個乃至十六個ノ突起アリ褐色ノ長毛ヲ簇生セリ氣門ハ白

色ニシテ黑色ノ縁ヲ有シ胸脚ハ褐色腹脚ハ其先端淡黃白色ニシテ爪ニ接スル部



ウススヂモンヒトリ



ウスマケモンヒトリ

分少シク紅色ヲ帶ブ成熟セルモノハ體長一寸四分ニ達ス  
蛹 暗紫褐色ニシテ背部ハ隆穹シ腹面モ稍腫起セリ體ニハ細マキ梨子地狀ノ刻  
點ヲ密布シ體ノ末端ニハ十二本内外ノ短剛毛ヲ有セリ體長六分アリ

經過習性

一年二回ノ世代ヲ營ムモノニシテ蛹態ヲ以テ越年シ翌春五月頃ニ至リ羽化シ桑  
葉ノ裏面ニ其卵ヲ群産ス一雌蛾ノ産卵數ハ八百五十粒内外トス卵ハ産卵後一週  
間前後ニシテ孵化シ幼蟲ハ暫ク群居スレドモ成長スレバ個々離散ス六月下旬ニ  
至レバ五回ノ脱皮ヲ終リ老熟シテ地表ニ降り灰色ノ粗繭ヲ營ミ化蛹ス蛹ハ七月  
下旬乃至八月上旬羽化産卵シ之レヨリ孵化セル幼蟲ハ九月下旬乃至十月上旬ノ  
頃老熟化蛹シテ越年スルモノナリ蛾ハ燈火ヲ慕ヒ飛來スルノ性アリ

加害狀況

幼稚ナル時期ハ桑葉ノ裏面ニ頭部ヲ揃ヘテ群居シ葉肉ヲ食害シ表皮ヲ殘スト雖  
成長後ハ各個離散シテ加害ス然レトモ發生ノ時期遅キヲ以テ被害割合ニ少ナシ  
分布

前種ト同ジク明治三十九年著者ガ西ヶ原附近ニ於テ初メテ桑樹ニ加害スルヲ認  
メタルモノニシテ各地其ノ發生ヲ聞カズ

驅除豫防

- 一、桑葉ノ裏面ニ群産セラレタル卵ヲ採集潰殺スベシ
- 二、幼稚ナル群棲時期ニ於テ幼蟲ヲ捕殺スベシ
- 三、土際ニ營マレタル粗繭ヲ採集燒棄シテ蛹ヲ燒殺スベシ
- 四、誘蛾燈ヲ設ケテ蛾ヲ誘殺スベシ

### アカハラヒトリ

學名 *Diacrisia subearnea* Walk.

分科 鱗翅目燈蛾科 Arctiidae.

異名 桑ノ赤帖蠹蛾 ハラアカシロタヘ オビヒトリ

方言 アカケムシ(佐賀) ケムシ(長野)

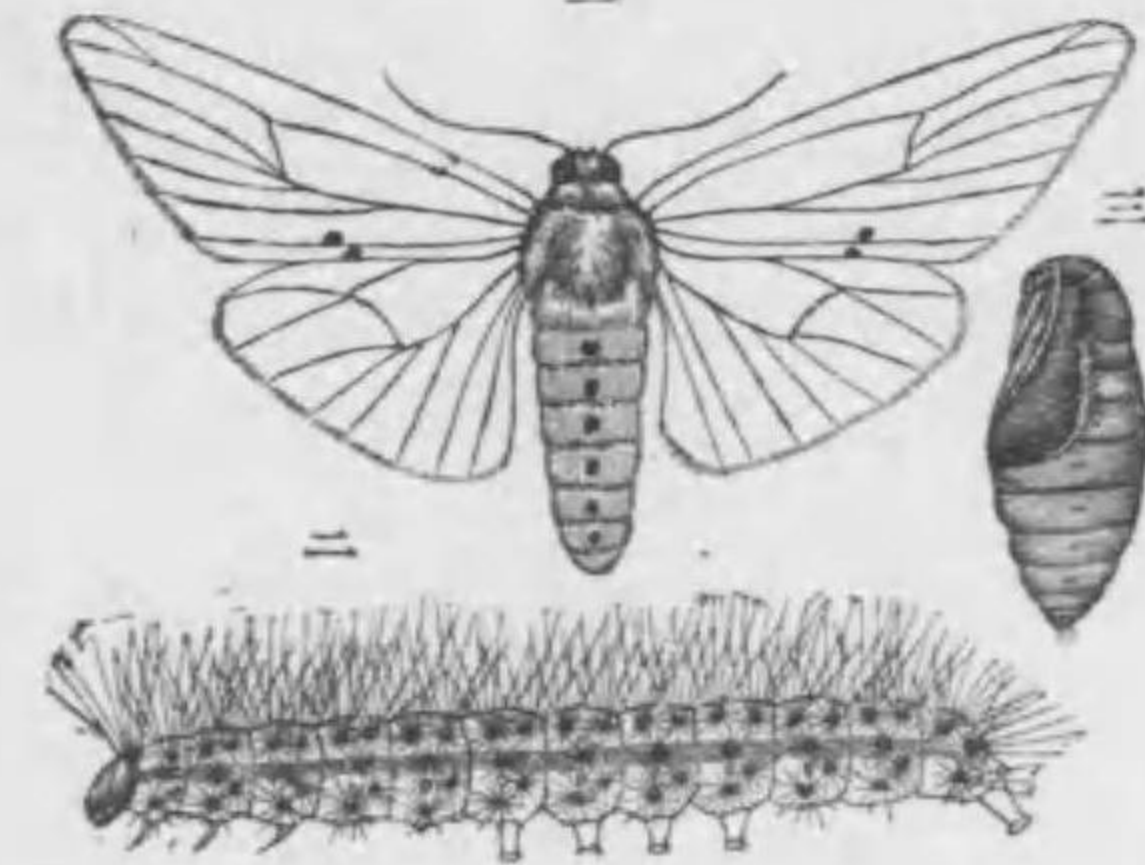
形態

アカハラヒトリ



アカハラヒトリ

成蟲 雌ハ體軀淡黃白色ヲ呈シヨク肥大シ頭部ハ小ニシテ複眼ハ黑色觸鬚ハ細長ク黑色ヲ呈シ下唇鬚ハ紅色ニシテ末端黑色ヲ呈ス前翅ハ淡黃色ニシテ第一脈上及中室上角ニ各一個ノ黑點ヲ有ス後翅ハ前翅ト同色ニシテ斑點ナシ前脚腰節ノ側面及ビ大腿節ノ上面ハ紅色ヲ呈シ脛節蹠節ハ黑色ナリ腹部背面ハ第一環節及末端環節ヲ除ク他ノ環節ハ紅色ニシテ背線側線及亞側線ノ位置ニ於テ每節各一個ノ黑點ヲ縱列ス



第六十三圖

アカハラ

ヒトリ

(著者原圖)

- 一、成蟲
- 二、幼蟲
- 三、蛹

雄ハ雌ヨリ稍小ニシテ春期發生ノモノハ着色斑紋等雌蛾ト異ナラザレトモ夏期發生ノモノニアリテハ其後翅ノ裏面淡紅色ヲ呈シ翅底ニ向ツテ漸々薄ラグラ常トス卵 扁平ナル圓形ニシテ淡綠色ヲ呈シ直徑二厘内外アリ  
幼蟲 頭部ハ漆黑色ヲ呈シ胴部ハ淡黃褐色ヲナシ第一環節ノ硬皮板ハ淡褐色ニシ

テ黑紋ヲ交ヘ第十二環節ノ硬皮板ハ淡黃褐色ナリ背線ハ其着色地色ト異ナラザルヲ以テ認知スルコト困難ナリ亞背線ハ暗綠色ヲ呈シ氣門線ノ位置ニ於テモ同色ノ太キ帶條アリ腹面ハ暗綠色ニシテ其正中ニ淡色ノ線ヲ有ス體軀各環節ニハ十個乃至十六個ノ突起ヲ有シ此ノ突起ヨリハ數個ノ赤褐色長毛ヲ叢生ス氣門ハ淡黃褐色ニシテ黑色ノ線ヲ有シ胸脚ハ淡黑色ヲ呈シ腹脚ノ先端ハ暗色ナリ成熟セルモノハ體長一寸七分ニ達ス  
蛹 圓筒形ニシテ尾端細ク光澤アル暗紫褐色ヲ呈シ全體梨子地狀ノ細點アリ腹面ハ扁平ニシテ背面ハ稍隆穹シ尾端ニハ普通十二本ノ短剛毛ヲ有ス體長六分餘アリ

經過習性

一年二回ノ世代ヲ營ムモノニシテ蛹態ヲ以テ越年スルモノナリ越冬セル蛹ハ五月頃ニ至リ羽化シ桑葉ノ裏面ニ其卵ヲ一層ニ群産ス一雌蛾ノ産卵數ハ四百粒内外ナリ卵ハ一週間前後ニシテ孵化シ幼蟲ハ幼稚ナル時期ハ群棲スレトモ成長スレバ個々離散ス六月下旬ニ至リ五回ノ脱皮ヲ終リタル後老熟シ地表ニ下リ灰色

アカハラヒトリ



アカハラヒトリ

ノ粗繭ヲ營ミテ化蛹ス七八月ノ頃之レヨリ發蛾産卵シ之レヨリ孵化セル第二化ノ幼蟲ハ十月上中旬ノ頃老熟化蛹シテ其儘越冬スルモノナリ蛾ハ燈火ヲ慕ヒ飛來スルノ性アリ

加害ノ狀況

幼稚ナル時期ニ於テハ桑葉ノ裏面ニ頭部ヲ揃ヘテ群居シ葉肉ヲ食シ表皮ヲ殘スト雖モ成長シテ離散スルニ至レバ全葉ヲ食盡ス然レトモ其發生ノ時期遅キガ爲メ被害割合ニ少ナシ

分布

各地多少ノ發生ヲ見ルト雖京都、佐賀、長野ノ諸府縣ニ於テ其被害大ナリトス

驅除豫防

- 一、五月及八月ノ頃桑葉ノ裏面ニ群産セラレタル卵ヲ採集潰殺スベシ
- 二、幼蟲ノ群棲スル時期ニ於テ之レヲ捕殺スベシ
- 三、土際ニ近ク營マレタル繭ヲ採集シ蛹ヲ燒殺スベシ
- 四、誘蛾燈ヲ設ケテ蛾ヲ燒殺スベシ

天然敵

寄生蠅(學名未詳) 體長三分四厘翅ノ開張六分體軀ニハ剛毛ヲ多生シ複眼ハ紫褐色顔面ハ銀白色ニシテ縫線ハ黑色ヲ呈シ觸鬚ハ暗灰色ニシテ三節ヨリ成リ第三節ヨリ一本ノ長毛ヲ生ゼリ下顎鬚ハ黃褐色胸背ハ黃灰色ナレトモ中央ハ暗色ヲ呈シ四個ノ縱條ヲ存スレトモ明瞭ナラズ翅ハ透明ニシテ灰色ヲ帶ビ鱗片ハ灰黃色脚ハ黑色ナリ腹部ハ四節ヨリ成リ卵圓形ヲナシ腹背ハ灰黃色ニシテ少シク褐色ヲ帶ビ正中ニハ灰黑色ノ線ヲ有ス

本種ハ幼蟲ノ老熟セル頃若クハ結繭ヲ初メタル頃脱出シ土中ニ潛入シテ化蛹ス

寄生蜂(學名未詳) フタスデヒトリノ寄生蜂ニ同シ(同條参照)

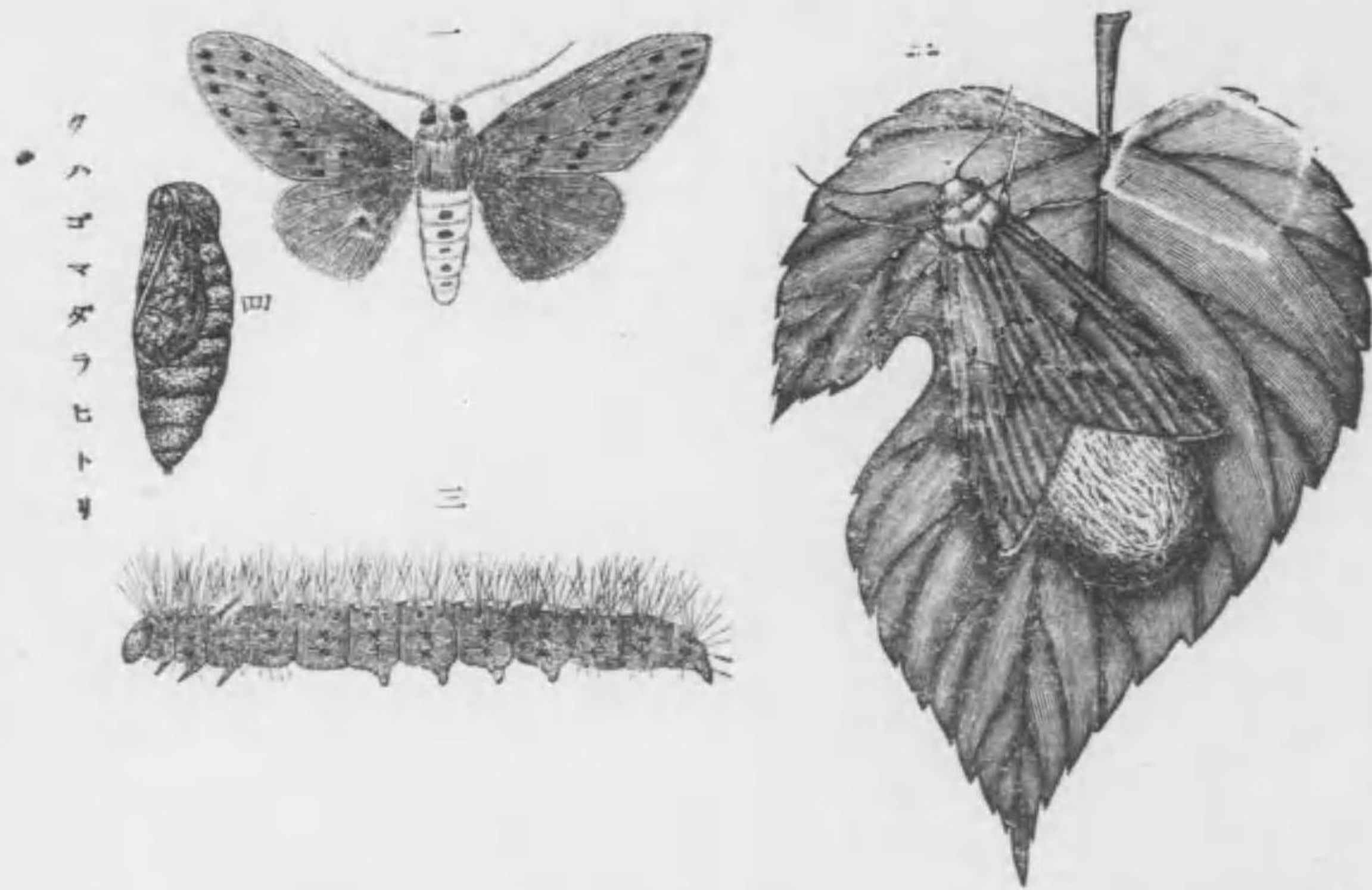
クハゴマダラヒトリ

學名 Diacrisia imparilis Butl.

分科 鱗翅目燈蛾科 Arctiidae

クハゴマダラヒトリ





第 四 十 六 圖 一 雄 二 卵 三 幼 蟲 四 蛹  
 (圖 原 著 者 大 然 自) リ ト ヒ ラ ダ マ ゴ ハ ク

シ 頸 ハ 橙 黃 色 ヲ 呈 ス 前 翅 ハ 黑 褐 色  
 ニ シ テ 翅 底 ニ 於 テ 黑 點 ヲ 有 シ 中 央  
 ニ ハ 前 緣 ヨ リ 後 緣 ニ 走 ル 黑 點 列 ア  
 リ 此 外 側 ニ モ 更 ニ 黑 點 列 ヲ 有 ス 後  
 翅 ハ 黑 褐 色 ニ シ テ 外 緣 ニ 不 鮮 明 ナ  
 ル 點 紋 ヲ 有 ス 腹 部 ハ 橙 黃 色 ニ シ テ  
 第 一 及 ビ 末 端 環 節 以 外 ノ 環 節 ニ ハ  
 背 線 及 ビ 側 線 ノ 位 置 ニ 於 テ 各 一 個  
 ノ 黑 點 ヲ 縱 列 ス 雌 ハ 體 長 六 分 八 厘  
 翅 ノ 開 張 一 寸 九 分 雄 ハ 體 長 六 分 翅  
 ノ 開 張 一 寸 六 分 五 厘 ア リ  
 卵 扁 平 ナ ル 圓 形 ニ シ テ 淡 黃 色 ヲ  
 呈 シ 直 徑 一 厘 弱 ア リ  
 幼 蟲 頭 部 ハ 淡 黑 色 ヲ 呈 シ 胸 部 ハ

形 態

成 蟲 雌 雄 着 色 及 大 サ ヲ 異 ニ シ 雌 ハ 體 軀 帶 黃 白 色 ニ シ テ 觸 鬚 及 下 唇 鬚 ノ 末 端 ハ  
 黑 色 頸 片 ノ 周 緣 ハ 橙 黃 色 ヲ 呈 シ 肩 片 ハ 多 ク ノ 場 合 ニ 於 テ 黑 點 ヲ 有 ス 前 翅 ハ 白 色  
 ニ シ テ 之 レ ニ 數 個 ノ 點 紋 ヲ 有 ス 而 シ テ 其 點 紋 ハ 個 體 ニ ヨ リ 屢 ヲ 異 ニ ス レ  
 ト モ 中 央 ニ ハ 前 緣 ヨ リ 後 緣 ニ 達 ス ル 褐 色 ノ 點 列 ア リ 此 ノ 内 方 更 ニ 數 多 ノ 點 紋 ヲ  
 有 ス レ ト モ 時 ニ 判 然 セ ザ ル コ ト ア リ 腹 部 ノ 背 面 ハ 第 一 環 節 ハ 白 色 第 二 乃 至 第 五  
 環 節 ハ 橙 黃 色 ヲ 呈 シ 背 線 及 側 線 ニ 各 一 個 ノ 黑 點 ヲ 縱 列 シ 第 六 第 七 ノ 二 環 節 ニ ハ  
 淡 黃 色 ノ 毛 ヲ 密 生 セ リ  
 雄 ハ 體 軀 暗 褐 色 ニ シ テ 下 唇 鬚 ノ 末 端 及 觸 鬚 ハ 黑 色 ヲ 呈 シ 頸 片 ハ 橙 黃 色 ノ 緣 ヲ 有

(青 森)

異 名 ゴ マ フ テ フ ス ム シ テ フ ク ハ ス ム シ オ ス グ ロ シ ロ タ ハ モ  
 ド キ  
 方 言 ス ム シ ゴ マ ダ ラ ケ ム シ ケ ム シ ク ロ ケ ム シ (長 野) ゴ マ ケ  
 ム シ (福 島) コ ー ジ ユ ー (京 都) イ ラ (高 知) ヲ コ セ (大 分) ゲ ダ ガ

ク ハ ゴ マ ダ ラ ヒ ト リ



クハゴマダラヒトリ

濃淡アル暗灰色ヲ呈ス背線ハ帶黃白色ノ點紋列ヨリ成リ氣門ハ漆黑色ヲ呈ス氣門上下ノ兩線ハ細キ點紋ヲ以テ顯ハレ腹部正中線ニ於テモ同色ノ一線ヲ存ス前後ノ硬皮板ハ鑲光アル濃藍色ヲ呈シ各環節ニハ十個乃至十六個ノ突起ヲ有ス突起ハ多クハ黃褐色ヲ呈スレトモ第八環節ノ氣門上及第六乃至第九環節ノ側部ニ位セル各二對ノ突起並ニ第十乃至第十二環節ノ腹面ニ於ケル多數ノ突起ハ概ネ鑲光アル濃藍色ヲ呈シ第八及第九環節ノ亞背線及氣門上線ニ於ケル各突起モ亦濃藍色ヲ呈スルコトアリ此等各突起ヨリハ數多ノ長毛ヲ簇生シ毛ハ概シテ黒色ナレトモ體ノ前後環節ノ背面及各環節ノ側面ニ於テ白色毛ヲ混ヘタリ胸脚ハ淡黑色腹脚ノ先端ハ暗紅色ヲ呈ス充分成長スルモノハ體長二寸ニ達ス

蛹 光澤アル暗紫褐色ヲ呈シ細カキ梨子地狀點ヲ密布シ腹面ハ扁平ニ背面ハ稍隆穹セリ體ノ末端ニハ二十本内外ノ鈎狀短剛毛ヲ有ス體長八分内外ナリ

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ幼蟲態ヲ以テ越年シ冬日ハ桑樹ノ根際或ハ結束ノ間ニ絲ヲ張リテ潜伏シ早春ヨリ出デ、新芽嫩葉ヲ害シ五月上旬ノ頃ニ至レ

ハ漸ク成熟シテ土表ニ下リ粗繭ヲ營ミテ化蛹ス八九月ノ頃發蛾シ雌蛾ハ交尾ノ後梢頭ニ近キ桑葉ヲ擇ミ其面ニ卵ヲ群産シ尾端ノ軟毛ヲ以テ之レヲ蔽フ雌蛾ハ産卵後其位置ヲ離ル、コトナク遂ニ斃死スルモノナリ通例一蛾ノ産卵數ハ四千五百粒内外ナリトス幼蟲ハ桑葉ヲ綴リ此内ニ群居シテ食害シ四回乃至五回ノ脱皮ヲ終リタル後十一月頃ヨリ枯葉ノ間若クハ根際ニ降りテ越冬シ翌春尙二三回ノ脱皮ヲ經テ化蛹スルモノナリ蛾ハ夜間燈火ヲ慕ヒテ飛來スルノ性アリ

加害ノ狀況

幼蟲ノ幼齡ナル間ハ桑葉ヲ綴リ其内ニ群居シ表皮及葉脈ヲ殘シテ葉肉ノミヲ食盡スルモノナレバ被害葉ハ綠色ヲ失ヒ白色網狀ヲ呈ス故ニ秋期桑園ニ至レバ一見其被害ヲ認ムルコトヲ得ベシ本種ハ幼蟲ヲ以テ越冬シ早春ヨリ幼芽嫩葉ヲ食害スルヲ以テ被害ハ秋期ヨリ春期ニ於テ著シキモノトス尙ホ本種ハ桑樹ノ他接骨木「イチハツ」ドクダミ其他路傍ノ雜草ヲ食ス又松村博士ニ據レバ萃樹、柳、榆、通草等ヲモ加害スト云フ

分布

クハゴマダラヒトリ



クハコマダラヒトリ

各地殆ド此發生ヲ見ザル所ナシト雖モ福岡、高知、京都、島根、千葉、茨城、滋賀、宮城、山形、巖手、青森ノ諸府縣及北海道ニ於テハ此被害著シ

驅除豫防

一、卵ハ梢頭ニ近キ桑葉ノ表面ニ群産セラレ母體ノ毛ヲ以テ蔽ハル、ヲ以テ一見毛塊ノ狀ヲ呈シ且雌蛾ハ永ク其傍ニ靜止スルヲ以テ搜索ニ便ナレバ之レガ採集ヲナスベシ

二、幼蟲ハ夏期孵化シ三四齡ノ頃迄ハ桑葉ヲ綴リテ其内ニ群棲スルモノナレバ此期間ニ於テ捕殺ニ務ムベシ

三、冬期結束間ノ枯葉若クハ根際ニ於テ冬眠シツ、アル幼蟲ヲ捕殺スベシ

四、蛾ハ燈火ニ飛來スルノ性質アルヲ以テ誘蛾燈ヲ用ヒ誘殺スベシ

天然敵

寄生蠅學名未詳) 體長三分五厘翅ノ開張七分體ニハ剛毛ヲ多生シ複眼ハ暗紫褐色ヲ呈シ顔面ハ暗灰色ナリ觸鬚ハ三節ヨリ成リ黑色ヲ呈シ第三節ニハ一本ノ剛毛ヲ存セリ下顎鬚モ亦黑色ナリ胸背及楯板ハ濃藍色ニシテ其游離縁ハ暗褐

色ヲ呈ス翅ハ透明ニシテ灰色ヲ帶ビ鱗片ハ灰黄色脚ハ黑色ナリ腹部ハ卵形ニシテ四環節ヨリ成リ濃藍色ニシテ背面第二環節ノ左右ニハ暗褐色部ヲ存セリ本種ハ寄主ノ老熟化蛹前後ニ脱出シテ土中ニ蟄入シ化蛹スルモノナリ

蠶蛆 別項參照

多化性蠶蛆 別項參照

### クロバネヒトリ

學名 *Diacrisia infernalis* Butl.

分科 鱗翅目燈蛾科 Archidae.

異名 信濃帖蠶蛾 オスグロシロタヘ

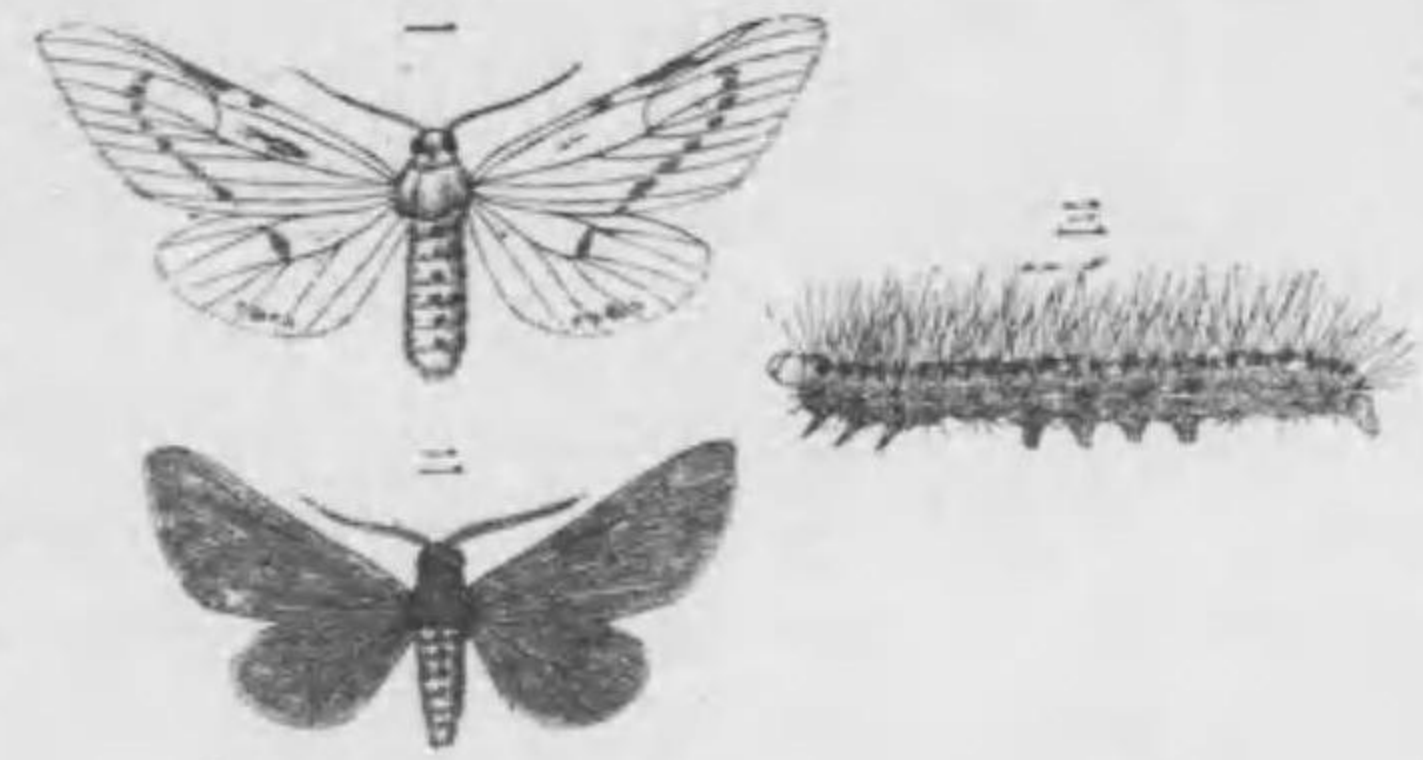
形態

成蟲 雌雄着色ヲ異ニシ雌ハ頭胸部ハ黃白色ニシテ複眼ハ黒ク觸鬚及下唇鬚ハ黒褐色ヲ呈ス前翅ハ黃白色ニシテ翅底ヨリ三分ノ二ノ所ニ前縁ヨリ後縁ニ亘ル黒帶アリ此帶條ハ各翅脈ニヨリ横斷セラル又中室ノ上角ト第五、第六脈トノ間ニ

クロバネヒトリ



クロハネヒトリ



第六十五圖

クロハネヒトリ

(自然大)

(著者原圖)

一、雌  
二、雄  
三、幼蟲

一點アリ後縁ノ中央ニ於テ第一脈ヲ挾ンデ  
 二點アリ後翅ハ中室ノ末端ニ一點臀角及翅  
 尖ニ近ク數個ノ點紋アリ裏面ハ表面ト着色  
 大差ナキモ稍淡色ナリ腹部ハ七環節ヨリ成  
 リヨク肥大シ其基節及末端節ヲ除ク他ノ環  
 節ニ於テハ背面赤色ニシテ背線側線及亞側  
 線上ニ黒點ヲ存シ腹面ハ黄色ナリ雄ハ頭胸  
 部ハ黒褐色ニシテ頸片及肩片ハ赤色ヲ呈シ  
 胸部腹面モ亦赤色ナリ翅ハ前後翅共ニ黒褐  
 色ヲ呈シ裏面ハ稍淡色ナリ腹部ハ背面赤色  
 ニシテ基節及末端節ヲ除ク他ノ環節ニ於テハ背線及側線ニ黒點ヲ存ス此黒點列  
 ハ時ニ連絡シテ線ヲナスコトアリ雌ハ體長三分八厘翅ノ開張一寸三分雄ハ體長  
 三分七厘翅ノ開張一寸一分アリ  
 卵 扁平ナル圓形ニシテ淡黄綠色ヲ呈シ直徑二厘内外アリ

幼蟲 頭部ハ赤褐色ニシテ胸部ハ黒色ヲ呈シ其側面ニハ灰色ノ波狀線ヲ走ラシ  
 且ツ氣門線ニ沿フテハ黄色ノ波狀線ヲ走ラセリ各環節ノ亞背線ニハ二對氣門線  
 氣門上下ノ兩線及腹脚ノ基部ニハ各々一個ノ藍色腫起ヲ存シ之レニ黒白ノ毛ヲ  
 生ズ胸脚ハ暗灰褐色ニシテ腹脚ハ灰褐色ナレドモ其基部ハ灰白色ナリ充分成熟  
 セルモノハ體長八分前後ニ達ス  
 蛹 圓筒形ニシテ暗褐色ヲ呈シ幼蟲體軀ノ突起ヲ存シタル部ニ赤褐色ノ斑紋ヲ  
 存シ尾端ニハ一刺ヲ具フ體長四分内外アリ

經過習性

一年一回ノ世代ヲ營ムモノニシテ幼蟲ヲ以テ越冬シ早春ヨリ加害ヲ初メ六月上  
 中旬ノ頃老熟シ土中ニ入リテ化蛹シ同月下旬乃至七月上旬羽化シ桑葉ノ裏面若  
 クハ枝幹ニ其卵ヲ群産シ腹部末端ノ毛ヲ以テ蔽フ故ニ外觀灰黄色毛塊ノ狀ヲ呈  
 ス一雌蛾ノ産卵數ハ六七百粒内外トス卵ハ産卵後二三週日ヲ經テ孵化シ桑葉ヲ  
 食トシ成長シ其儘落葉ノ下或ハ幹枝ノ裂隙ニ於テ越冬スルモノナリ幼蟲ハ舉動  
 活潑ナレトモ人ノ之レニ近ケバ捲曲落下シテ死狀ヲ擬ス又蛾ハ燈火ヲ慕ヒ飛來

クロハネヒトリ



クロバネヒトリ

スルノ性アリ  
加害ノ狀況

桑樹ノ他、檜、樺、栗、七葉樹、柿、榎、木、柏、白楊、楓、落葉松、麥、午麥、豌豆、葱等ヲ食害ス其加害ノ模樣ハ表皮及葉脈ヲ殘シテ蝕害シ一ヶ處ヲ食盡スレバ群集他ヘ移行シテ加害ス而シテ綠葉ノ缺乏セル場合ニハ樹皮ヲモ食害スルコトアリ

明治三十二年長野縣小縣郡ニ甚タシキ發生加害ヲ見タルモ爾後各地其甚シキ發生ヲ聞カズ

驅除豫防

- 一、七八月頃葉裏若クハ枝幹ニ群産セラレタル卵塊ヲ採集潰殺スベシ
- 二、冬期枯葉若クハ枝幹ノ裂隙等ニ潜伏セル幼蟲ヲ捕殺スベシ
- 三、幼蟲ハ一ヶ所ヲ食盡スルトキハ他ニ移行スルモノナレバ甚シク發生シタル場合ニハ其周圍ニ溝ヲ設ケ之レニ陥落セルモノヲ毎朝潰殺スベシ
- 四、蛾ハ誘蛾燈ヲ點シテ捕殺スベシ

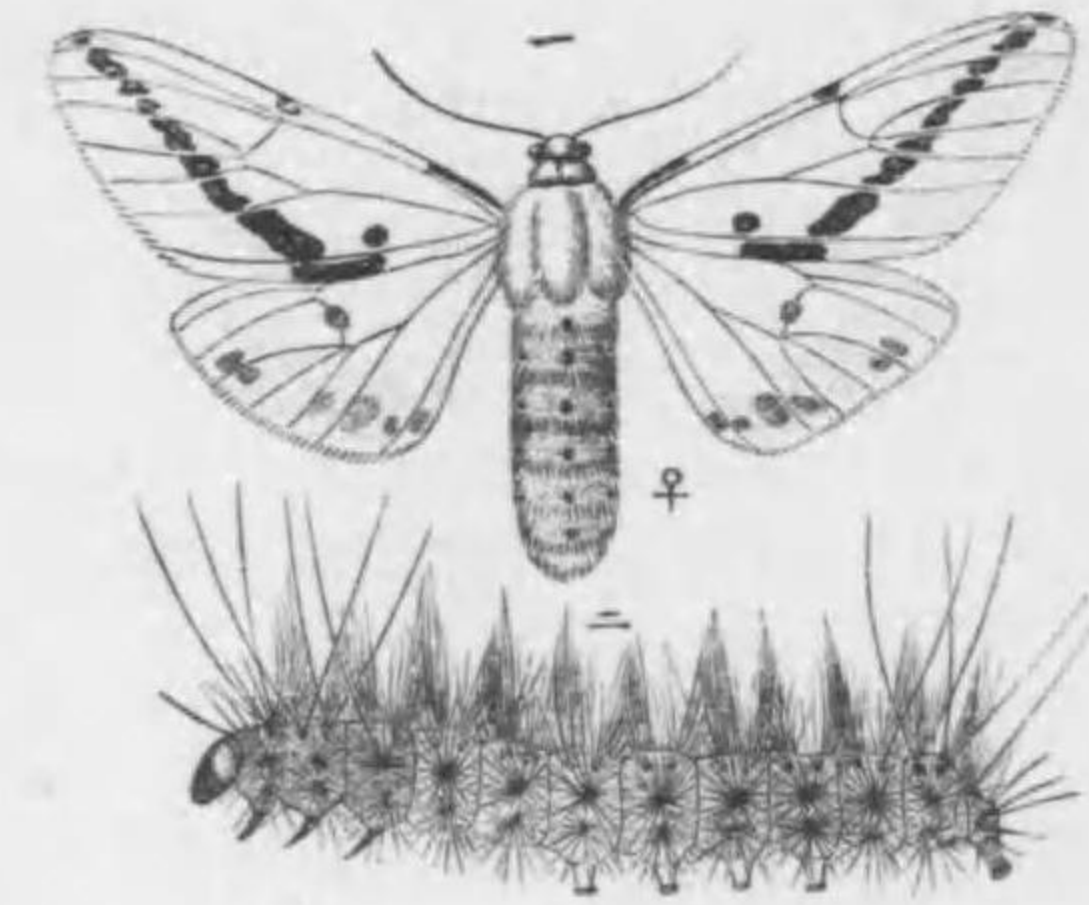
フトスヂモンヒトリ

學名 *Diacrisia obliquizonata* Miyake.

分料 鱗翅目燈蛾科 Archiidae

形態

成蟲 頭及ビ胸部ハ淡キ葉黃色、下唇鬚ハ基部赤色ニシテ末端ハ黒シ觸鬚ハ黒色



フトスヂモンヒトリ

第六十六圖 シ他ハ黒色ナリ前翅ハ前縁ニ於テ二個中室  
フトスヂ モンヒト 末端ニ於テ一個翅ヨリ凡三分ノ一ノ位置ニ  
於テ第一a脈上ニ一個ノ黒點アリ又内縁ノ  
中央ヨリ翅頂ニ向ツテ斜走セル太キ黒帶ア  
リ此帶ハ各翅脈ニヨリテ横斷セラル後翅ハ  
前翅ヨリモ色淡ク中室端ニ一個及外縁ニ接  
シ二三ノ黒點アリ腹背ハ赤色ニシテ背線側

一、成蟲  
二、幼蟲  
(著者原圖)  
リ(自然大)



フトスガモンヒトリ

線亞側線ニ黒點ヲ列ヌ雌雄形色ヲ異ニセザルモ雌ノ觸鬚ハ兩鋸齒狀雄ハ兩櫛齒狀ナルヲ以テ區別スルヲ得ベシ體長雌ハ七分雄ハ六分翅ノ開張雌ハ一寸六分雄ハ一寸五分アリ

幼蟲 頭部ハ黒色ヲ呈シ胸部ハ黒褐色ニシテ各環節ニ於ケル瘤起ハ藍色ナリ之レヨリ發生セル長毛ハ黒褐色ナレドモ體ノ中央部ニ於ケルモノハ黃褐色ナルヲ常トシ且體ノ前後ヨリハ數本ノ長キ白毛ヲ生ゼリ充分成長スルトキハ體長一寸二三分ニ達ス

經過習性

蛹態ヲ以テ越年スルモノナレドモ詳細ハ猶未知ニ屬ス

分布

明治四十一年十月兵庫縣八鹿蠶業學校教諭古屋永昌氏ガ同校ノ桑園ニ於テ發見セラレタルモノニシテ未ダ他ニ發生セルヲ聞カズ

驅除豫防

各種燈蛾類ニ於ケルモノト異ナラズ

### ヒトリガ

學名 *Arctia caja* L.

分科 鱗翅目燈蛾科 *Arctiidae*

異名 オドリコテフ ムクケムシガ ヒラムシ ニシキアカシタバ

ヒトリムシガ

方言 グダガ(青森)

形態

成蟲 大形ナル蛾ニシテ體軀ヨク肥大シ頭部ハ小ニシテ褐色ヲ呈シ複眼ハ黒色觸鬚ハ灰黃色ヲナシ下唇鬚ハ褐色ナリ胸部ハ淡褐色ニシテ頸部ニ赤色帶アリ前翅ハ暗褐色ニシテ白色網狀ノ斑紋アリ後翅ハ赤色ニシテ中央ニ一個外縁ニ四個ノ青光ヲ有スル黒色斑紋アリ脚ハ大腿節ノ上面ニ赤色ノ短毛ヲ有ス腹部ハ背面赤色ニシテ腹面ハ褐色ヲナシ背面ニ於テハ第一環節ヲ除ク他ノ環節ニハ各一個ノ黒色斑點アリ雌ハ體長九分翅ノ開張二寸九分雄ハ體長八分翅ノ開張二寸二分

ヒトリガ